

少子化等に関するアンケート調査
地方移住に関するアンケート調査
将来の進路や仕事に関する意識・希望アンケート調査
—報告書—

平成31年3月

高山市

目 次

1 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 実施概要	1
(3) その他	1
2 少子化等に関する調査結果	2
(1) 回答者の属性	2
(2) 結婚について	8
(3) 出産について	13
(4) 子育てについて	17
(5) ワーク・ライフ・バランスについて	22
(6) 少子化について	27
3 地方移住に関する調査結果	33
(1) 回答者の属性	33
(2) Iターン者・Uターン者の状況と特徴	38
(3) Iターンの状況	40
(4) Uターンの状況	46
(5) 仕事・住居の見つけ方	51
(6) 地域・暮らしについて	60
(7) 移住者増加に向けて	68
4 将来の進路や仕事に関する意識・希望調査結果	70
(1) 回答者の属性	70
(2) 就職希望者の進路について	72
(3) 進学希望者の進路について	74
(4) 希望する仕事の業種や職種	78
(5) 仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方	83
(6) 飛騨地域の企業や職場の認知度等	86
(7) 就職先を検討する際の情報源や就職ガイダンス等への参加意向	88
(8) 住んでいる地域への愛着や住みやすさ	90
(9) 地域の祭り等への参加状況や都会への憧れ	93
(10) 地域の将来や人口減少の実感、必要な取り組み	96
5 考察	99
(1) 結婚・子育ての現状・課題	99
①結婚に関する現状・課題・特徴	99
②子育てに関する現状・課題・特徴	100

(2) 移住・定住に関する現状・課題	101
(3) 高校生の地元への就職意向等の現状・課題	102
① 地元への就職意向	102
② 高校生の地元企業への関心	103
③ 高校生の高山市に対する評価	103

1 調査概要

(1) 調査目的

第八次総合計画の見直し及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状分析など、高山市が今後目指すべき方向性やまちの将来を展望するために、「少子化等」、「地方移住」、「将来の進路や仕事」に関する市民にアンケート調査を実施した。また、平成27年度の「高山市人口ビジョン」及び「高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定時に実施した同様のアンケート調査結果と比較し、経年変化を把握する。

(2) 実施概要

少子化等に関する調査

- ・調査対象：満20歳以上～45歳未満の市民 2,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・実施方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：2018年8月17日～9月3日
- ・回収数及び回収率：665件 33.3%
(前回調査時：689件 (うち無回答1件) 34.5%)

地方移住に関する調査

- ・調査対象：岐阜県外から本市に3年以内に移住した満20歳以上の市民 1,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・実施方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：2018年8月23日～9月10日
- ・回収数及び回収率：301件 (うち無回答1件) 30.1%
(前回調査時：314件 うち無回答1件 31.4%)

将来の進路や仕事に関する意識・希望調査

- ・調査対象：飛騨地域の高校及び特別支援学校高等部に通う本市在住の生徒 (3年生 847人[※])
- ・実施方法：各学校を通じて配布・回収
- ・調査期間：2018年8月27日～10月5日
- ・回収数および回収率：786件 92.8%
(前回調査時：788件)

※平成30年度学校要覧(高校別)の出身中学校別生徒数(住所変更、休・退学等による増減あり)

(3) その他

- ・小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合がある。
- ・アンケートの回答が無かった選択肢(項目)については、集計表及びグラフにおいて除外している場合がある。

2 少子化等に関する調査結果

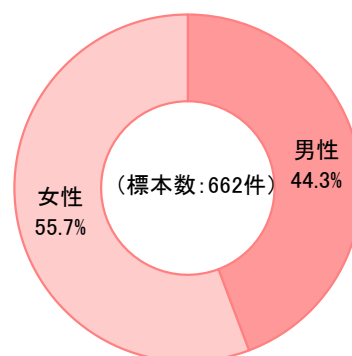
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、「男性」が44.3%、「女性」が55.7%となっている。
- 年代は40～44歳が33.5%で最も高く、次いで35～39歳が25.0%となっている。
- 居住地域は、「高山地域」が64.6%、次いで「国府地域」が10.6%となっている。

図表 1 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	293	44.3
女性	369	55.7
合計	662	100.0

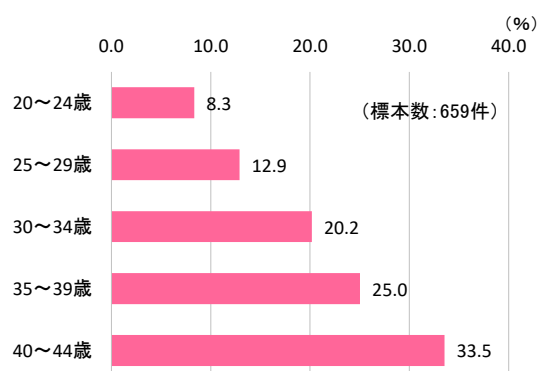
(標本数:662件)



図表 2 年代

	回答数(件)	回答率(%)
20～24歳	55	8.3
25～29歳	85	12.9
30～34歳	133	20.2
35～39歳	165	25.0
40～44歳	221	33.5
合計	659	100.0

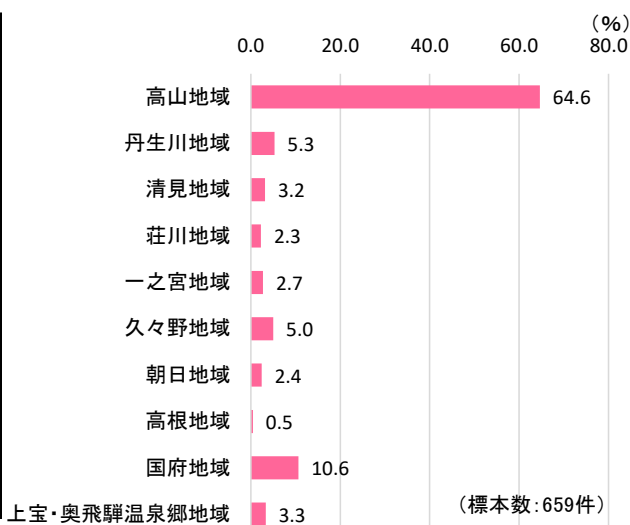
(標本数:659件)



図表 3 居住地域

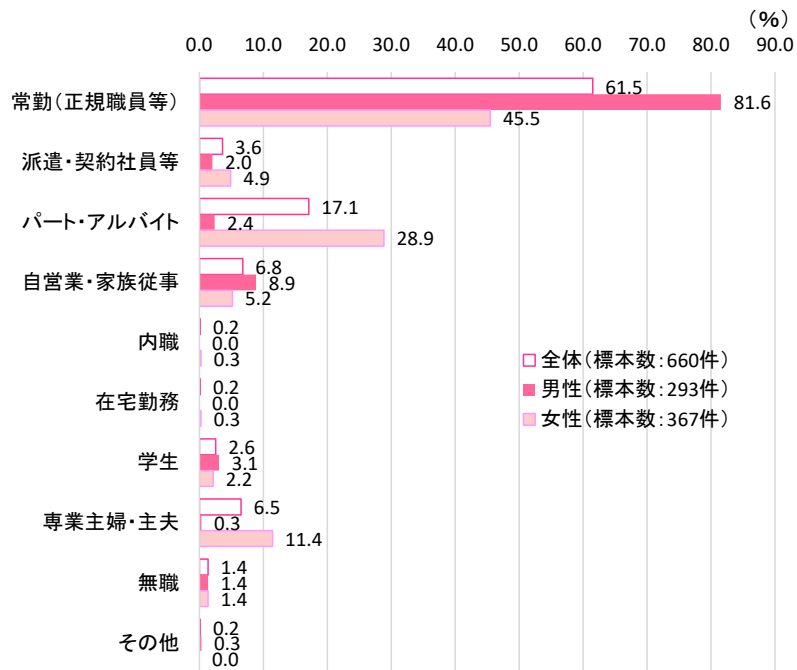
	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	426	64.6
丹生川地域	35	5.3
清見地域	21	3.2
荘川地域	15	2.3
一之宮地域	18	2.7
久々野地域	33	5.0
朝日地域	16	2.4
高根地域	3	0.5
国府地域	70	10.6
上宝・奥飛驒温泉郷地域	22	3.3
合計	659	100.0

(標本数:659件)

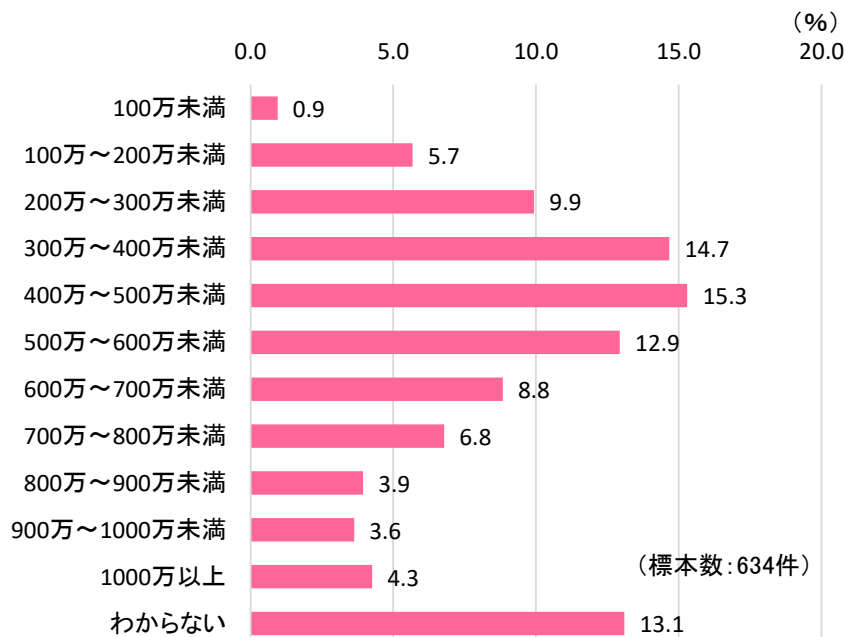


- 就業形態は、「常勤（正規職員等）」が61.5%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が17.1%、「自営業・家族従事」が6.8%の順となっている。
- 性別でみると、「常勤（正規職員等）」は男性が81.6%、女性が45.5%となっており、女性の「パート・アルバイト」の28.9%、「専業主婦・主夫」の11.4%は、男性に比べ比率が高くなっている。
- 世帯収入は、「400～500万未満」が15.3%で最も高く、次いで「300～400万未満」が14.7%、「500～600万未満」が12.9%の順となっている。

図表 4 就業形態



図表 5 世帯収入

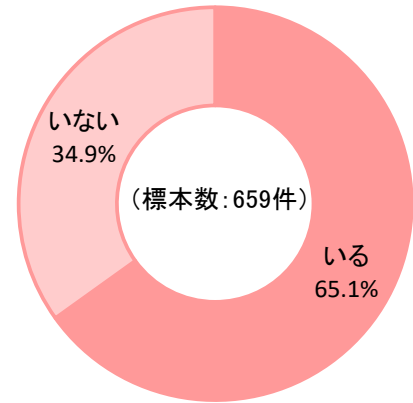


- 回答者の65.1%に配偶者がいる。配偶者の58.0%は「常勤（正規職員等）」として就労している。

図表 6 配偶者有無

	回答数(件)	回答率(%)
いる	429	65.1
いない	230	34.9
合計	659	100.0

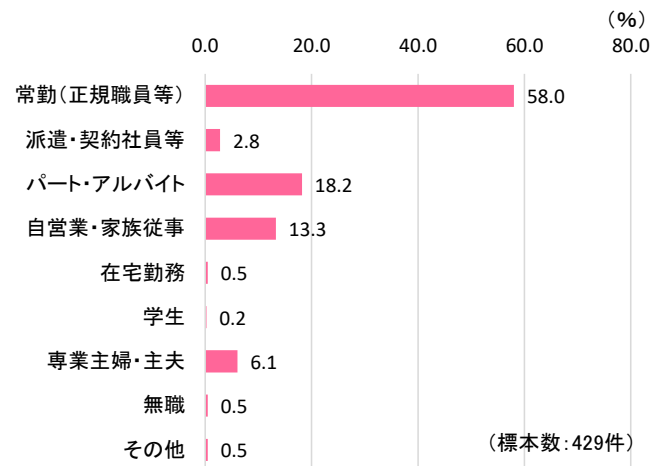
(標本数:659件)



図表 7 配偶者の就業形態

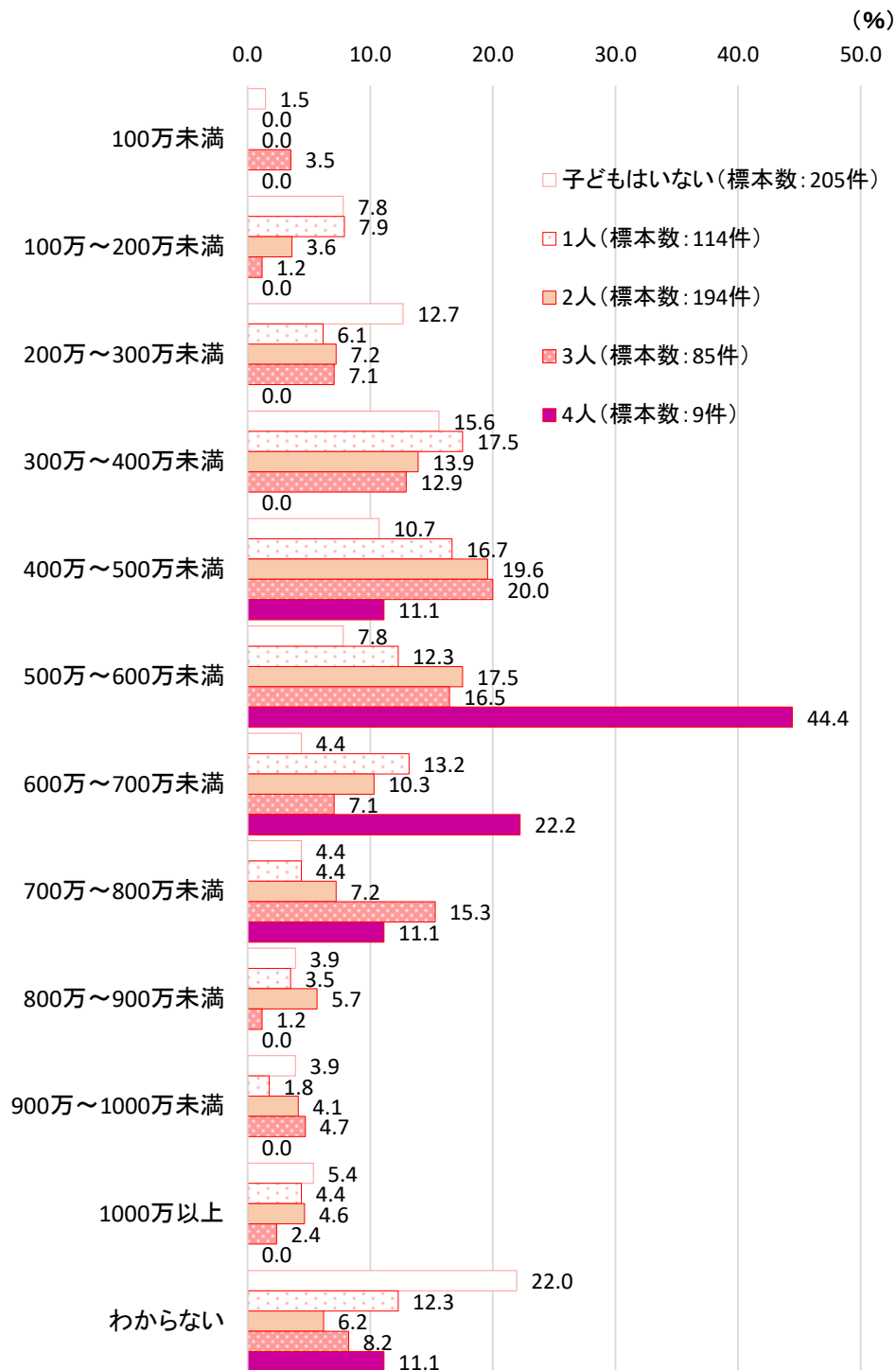
	回答数(件)	回答率(%)
常勤(正規職員等)	249	58.0
派遣・契約社員等	12	2.8
パート・アルバイト	78	18.2
自営業・家族従事	57	13.3
在宅勤務	2	0.5
学生	1	0.2
専業主婦・主夫	26	6.1
無職	2	0.5
その他	2	0.5
合計	429	100.0

(標本数:429件)



- 子どもの人数別の世帯収入は、子どもがいない世帯と子どもがいる世帯で1人の場合は「300万～400万未満」が最も高く、2人、3人の場合は「400万～500万未満」、4人の場合は「500万～600万未満」が最も高くなっている。

図表 8 子どもの人数別の世帯収入

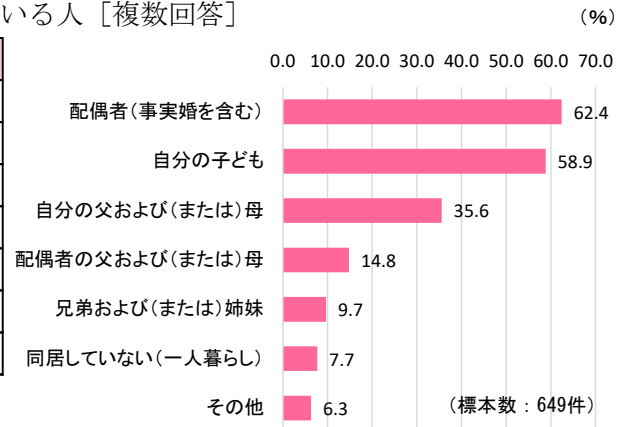


- 一緒に暮らしている人は、「配偶者」、「自分の子ども」、「自分の父および（または）母」の順となっている。
- 一緒に暮らしている子どもの年齢は、「0～2歳児」、「3歳～小学校入学前」、「小学校低学年（1～3年）」がほぼ同数で上位を占めている。

図表 9 一緒に暮らしている人 [複数回答]

	回答数(件)	回答率(%)
配偶者(事実婚を含む)	405	62.4
自分の子ども	382	58.9
自分の父および(または)母	231	35.6
配偶者の父および(または)母	96	14.8
兄弟および(または)姉妹	63	9.7
同居していない(一人暮らし)	50	7.7
その他	41	6.3

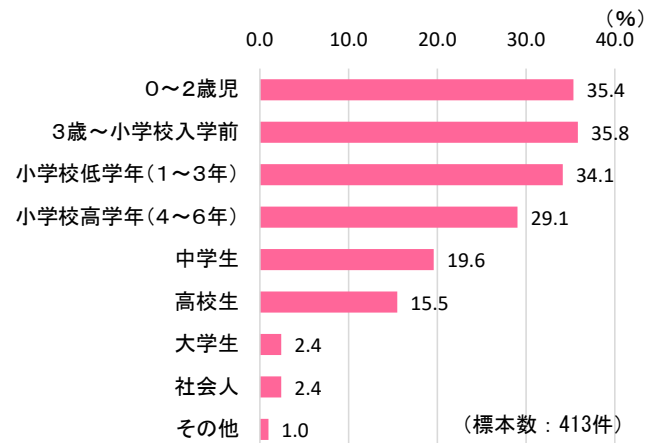
(標本数：649件)



図表 10 一緒に暮らしている子どもの年齢 [複数回答]

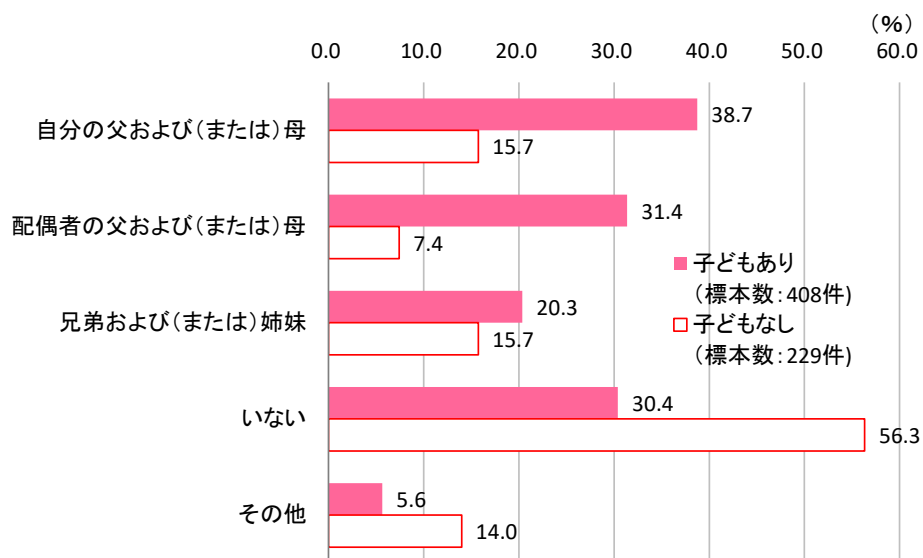
	回答数(件)	回答率(%)
0～2歳児	146	35.4
3歳～小学校入学前	148	35.8
小学校低学年(1～3年)	141	34.1
小学校高学年(4～6年)	120	29.1
中学生	81	19.6
高校生	64	15.5
大学生	10	2.4
社会人	10	2.4
その他	4	1.0

(標本数：413件)



- 近居の親族は、子どもがいる回答者では、「自分の父および（または）母」が38.7%で最も高く、「配偶者の父および（または）母」が31.4%、「いない」が30.4%の順となっている。
- 子どもがいない回答者では、「いない」が56.3%と最も高くなっている。

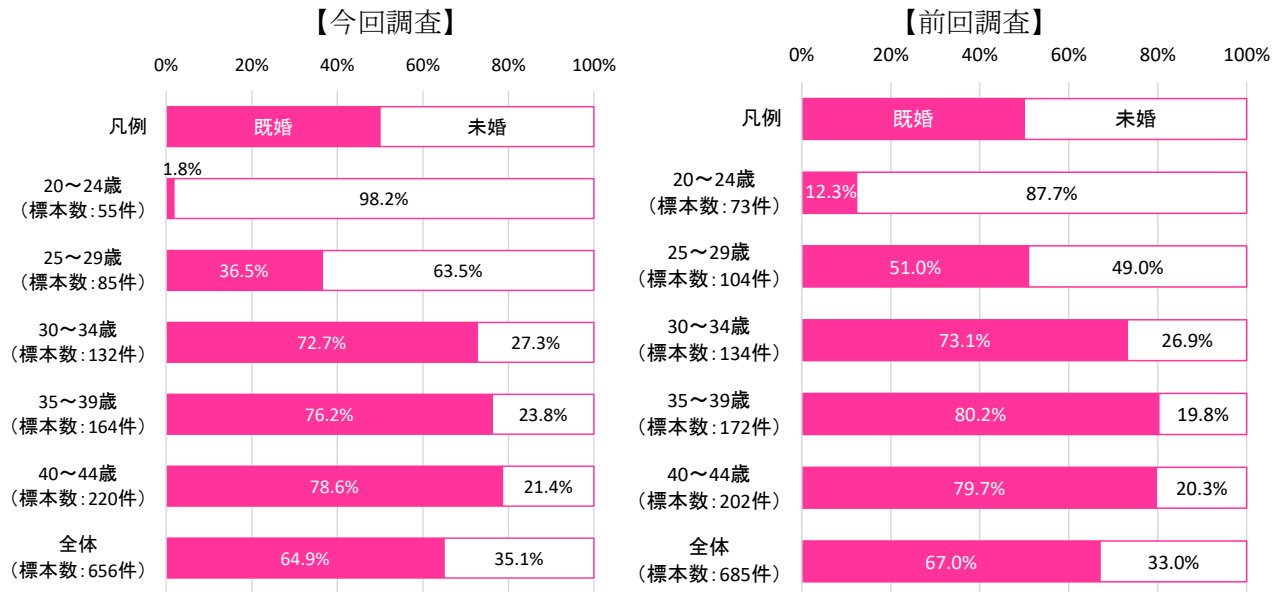
図表 11 近居の親族 [複数回答]



(2) 結婚について

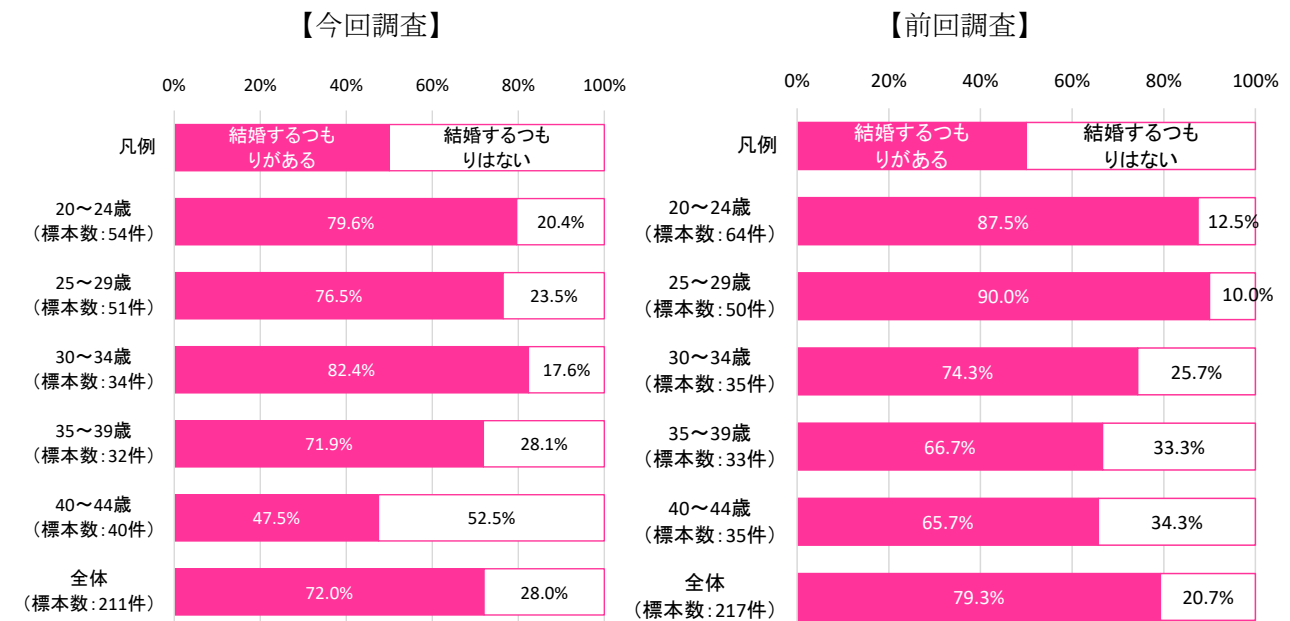
- 年代別の結婚状況は、未婚の割合は、20～24歳は98.2%で最も高く、次いで25～29歳は63.5%となっている。それ以降の年代では2～3割が未婚となっている。前回調査と既婚割合を比較すると20～24歳が10.5ポイント、25～29歳が14.5ポイント減少している。30歳以上でも0.4～4.0ポイント減少しており、全年代において既婚割合が減少している。

図表 12 年代別 婚姻状況



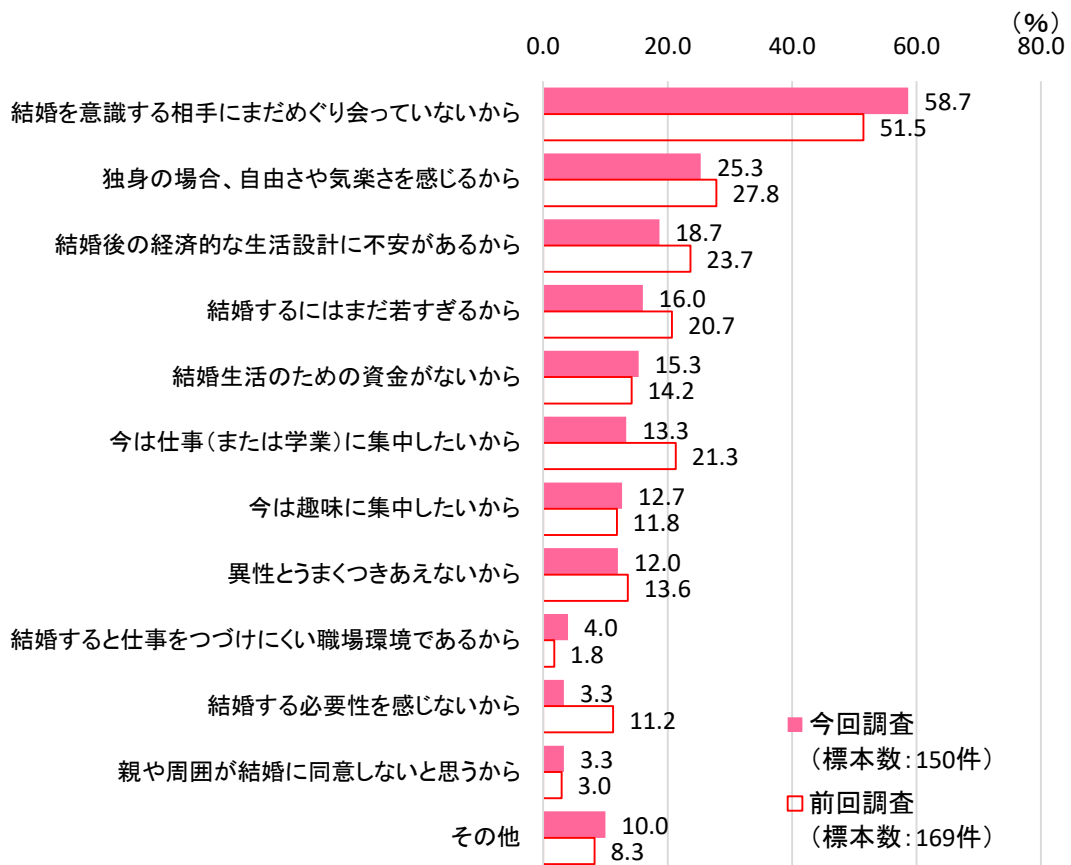
- 未婚者の72.0%が「結婚するつもりがある」と回答している。前回調査と比較すると、全体では結婚の意向が7.3ポイント減少している。中でも20代、40～44歳の結婚の意向が減少しており、25～29歳では13.5ポイント、40～44歳では18.2ポイント減少している。

図表 13 【未婚者】結婚の意向



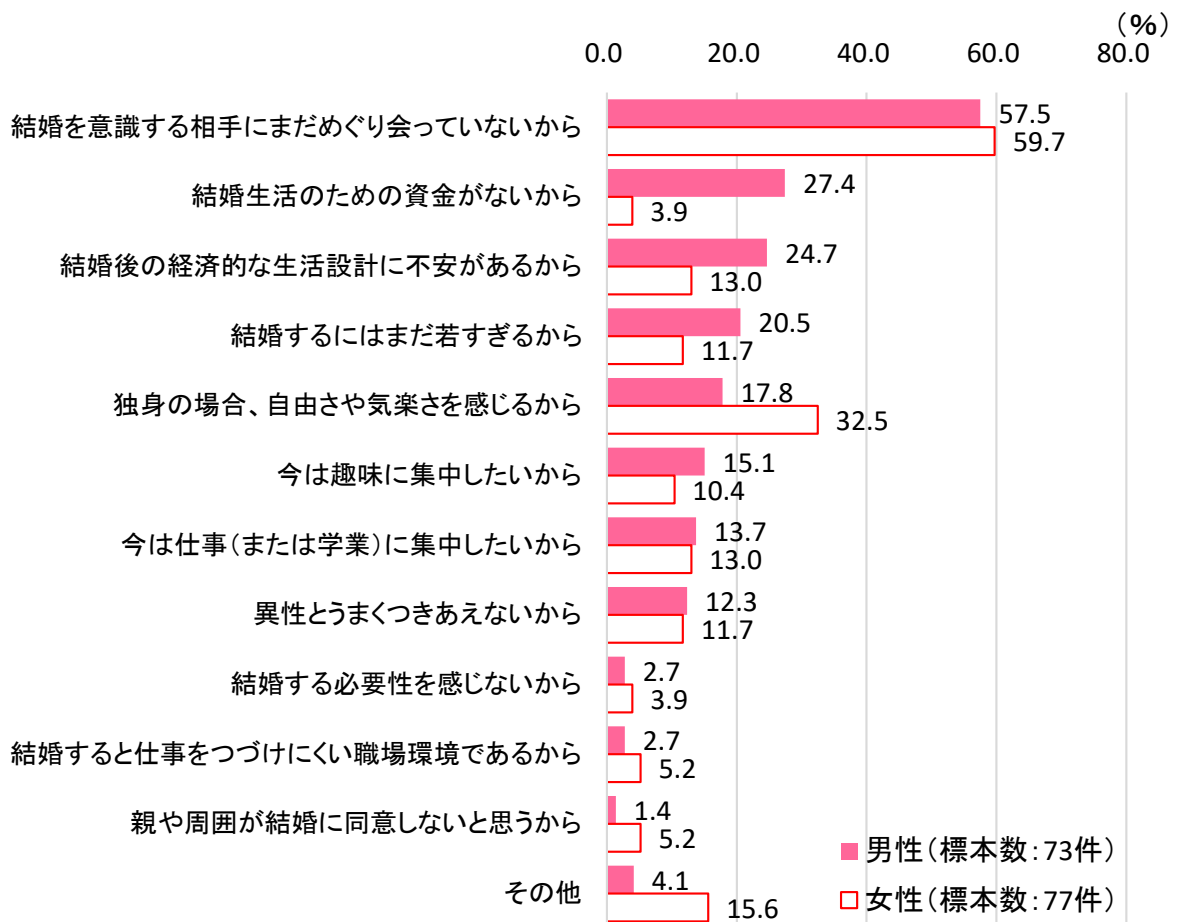
- 独身でいる理由は、「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が最も高くなっており、前回調査よりも7.2ポイント増加している。
- 次いで「独身の場合、自由さや気楽さを感じるから」、「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」の順となっている。
- 前回調査と比較すると、特に「今は仕事（または学業）に集中したいから」、「結婚する必要性を感じないから」が減少している。

図表 14 【未婚者のうち結婚希望者】独身でいる理由 [複数回答]



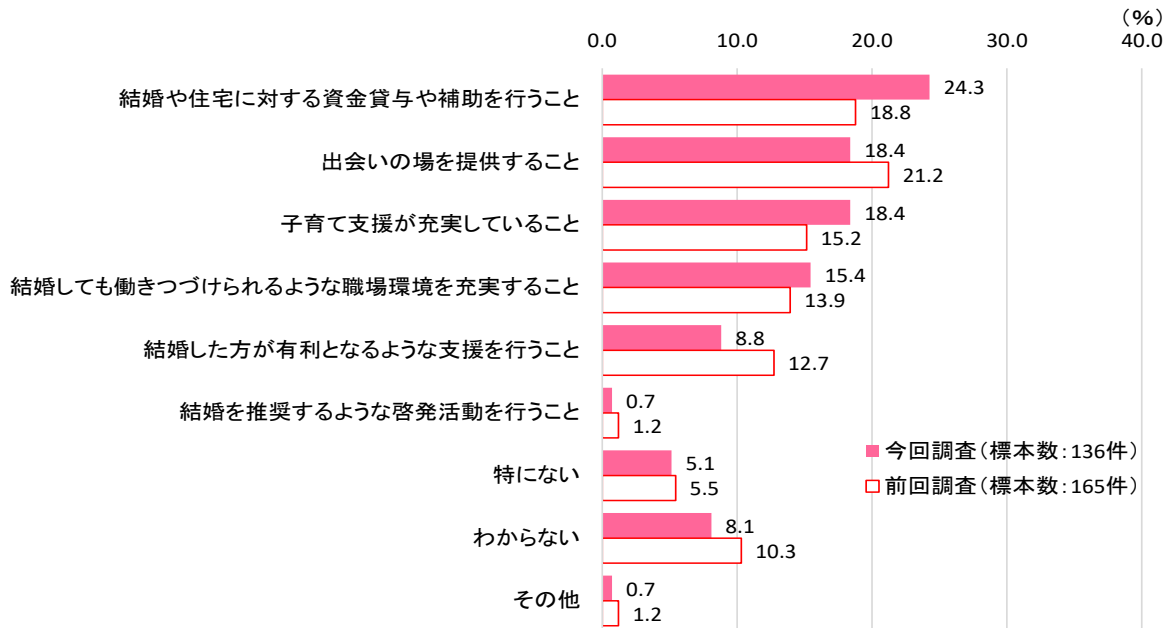
- 性別でみると、男性、女性ともに「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていないから」が最も高くなっている。
- 男性は、「結婚生活のための資金がないから」、「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」が2番目、3番目に高く、経済的不安から結婚をためらっている状況がうかがえる。
- 女性は、「独身の場合、自由さや気楽さを感じるから」が32.5%で2番目に高く、結婚もしたいが、現在の生活も続けたいとの迷いがうかがえる。

図表 15 【未婚者のうち結婚希望者】性別 独身でいる理由

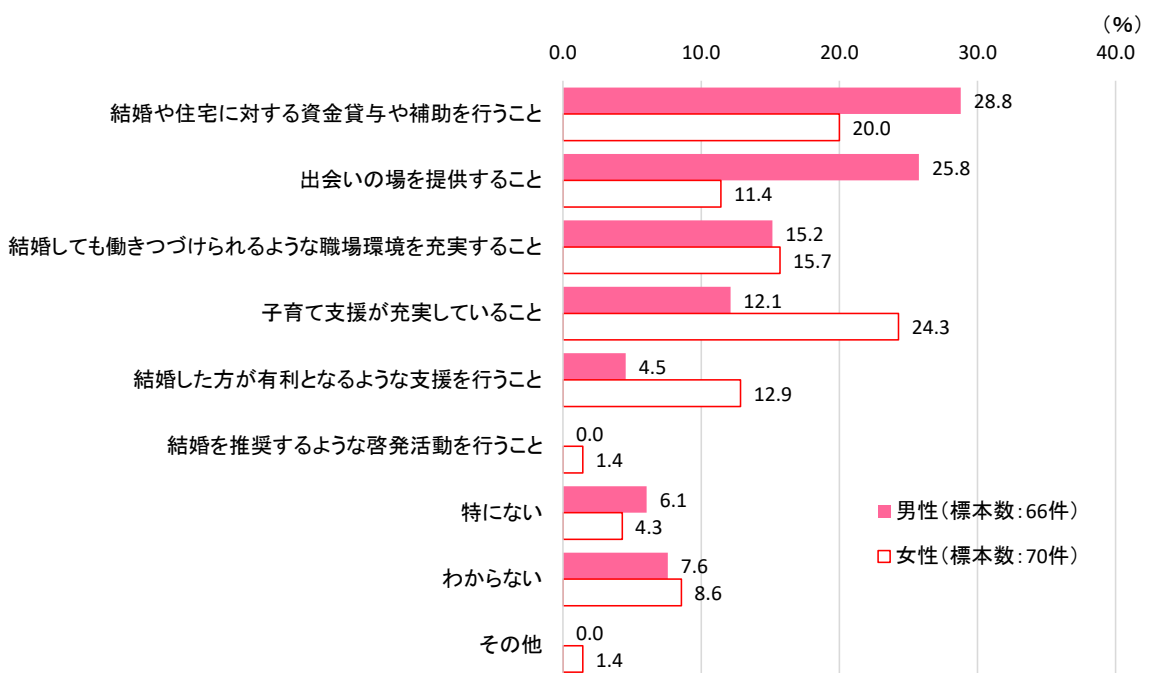


- 結婚希望者が求める支援策は、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」が24.3%で最も高く、前回調査から5.5ポイント増加している。次いで「出会いの場を提供すること」「子育て支援が充実していること」がそれぞれ18.4%となっている。
- 男性は「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」が、女性は「子育て支援が充実していること」がそれぞれ最も高くなっており、男女で傾向が異なっている。また女性は「結婚した方が有利となるような支援を行うこと」が12.9%で男性と比較して8.4ポイント高くなっている。

図表 16 【未婚者のうち結婚希望者】結婚を希望する人への支援策



図表 17 【未婚者のうち結婚希望者】性別 結婚を希望する人への支援策

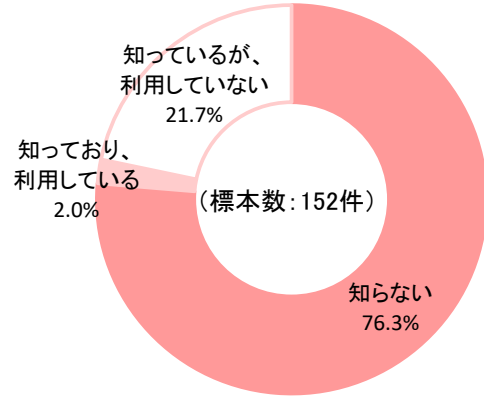


- 高山市が開設している結婚相談所の認知度については、76.3%が「知らない」と回答している。「知っており、利用している」が2.0%、「知っているが、利用していない」が21.7%となっている。
- 結婚ポータルサイトの認知度については、87.9%が「知らない」と回答している。

図表 18 【未婚者】高山市が開設している結婚相談所の認知度

	回答数(件)	回答率(%)
知らない	116	76.3
知っており、利用している	3	2.0
知っているが、利用していない	33	21.7
合計	152	100.0

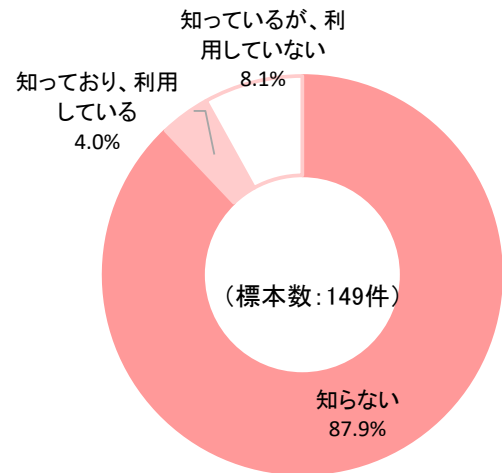
(標本数:152件)



図表 19 【未婚者】高山市が開設している結婚ポータルサイトの認知度

	回答数(件)	回答率(%)
知らない	131	87.9
知っており、利用している	6	4.0
知っているが、利用していない	12	8.1
合計	149	100.0

(標本数:149件)



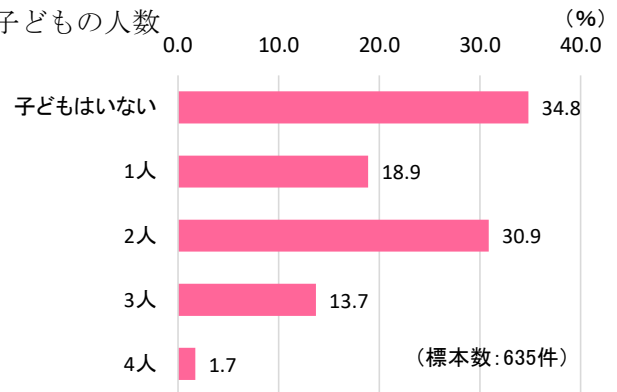
(3) 出産について

- 現在いる子どもの人数は「0人(いない)」が34.8%で最も高く、次いで「2人」、「1人」、「3人」の順となっている。
- 最終的に持ちたい子どもの人数の平均は「2.13人」、理想とする子どもの人数の平均は「2.51人」で、理想と現実には差が生じていることがわかる。前回調査と比較するとわずかではあるが、理想と現実との差が小さくなっている。

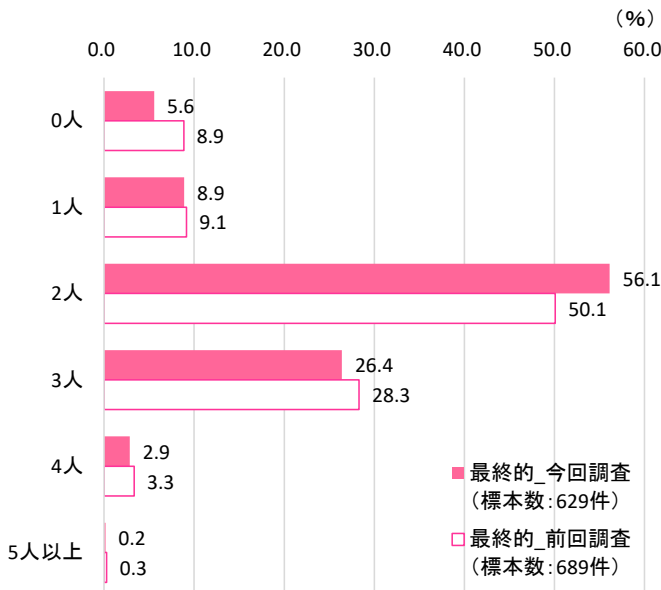
図表 20 現在いる子どもの人数

	回答数(件)	回答率(%)
子どもはいない	221	34.8
1人	120	18.9
2人	196	30.9
3人	87	13.7
4人	11	1.7
合計	635	100.0

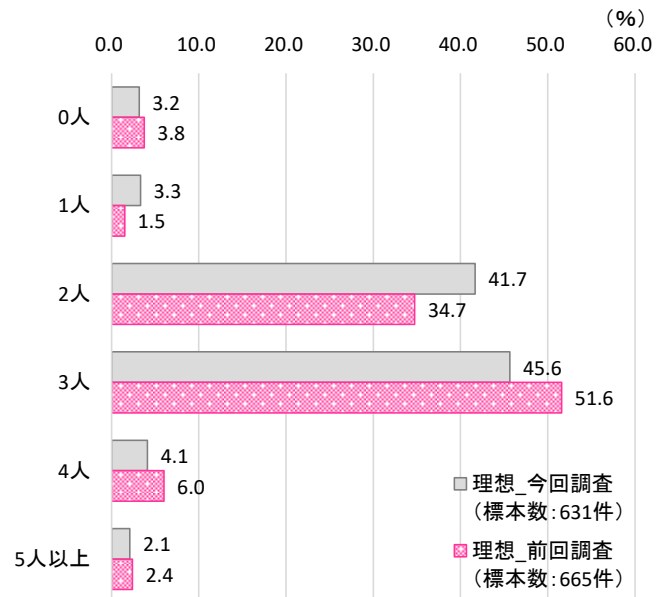
(標本数:635件)



図表 21 最終的に持ちたい子どもの人数



図表 22 理想としている子どもの人数



最終的に持ちたい子どもの人数
(回答者数=629人)

平均 : 2.13 人

<前回調査 2.09 人>

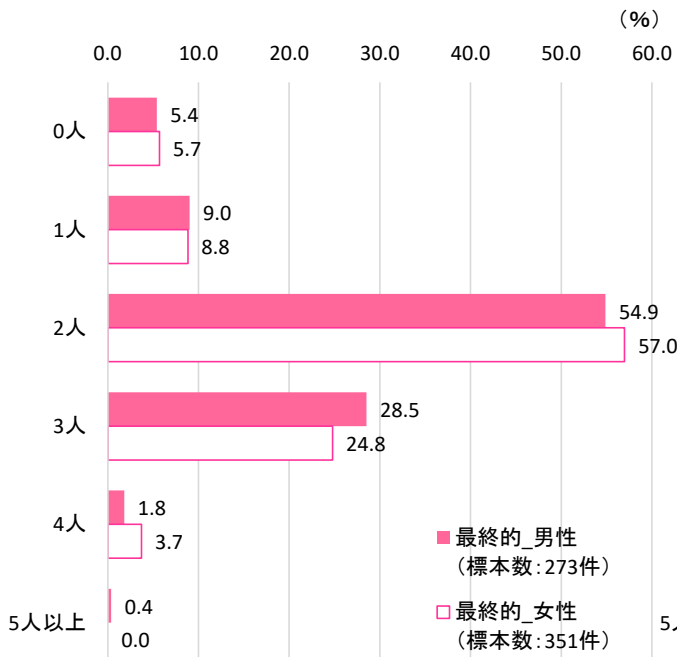
理想とする子どもの人数
(回答者数=631人)

平均 : 2.51 人

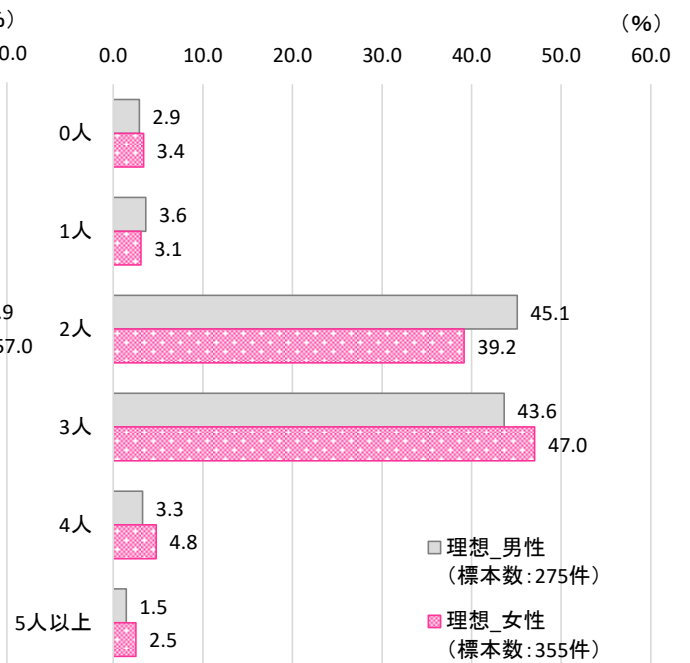
<前回調査 2.64 人>

- 性別で見ると、最終的に持ちたい子どもの人数は男性、女性ともに「2人」が最も高くなっている。
- 理想としている子どもの人数は、女性は「3人」、男性は「2人」が最も高くなっている。

図表 23 性別 最終的に持ちたい子どもの人数

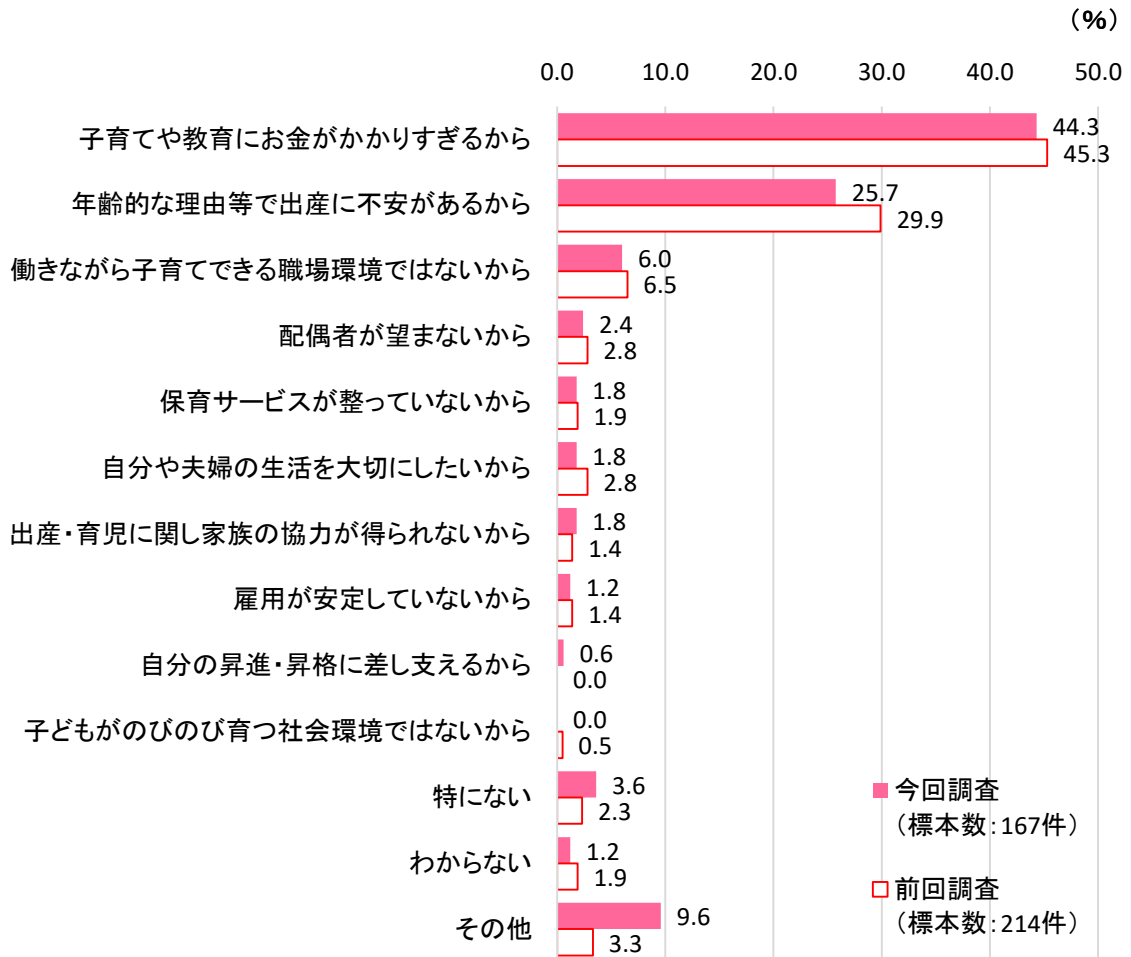


図表 24 性別 理想としている子どもの人数



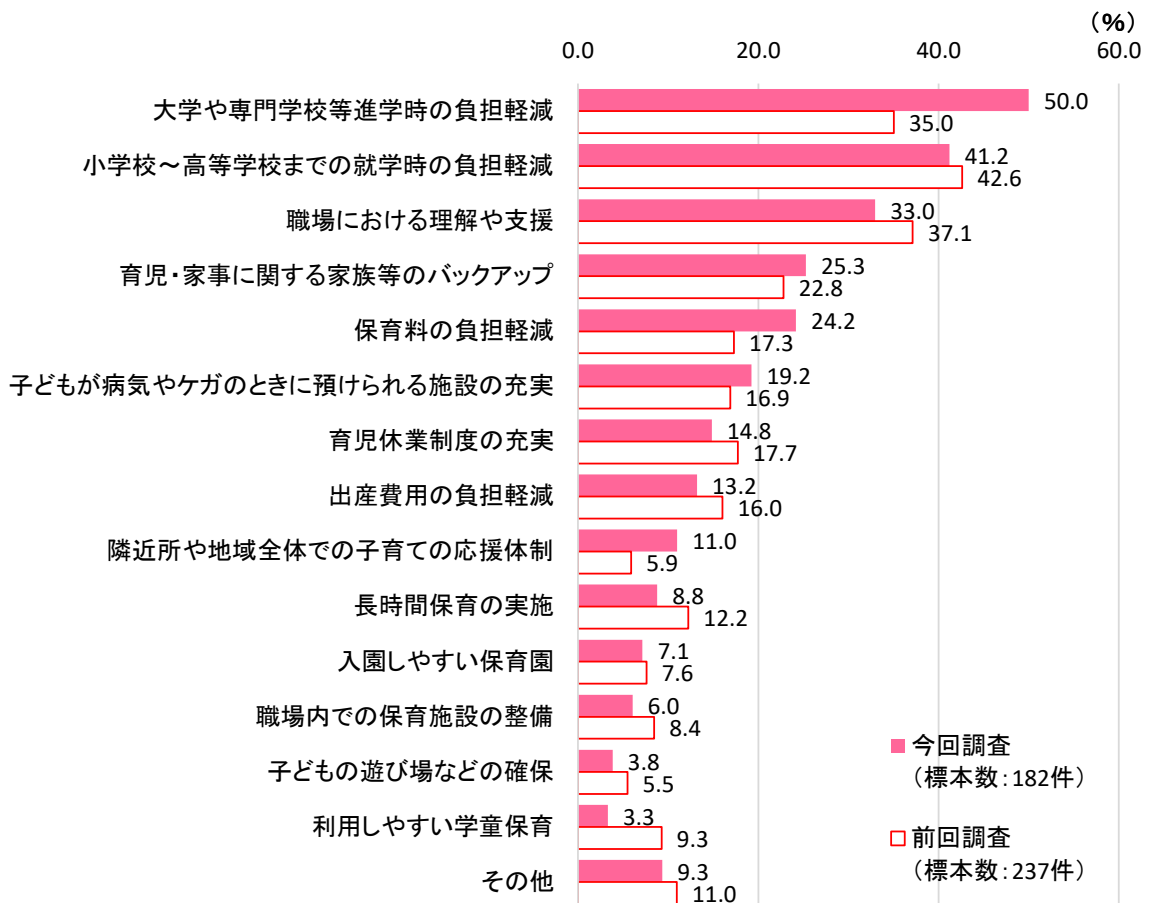
- 最終的に持ちたい子どもの人数が理想を下回っている理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が44.3%で最も高く、次いで「年齢的な理由等で出産に不安があるから」が25.7%となっており、前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図表 25 【理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ないと回答した人】 下回っている理由



- 理想の人数に近づくために必要な条件は、「大学や専門学校等進学時の負担軽減」が50.0%で最も高く、前回調査よりも15.0ポイント増加している。
- 次いで「小学校～高等学校までの就学時の負担軽減」、「職場における理解や支援」が高くなっている。

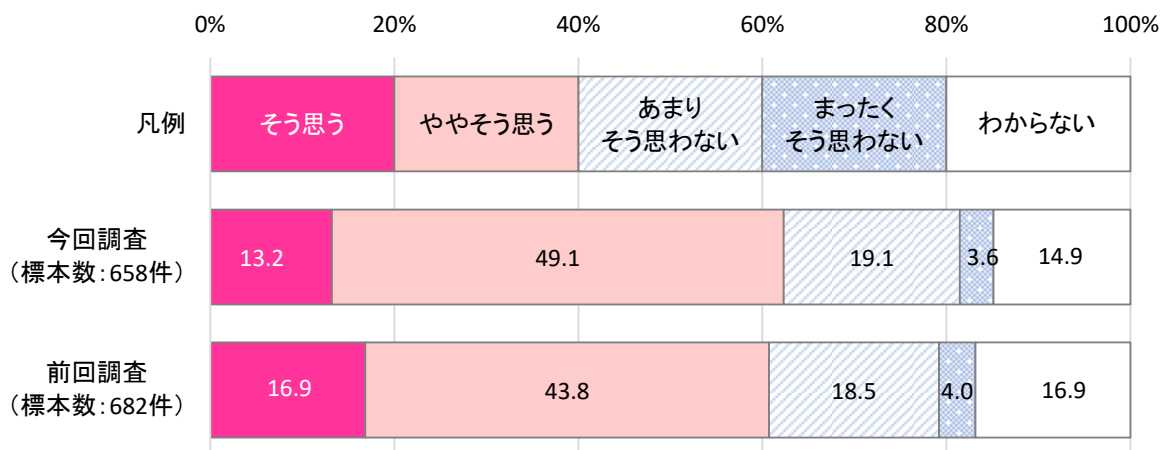
図表 26 【理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ないと回答した人】
理想の人数に近づくために必要な条件 [複数回答]



(4) 子育てについて

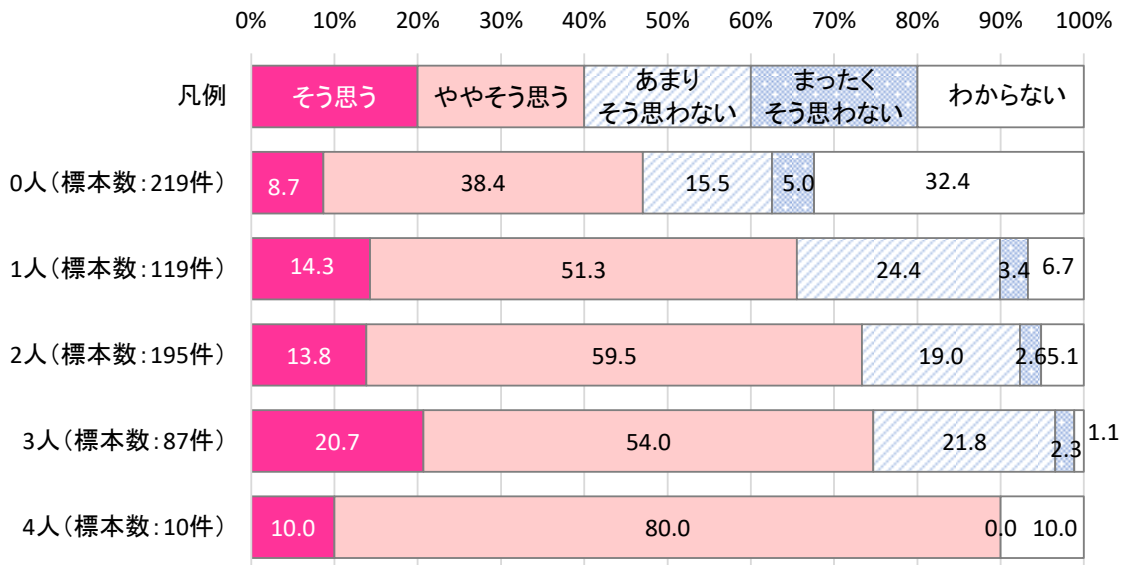
- 高山市は子どもを生み育てやすいまちであるかについては、「そう思う」が13.2%、「ややそう思う」が49.1%で、合わせて62.3%となっている。前回調査と比較して「そう思う」が減少し、「ややそう思う」が増加している。

図表 27 高山市は子どもを生み育てやすいまちか

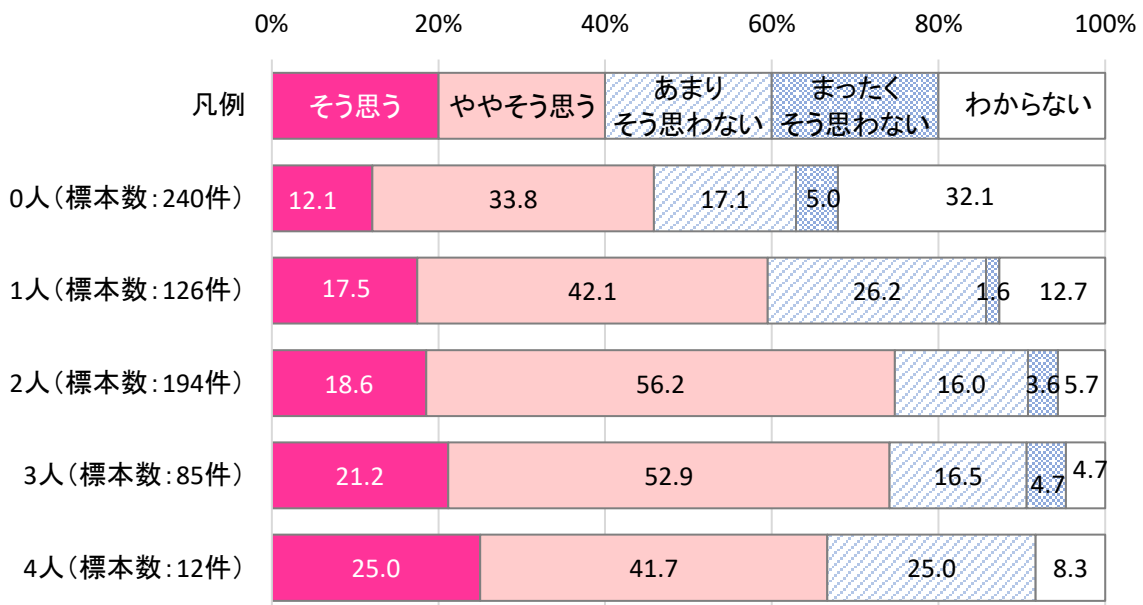


- 子どもの人数別に高山市は子どもを生き育てやすいまちかどうかをみると、子どもが1人の回答者は65.6%が、「そう思う」、「ややそう思う」と回答しており、子どもの人数が増えるにつれて、その割合は高くなっている。
- 前回調査と比較して、子どもが1人の回答者の「そう思う」、「ややそう思う」の割合が6.0ポイント増加している。

図表 28 子ども的人数別 高山市は子どもを生き育てやすいまちか<今回調査>

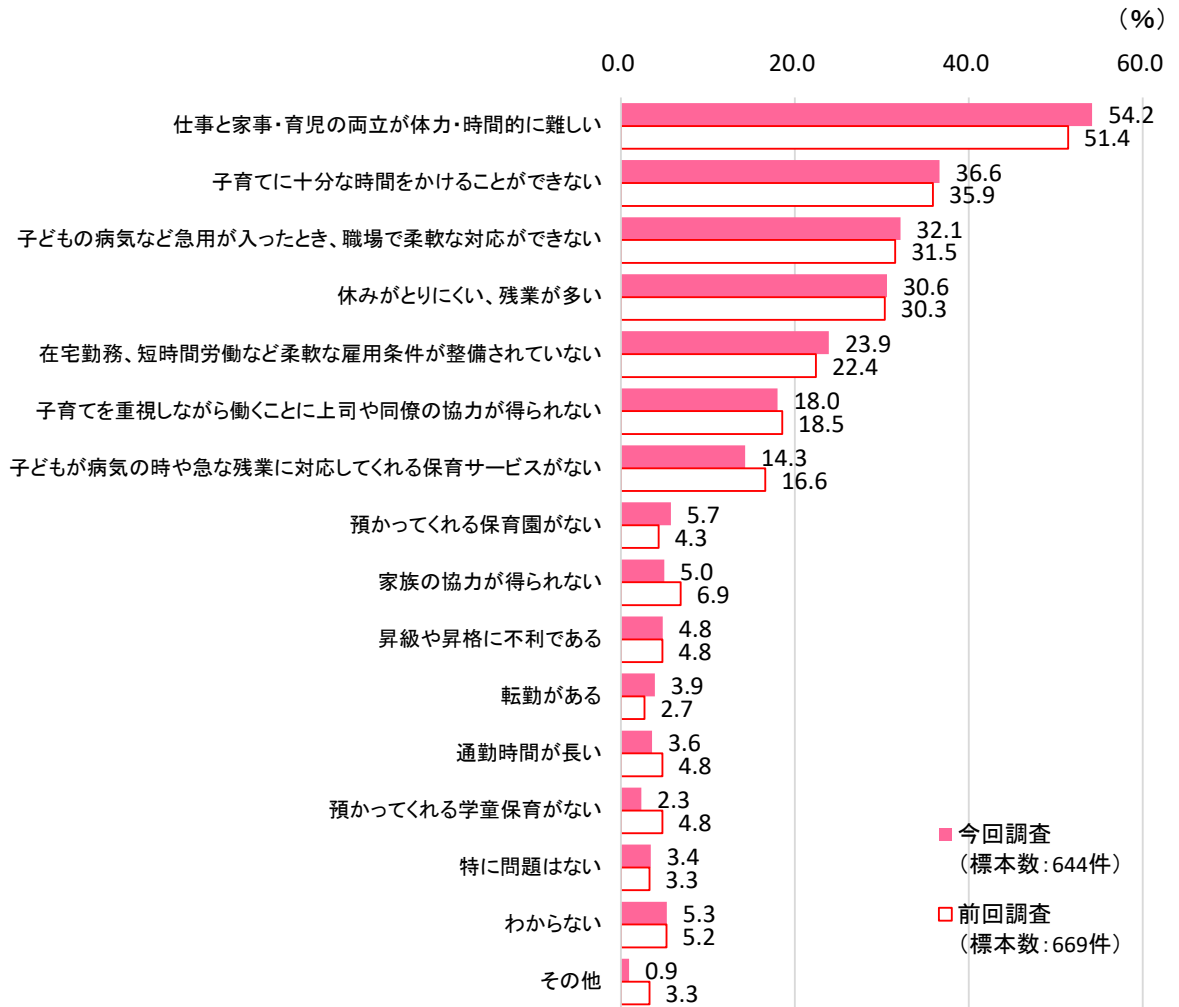


図表 29 子ども的人数別 高山市は子どもを生き育てやすいまちか<前回調査>



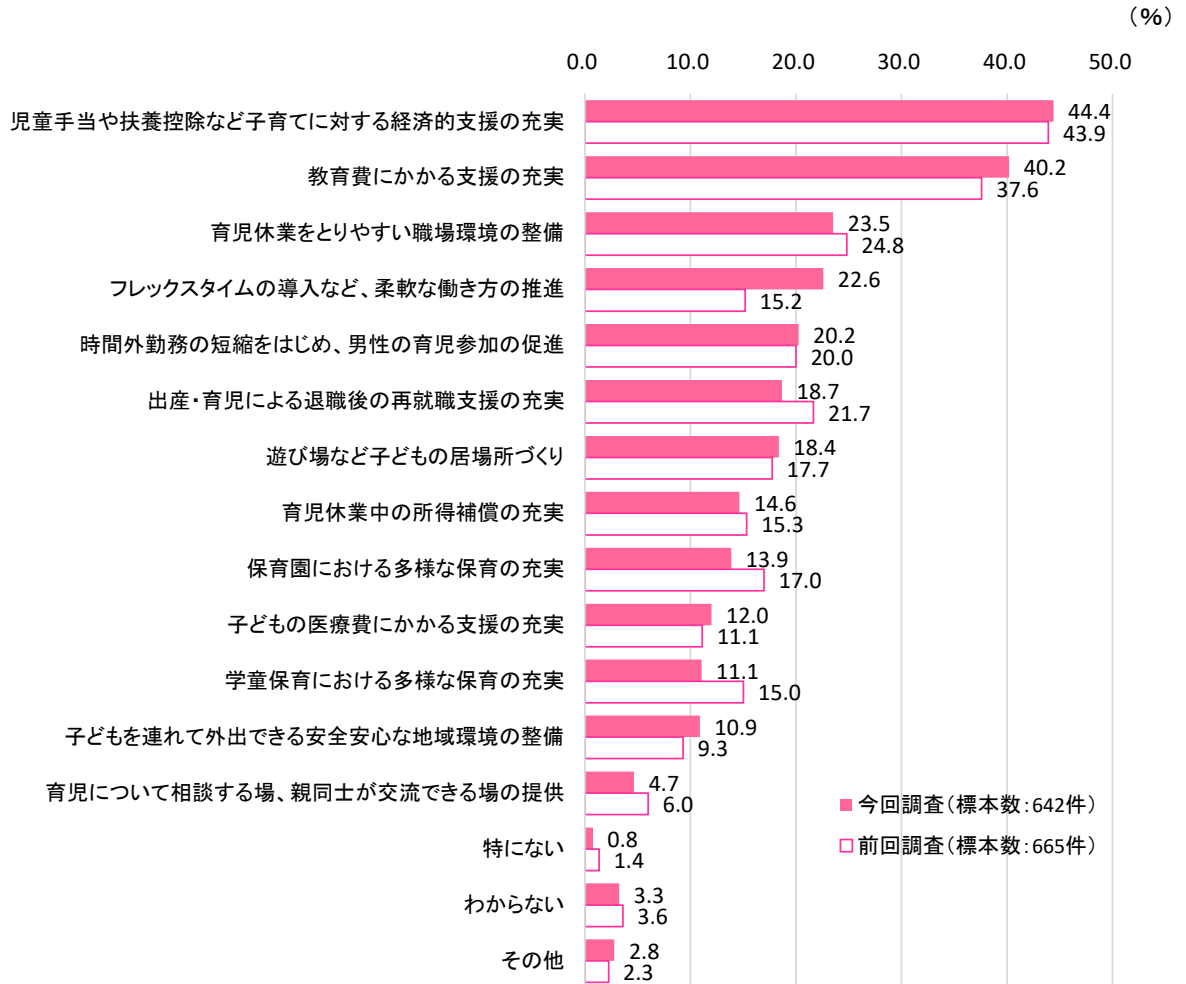
- 子育て中の親が働く上で課題になっていることは、「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に難しい」が54.2%で最も高く、次いで「子育てに十分な時間をかけることができない」が36.6%、「子どもの病気など急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」が32.1%の順となっており、前回調査とほぼ同様の傾向である。

図表 30 子育て中の親が働く上で課題になっていること [複数回答]



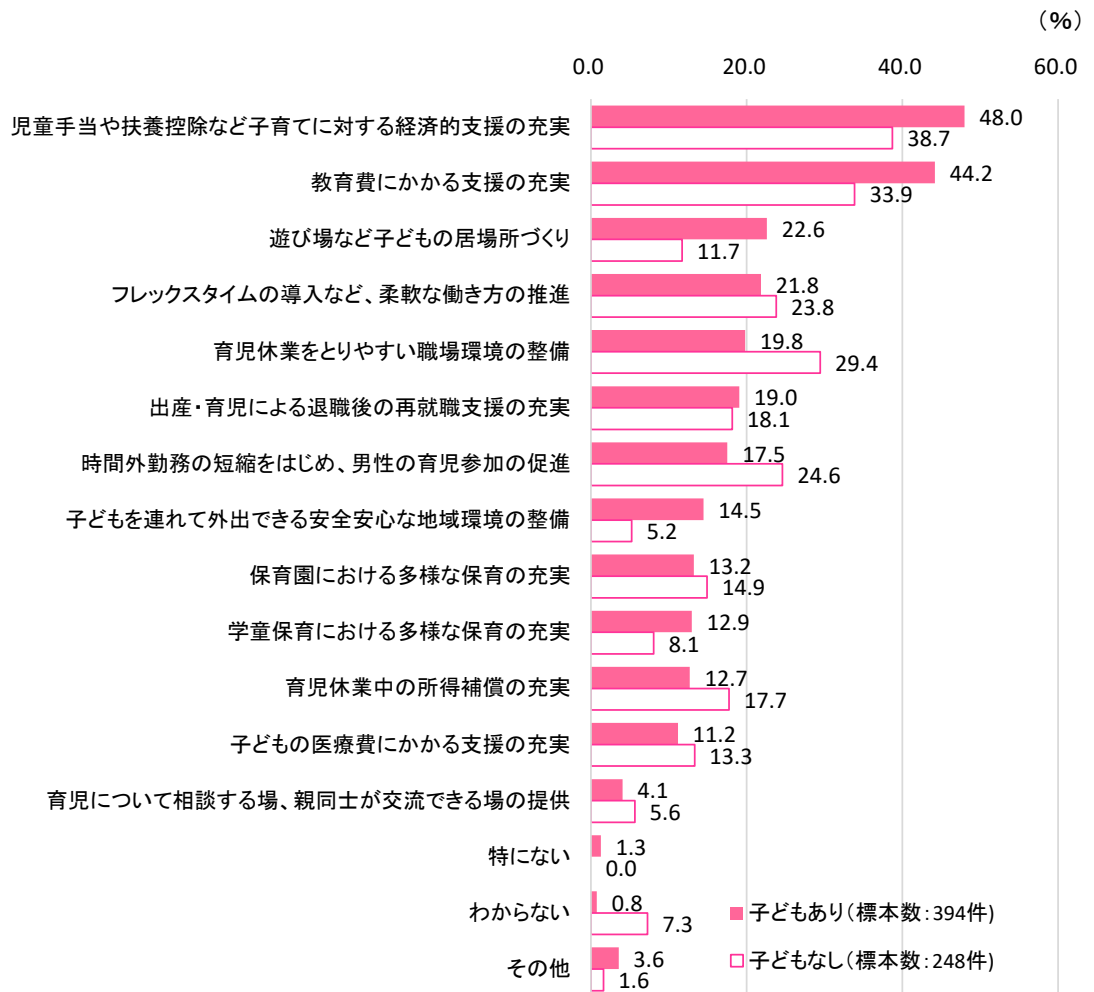
- 重要だと考えている子育て支援策は、「児童手当や扶養控除など子育てに対する経済的支援の充実」が44.4%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が40.2%となっており、経済的支援を求める声が上位を占めている。前回調査とほぼ同様の傾向である。

図表 31 重要だと考えている子育て支援策 [複数回答]



- 子どもの有無別に重要だと考えている子育て支援策をみると、子どもがいる回答者では「児童手当や扶養控除など子育てに対する経済的支援の充実」が48.0%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が44.2%、「遊び場など子どもの居場所づくり」が22.6%の順となっている。
- 子どもがいない回答者では、「児童手当や扶養控除など子育てに対する経済的支援の充実」が38.7%で最も高く、次いで「教育費にかかる支援の充実」が33.9%、「育児休業をとりやすい職場環境の整備」が29.4%の順となっている。

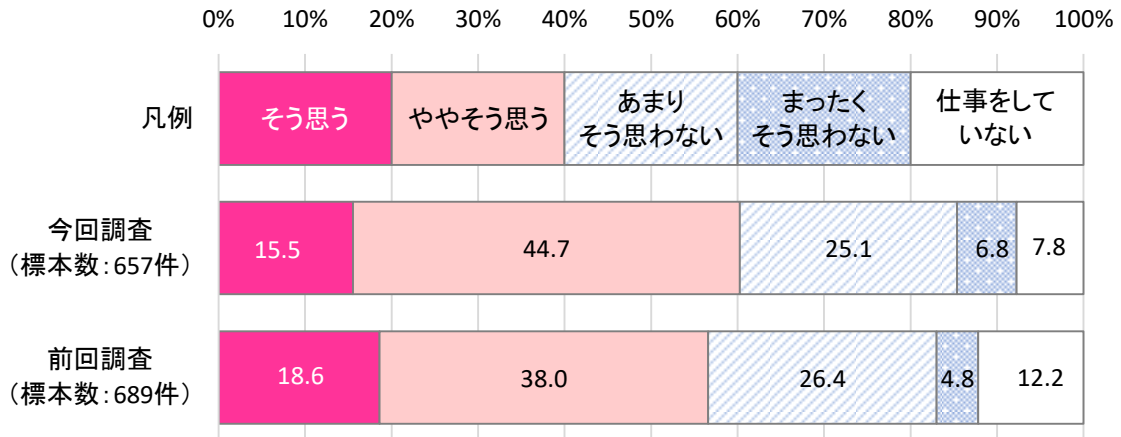
図表 32 子どもの有無別 重要だと考えている子育て支援策 [複数回答]



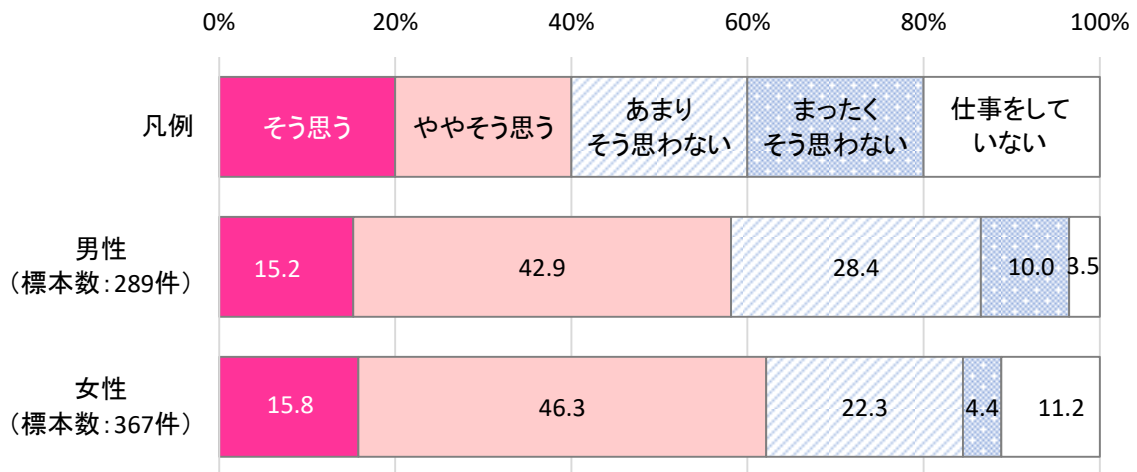
(5) ワーク・ライフ・バランスについて

- 仕事と生活の調和がうまく取れているかについては、「ややそう思う」が最も高く 44.7%、次いで「あまりそう思わない」が 25.1%となっている。
- 男女別でみると、女性の方が「そう思う」、「ややそう思う」の合計が高い。男性は「まったくそう思わない」が 10.0%となっており、女性よりも 5.6 ポイント高くなっている。

図表 33 仕事と生活の調和はうまく取れているか

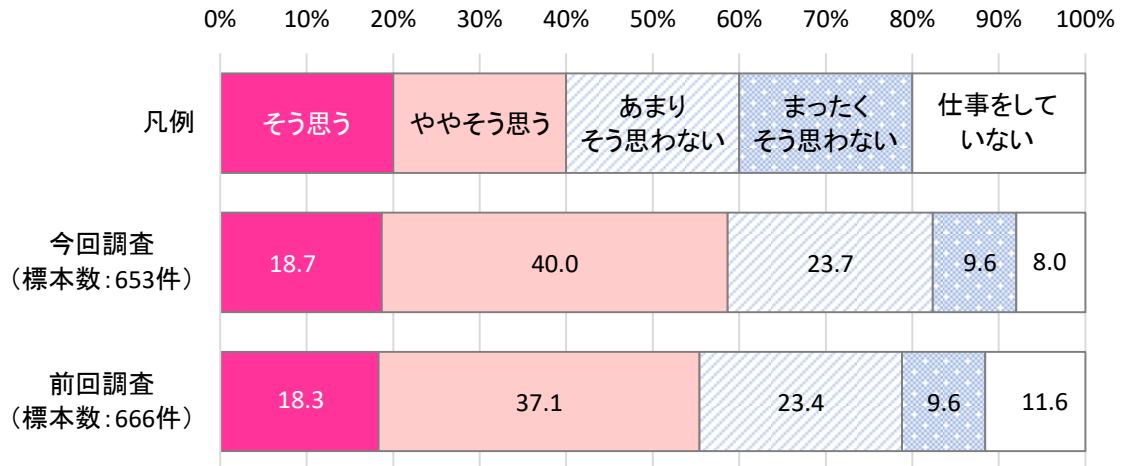


図表 34 性別 仕事と生活の調和はうまく取れているか

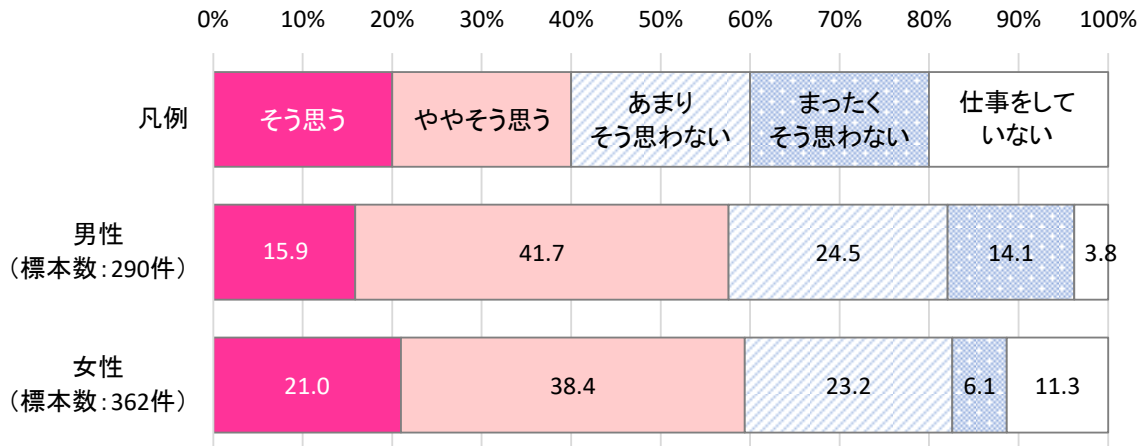


- 自身の職場は子育てをする人にとって働きやすいかについては、「そう思う」が18.7%、「ややそう思う」が40.0%で、合わせて58.7%となっている。一方、「まったくそう思わない」とする回答が9.6%、「あまりそう思わない」も23.7%となっており、前回調査とほぼ同様の傾向である。
- 男女別にみると、子育てをする人にとって働きやすい職場とは「まったくそう思わない」の回答は、男性は女性の2倍以上の14.1%となっている。

図表 35 あなたの職場は子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいか

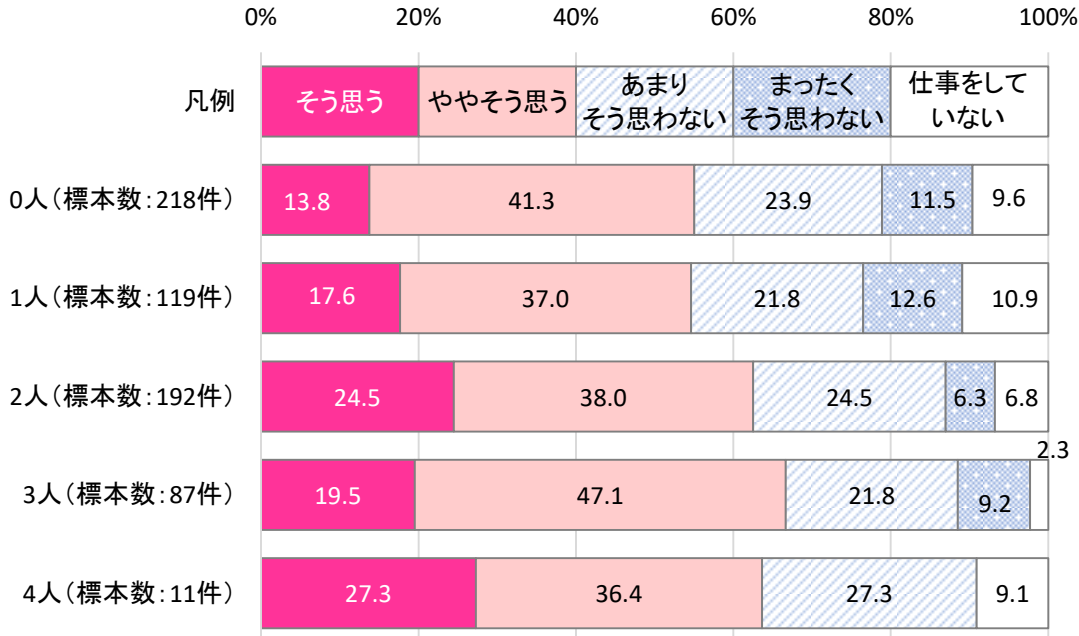


図表 36 性別 あなたの職場は子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいか



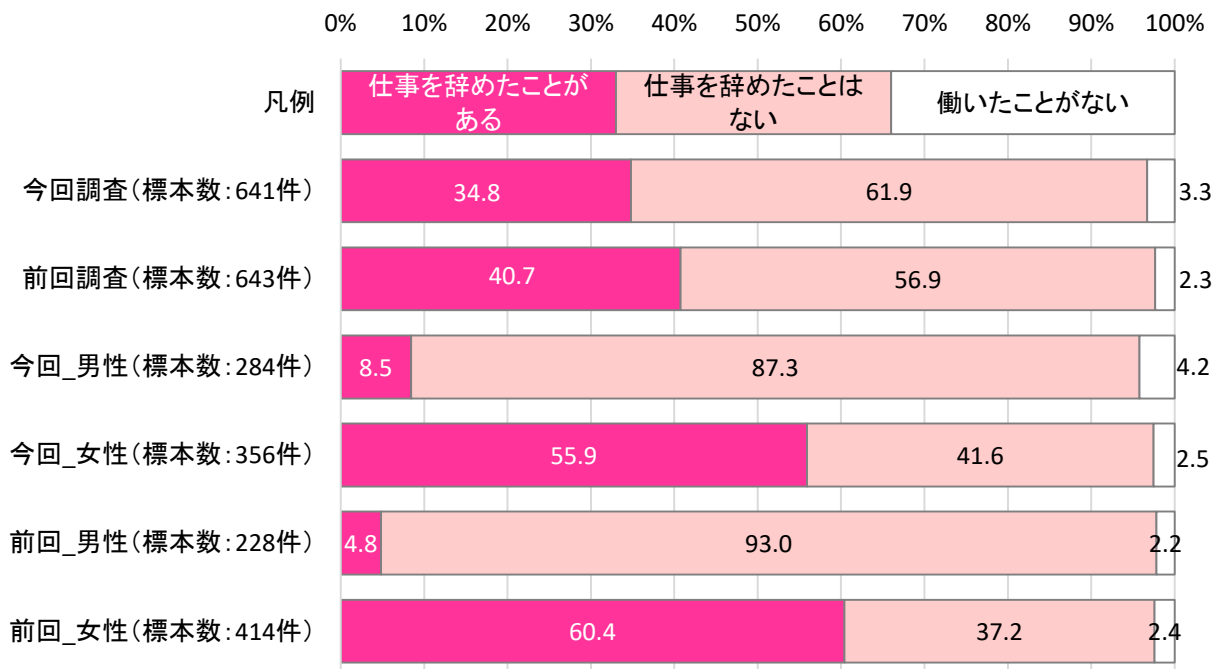
- 子どもの人数別でみると、子どもがいない回答者や子どもが1人の回答者は、働きやすい職場とは「まったくそう思わない」の回答が10%を超えており、「そう思う」の回答も低くなっている。

図表 37 子どもの人数別 あなたの職場は子育てする人（男女問わず）にとって働きやすいか

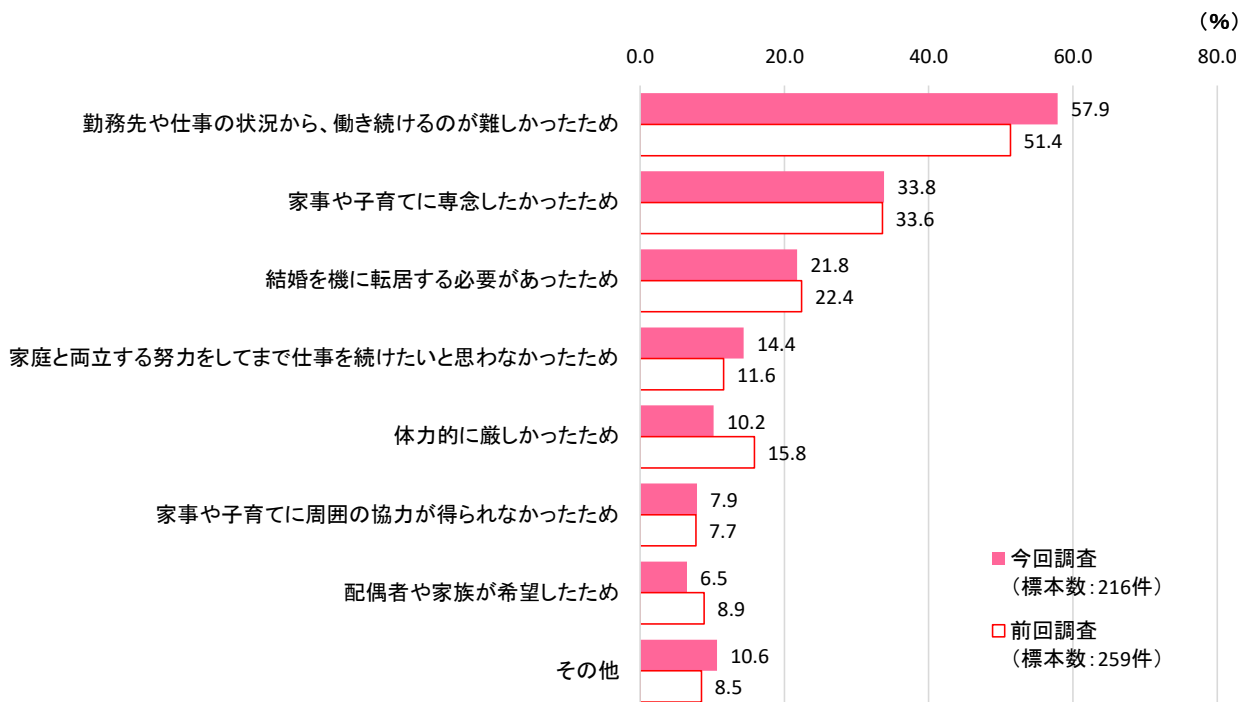


- 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたことがある人は、全体で34.8%となっている。女性では55.9%が「仕事を辞めたことがある」と回答している。
- 辞めた理由としては、「勤務先や仕事の状況から、働き続けるのが難しかったため」が57.9%で最も高く、次いで「家事や子育てに専念したかったため」が33.8%となっている。

図表 38 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたか

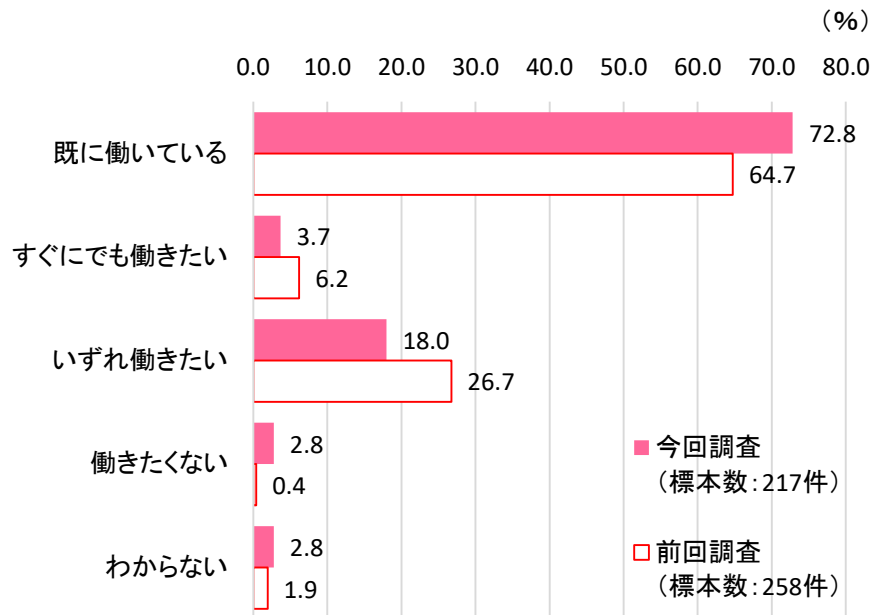


図表 39 【仕事を辞めたことがある人】仕事を辞めた理由 [複数回答]



- 仕事を辞めた人のうち、「既に働き始めている」が72.8%で最も高く、次いで「いずれ働きたい」が18.0%、「すぐにでも働きたい」が3.7%の順となっている。

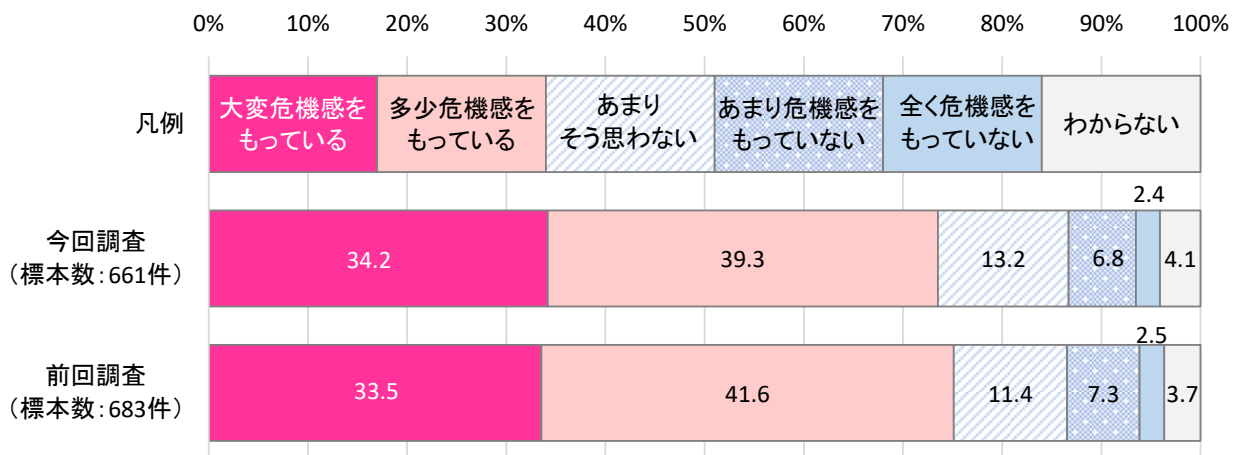
図表 40 【仕事を辞めたことがある人】再び働きたいか



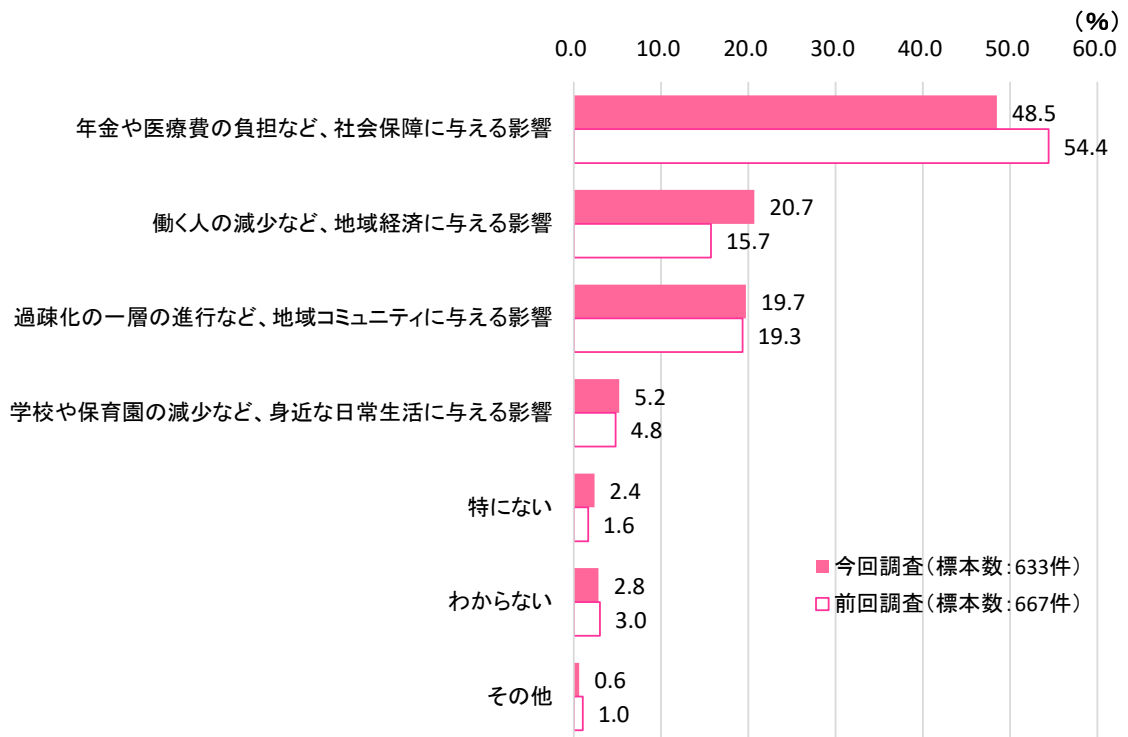
(6) 少子化について

- 少子化傾向への危機感については、「大変危機感をもっている」と「多少危機感をもっている」を合わせて、7割以上が危機感をもっていると回答しており、前回調査とほぼ同様の傾向である。
- 人口減少が地域に与える影響としては、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が48.5%で最も高いが、前回調査から5.9ポイント減少しており、一方、「働く人の減少など、地域経済に与える影響」が5.0ポイント増加している。

図表 41 少子化傾向への危機感

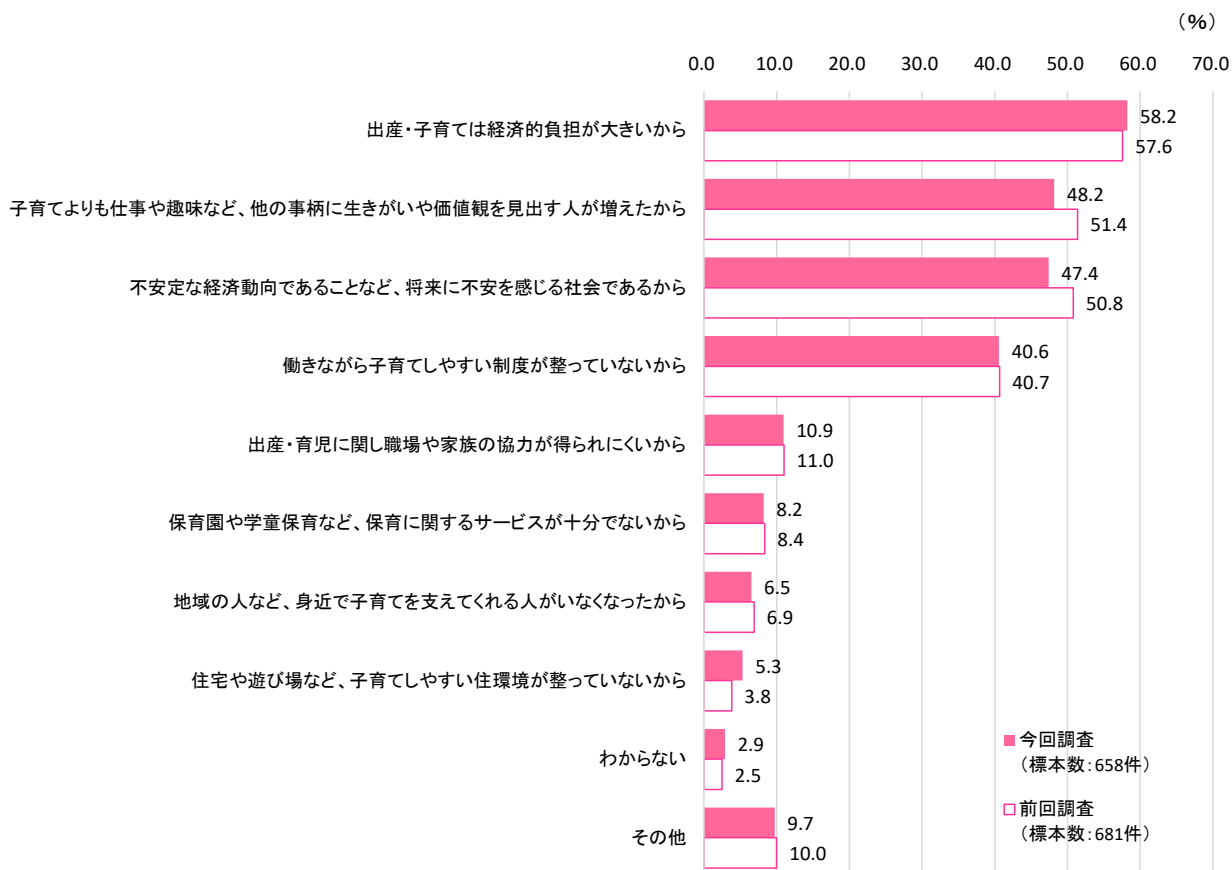


図表 42 人口減少が地域に与える影響



- 出生率が低い主な原因としては、「出産・子育ては経済的負担が大きいから」が58.2%で最も高く、次いで「子育てよりも仕事や趣味など、他の事柄に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が48.2%、「不安定な経済動向であることなど、将来に不安を感じる社会であるから」が47.4%の順となっている。経済的な理由のほか、価値観の変化なども理由としてあげられており、前回調査とほぼ同様の傾向となっている。

図表 43 出生率が低い原因 [複数回答]



【結婚】

● 出会いの場に関する意見

- ・周りには結婚していない友人がたくさんいる。本人の努力も必要だが、結婚を前提とした参加しやすいイベントがあるといい。
- ・同級生で結婚している人は多くない。都会へ出ていく若者が多くなったのかわからないが、出会いの場が少ないという声をよく聞く。
- ・1人参加限定の街コンがあると参加しやすい。他にも飲食のイベントだけでなく、スポーツを通してのイベントも出会いのきっかけになりそう。
- ・母子・父子家庭や再婚を希望する人に限定したイベントや出会いの機会を設けてはどうか。
- ・結婚につながる出会いや環境が少ない。一方で、両親ともに健康で元気なため、出会いの場へ積極的に足を運んで、結婚相手を見つけるほどの必要性も感じないし、意欲もない。

● 現状の生活の不安

- ・低賃金すぎて、婚活する気にもならない。
- ・現在の収入、労働時間の多さ、将来への不安を考えると、全く余裕がないため結婚自体が難しいことだと感じている。

● 行政への要望

- ・本来、結婚は本人の意思によるものだから、行政が支援するものではないと思う。しかし、誰か良い意味の「年寄りおせっかい」をやいてくれる人がいないと結婚への一歩が踏み出せないというのもあると思う。良い意味のおせっかいをやいてくれる人がいるコミュニティを作り出すことが、最大の子育て支援、少子化対策になるのではないか。個人的には高山市に転入した際に消防団に入団し、地域とのつながりが持て、地域の一員として認められたと感じた。
- ・結婚、出産をすることが、その人にとってメリットがあると思わせる施策が必要。様々な補助金などの経済的メリットが一番ストレートで伝わりやすいと思う。
- ・高山市では、どのような支援制度があるのかわからないため、知る機会が欲しい。

【出産】

● 職場環境に関する不満・不安

- ・ 職場で、産前産後休暇や育休が取れる福利厚生が整っている職種が少ないように感じる。出産時に体調不良でも休みづらく、会社から辞めるよう言われ、仕方なく仕事をあきらめた。小さい子どもを抱えて仕事をするのが間違った考えだったのかといろいろ考えさせられた。
- ・ これからの高山は、若者が戻ってきやすい、子育て世代が柔軟に働ける体制を整えば良いと思う。母になっても働ける社会を、子どもたちも見ていると思う。
- ・ 男性が子育て、家事にもっと参加できるように、各企業に対して、柔軟に対応するように促してほしい。
- ・ 私の妻は正社員で働いていたが、出産のときに退職を促され、今もパートとして働いている。一度正社員を辞めると、子どもを抱えて同条件で復職することが難しい。

● 経済的不安

- ・ 子どもを授かることはとてもうれしいが、それと同時に経済的不安もある。収入が少ないのに子どもにかかるお金は増えていくと、やりたいことをやらせてあげられず、子どもが選択できる道がなくなってしまう。
- ・ 高山市は他の地域と比較しても、子どもや子育て世帯への手当が手厚いと思う。しかし、自分も含め、周りでも子どもが2人以上の家庭が多いが、女性が仕事を辞めざるを得ない状況がまだにある。もし、出産前のように2人とも正規で働くことができれば、もう少し余裕を持った生活ができると感じることがある。貯蓄や子どものための教育資金なども現状では十分用意することができない。
- ・ 子どもをたくさん産みたいが、経済的に難しいので1人にした。協力してくれる人がいてもやはり金銭的な事はお願いできないのであきらめた。

● 医療環境・不妊治療に関する不満・意見

- ・ 妊娠しても何かあったら高山市では産むことができない。すべて市外に依存している。子どもを産んでも、何かあって岐阜市で入院することになると、新生児だと岐阜市でマンスリーマンションを借りなければいけない。その費用を市で負担してくれるなら、子どもを産んで何かあっても安心だと思う。
- ・ 出産のときや子どもの心臓の病気がわかったときに高山市の病院では対応できないため、2か月～3か月岐阜市で入院した。兄弟がいるので、遠くでの入院はとても大変だった。高山市にもっと医療が充実した病院があれば良い。
- ・ 他県から来たが、婦人科などの個人病院がほとんどなくて不便。
- ・ 以前高山市外に住んでいた時は、周りにいくつか不妊治療の病院があったため、仕事をしながら通院できたが、高山市にはその環境がないため、両立できず、子どもをあきらめた。
- ・ 不妊治療の補助について、晩婚化が進んでいるので年齢制限をなくしてほしい。
- ・ 高山市は不妊治療に力を入れているのでありがたい。市外へ治療に行くことは大変な負担だが、医師確保は難しいので仕方ないと思う。市に何とかしてもらおうというだけでなく、自分たちでできることを考えることも必要。また、そういった知恵・手段を共有できると良いと思う。

【子育て】

●子育てと仕事との両立の不安

- ・ 親と同居ではなかったり、祖母・祖父も働いていたりとすると、子どもが病気になったときに休むのは母親になる。職場に休みの連絡をするが、何となく休みにくい。職場によっても違うと思うが、子どものためにも思っても気が引ける。もっと子育てに寛容な社会、職場が増えて欲しい。
- ・ 現在パートのため、2人目、3人目の子どものことを考えても、育児中に仕事を休むと手当もないので、収入が減り、生活していけないのではないかとためらってしまう。パートでも育児休暇が取れる会社が増えたらいいと思う。
- ・ 現在フルタイムで働いている中で思うことは、周囲に協力してくれる親・兄弟等がいないと本当に続けていけないということ。また、結婚・出産後も働きたいという気持ちがあったので、仕事がいやというわけではないが、たまに、子どもがいる立場なのにこんなにも働かないといけないのかと思う時がある。
- ・ 出産・育児に対して、職場の意識がまだまだだと思う。私は、産休・育休を取得し、復帰したが、復帰後、子どもが熱を出して急な早退や休まなければいけない時、会社の体制が整っておらず、子どもをおぶって仕事をしなければいけないこともあり、また、上司から嫌味も言われた。
- ・ 私は今、一般企業でフルタイムで働いているが、子どもの急な発熱の時などは全部親に頼んでいる。本当は自分で連れて行きたいが、言い出しにくい雰囲気があり、なかなか休むことができない。
- ・ 雇用形態を柔軟に考える会社が増えて欲しい（一時的にはパート、子育てが一段落したら正社員など）。
- ・ 幼稚園、保育園、小学校で、休日や長期休暇の際に預かってもらえると、働きやすい。

●男性の育児への積極的参加

- ・ 男性の育児休業を2週間取得したが、育児参加のやる気もわき、とてもよかった。出産後、早いうちに男性も育児にかかわるべきだと思う。
- ・ 男女共働きが多い中、子育ての負担が妻に集中しないよう夫が積極的に子育てに関わらないと、子どもが増えることはないと思う。そのためには、夫が早く家に帰って育児ができるよう職場が理解を示し、職場の環境を整え、子育てをしている者に寛容な社会になる必要がある。

●保育園・学童保育に関すること

- ・ 通える範囲に保育園だけしかないため、幼稚園に通わせることができない。市内でも地域格差があるように感じる。
- ・ 保育料を無料にされているが、それよりも、保育施設の充実と保育士の待遇の改善が必要。
- ・ 急な残業で18時までの迎えが厳しいときに、18時30分まで学童保育で預かってもらいたいが、事前申請が必要。このような場合でも学童保育が利用できるようになるとうれしい。また、学童保育は休みが多すぎる。お正月やお盆は仕方ないとしても、仕事が多忙になる年度初めの4月に1週間も休みなのは困る人が多いと思う。

- ・ 児童館等の予算をもっとつけてほしい。工作等の材料が買ってもらえない。おもちゃに電池が入っていない。冷暖房の使用を制限された。
- ・ 過疎により、小学校・保育園が統合され、より子どもを持ちたいと思えなくなってきた。わざわざ学校が遠い所に住みたいとは思わない。悪循環だと思う。

●公園・遊び場・施設に関すること

- ・ 市内には、大きな公園等、子どもを遊ばせる場所がない。近隣の飛騨市の杉崎公園や他県の大きな施設等にわざわざ車を使って出かけなければいけないため、もっと子どもが楽しめる環境の整備をお願いしたい。
- ・ 高山市に転居したときには、自然が豊かで住みやすいところだと思ったが、子どもを育てた時に公園が近しくなく、遊べるところが保育園・小学校しかない。車で移動しなければ子どもを満身に遊ばせることもできない環境に愕然とした。
- ・ 公園がとても少なく、外でのびのびと遊べる環境がない。
- ・ 公園の遊具の安全点検や、新しい遊具の導入を強化してほしい。使用時に異音がするものや、錆びている遊具を子どもに使わせて大丈夫かと不安になることがある。
- ・ 高山市はお金の面（子ども手当・医療費・ワクチン等）での支援は手厚いと思う。しかし、子どもが自由に遊べる公園（広い公園）がなく、市民プールも古いままなど、ハード面の充実はまだ十分でないと感じる。
- ・ 外出先での授乳やおむつ交換をする場所があまり整備されていない（特に男性がおむつ交換できる所が少ない）。

3 地方移住に関する調査結果

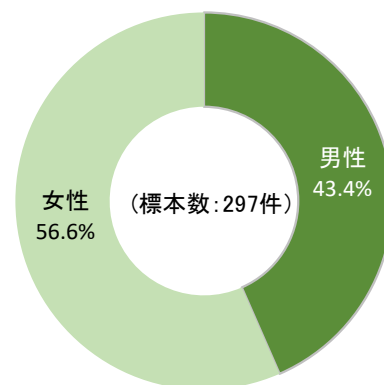
(1) 回答者の属性

- 回答者の性別は、56.6%が女性、43.4%が男性となっている。
- 回答者の年代は、20代が34.8%、30代が28.4%の順となっている。
- 居住地域は、「高山地域」が81.3%で最も高くなっている。

図表 44 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	129	43.4
女性	168	56.6
合計	297	100.0

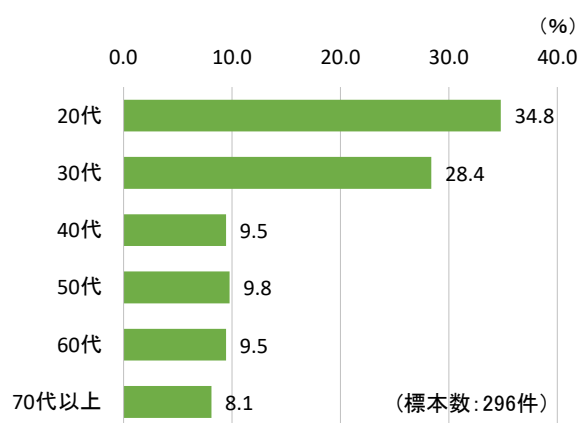
(標本数: 297件)



図表 45 年代

	回答数(件)	回答率(%)
20代	103	34.8
30代	84	28.4
40代	28	9.5
50代	29	9.8
60代	28	9.5
70代以上	24	8.1
合計	296	100.0

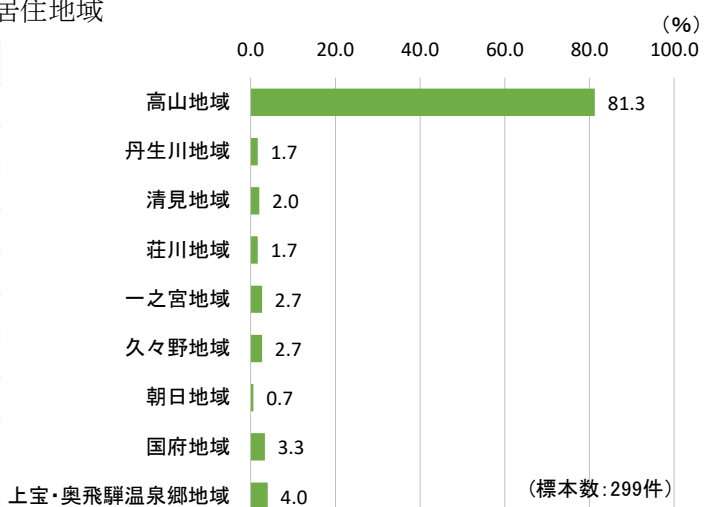
(標本数: 296件)



図表 46 居住地域

	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	243	81.3
丹生川地域	5	1.7
清見地域	6	2.0
荘川地域	5	1.7
一之宮地域	8	2.7
久々野地域	8	2.7
朝日地域	2	0.7
国府地域	10	3.3
上宝・奥飛騨温泉郷地域	12	4.0
合計	299	100.0

(標本数: 299件)

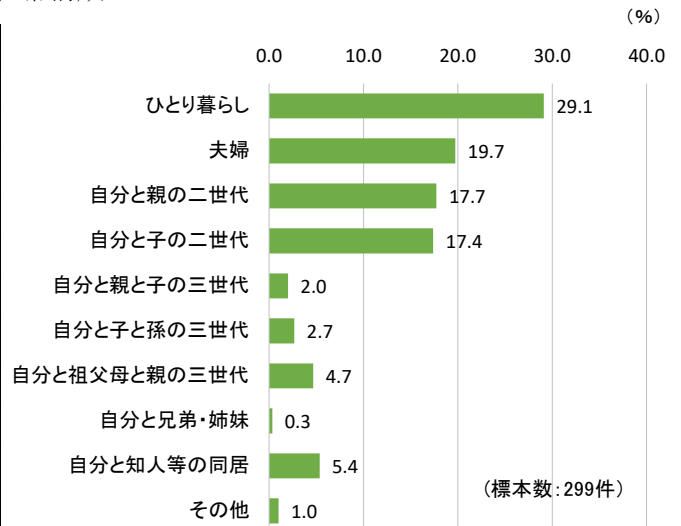


- 世帯構成は「ひとり暮らし」が最も高く 29.1%、次いで「夫婦」が 19.7%、「自分と親の二世帯」が 17.7%、「自分と子の二世帯」が 17.4%の順となっている。
- 配偶者は 56.8%が「いない」と回答している。

図表 47 世帯構成

	回答数(件)	回答率(%)
ひとり暮らし	87	29.1
夫婦	59	19.7
自分と親の二世帯	53	17.7
自分と子の二世帯	52	17.4
自分と親と子の三世帯	6	2.0
自分と子と孫の三世帯	8	2.7
自分と祖父母と親の三世帯	14	4.7
自分と兄弟・姉妹	1	0.3
自分と知人等の同居	16	5.4
その他	3	1.0
合計	299	100.0

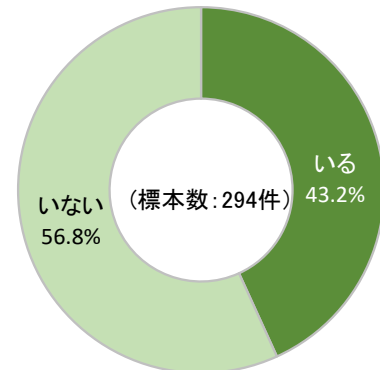
(標本数: 299件)



図表 48 配偶者有無

	回答数(件)	回答率(%)
いる	127	43.2
いない	167	56.8
合計	294	100.0

(標本数: 294件)

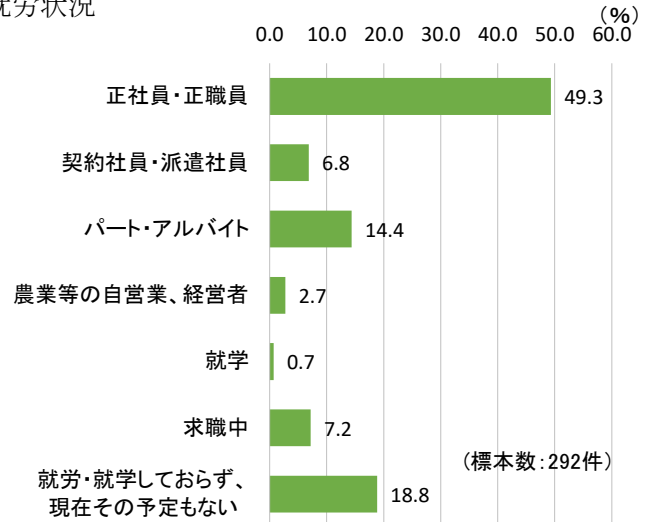


- 就労状況は、「正社員・正職員」が49.3%で最も高く、次いで「就労・就学しておらず、現在その予定もない」が18.8%となっている。
- 最終学歴は、「大学」が37.0%で最も高く、次いで「高等学校」が21.9%となっている。

図表 49 就労状況

	回答数(件)	回答率(%)
正社員・正職員	144	49.3
契約社員・派遣社員	20	6.8
パート・アルバイト	42	14.4
農業等の自営業、経営者	8	2.7
就学	2	0.7
求職中	21	7.2
就労・就学しておらず、 現在その予定もない	55	18.8
合計	292	100.0

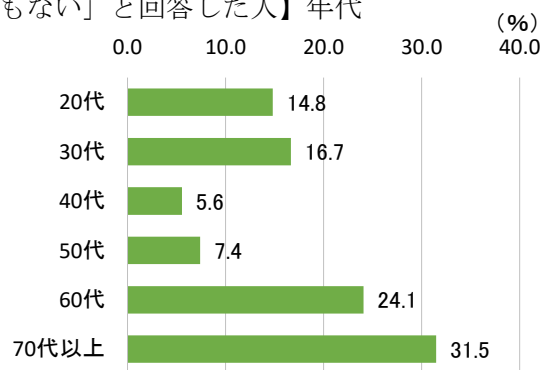
(標本数:292件)



図表 50 【「就労・就学しておらず、現在その予定もない」と回答した人】年代

	回答数(件)	回答率(%)
20代	8	14.8
30代	9	16.7
40代	3	5.6
50代	4	7.4
60代	13	24.1
70代以上	17	31.5
合計	54	100.0

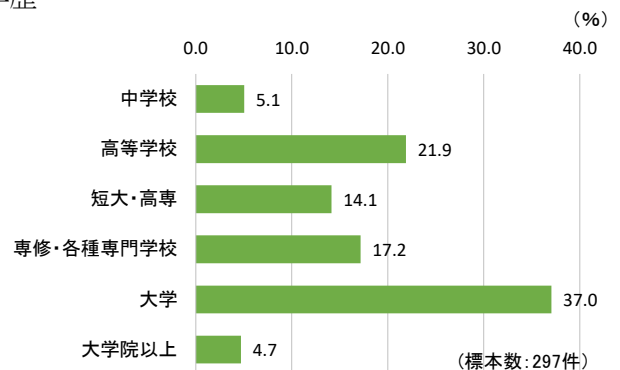
(標本数:54件)



図表 51 最終学歴

	回答数(件)	回答率(%)
中学校	15	5.1
高等学校	65	21.9
短大・高専	42	14.1
専修・各種専門学校	51	17.2
大学	110	37.0
大学院以上	14	4.7
合計	297	100.0

(標本数:297件)

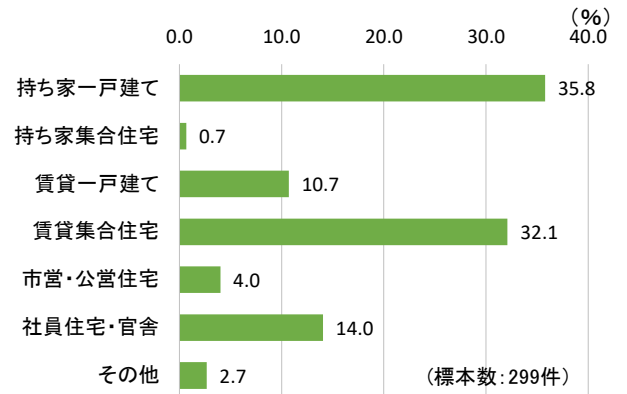


- 住まいの種類は、「持ち家一戸建て」が 35.8%で最も高く、次いで「賃貸集合住宅」が 32.1%となっている。
- 世帯年収は、「200～300 万未満」が 18.2%で最も高く、次いで「300～400 万未満」が 12.7%、「100～200 万未満」が 10.3%の順となっている。

図表 52 住まいの種類

	回答数(件)	回答率(%)
持ち家一戸建て	107	35.8
持ち家集合住宅	2	0.7
賃貸一戸建て	32	10.7
賃貸集合住宅	96	32.1
市営・公営住宅	12	4.0
社員住宅・官舎	42	14.0
その他	8	2.7
合計	299	100.0

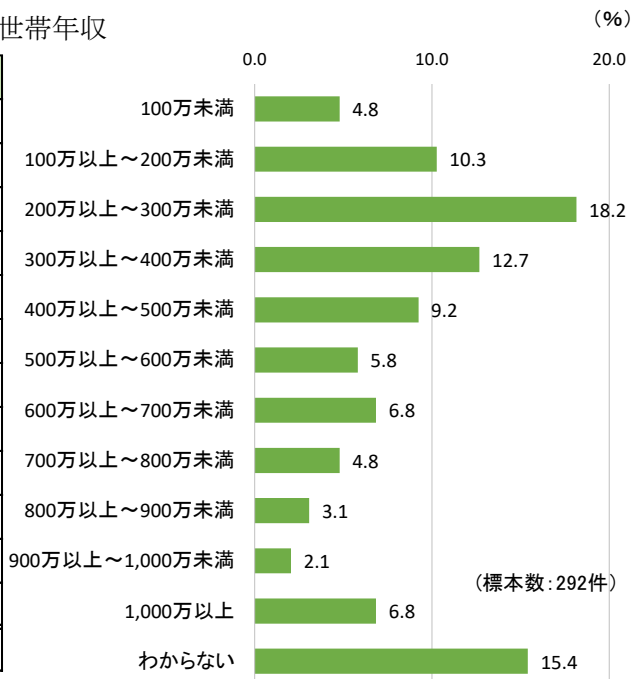
(標本数:299件)



図表 53 世帯年収

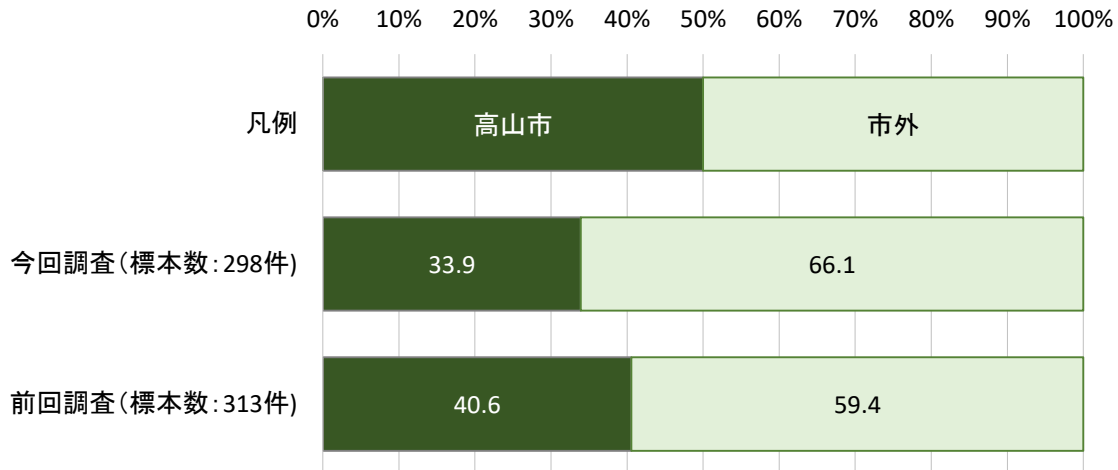
	回答数(件)	回答率(%)
100万未満	14	4.8
100万以上～200万未満	30	10.3
200万以上～300万未満	53	18.2
300万以上～400万未満	37	12.7
400万以上～500万未満	27	9.2
500万以上～600万未満	17	5.8
600万以上～700万未満	20	6.8
700万以上～800万未満	14	4.8
800万以上～900万未満	9	3.1
900万以上～1,000万未満	6	2.1
1,000万以上	20	6.8
わからない	45	15.4
合計	292	100.0

(標本数:292件)

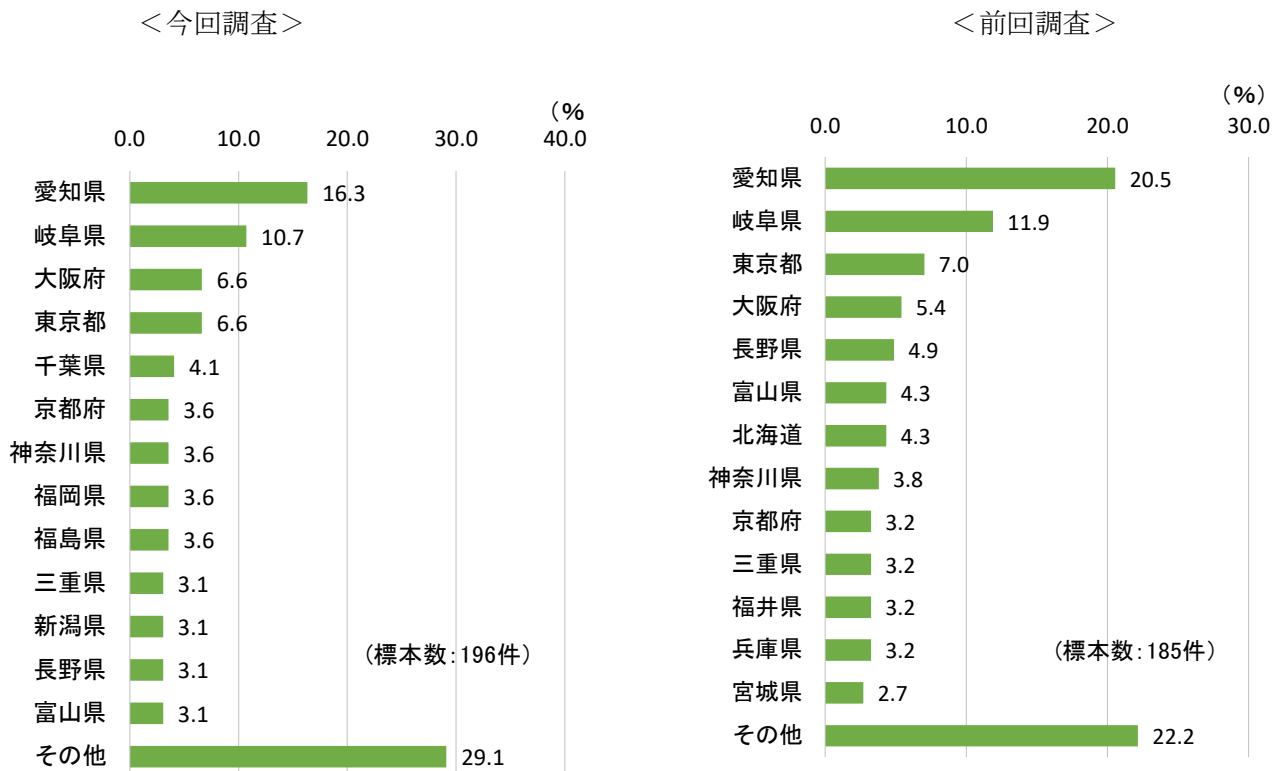


- 回答者を出身地別で見ると、「高山市」が33.9%、「市外」が66.1%となっている。前回調査と比較すると、市外出身者が6.7ポイント増えている。
- 市外出身者の出身地域をみると、「愛知県」が16.3%で最も高く、次いで「岐阜県」が10.7%、「大阪府」、「東京都」が6.6%の順となっている。中部エリアの出身者が多いのは、前回調査と同様の傾向である。

図表 54 出身地



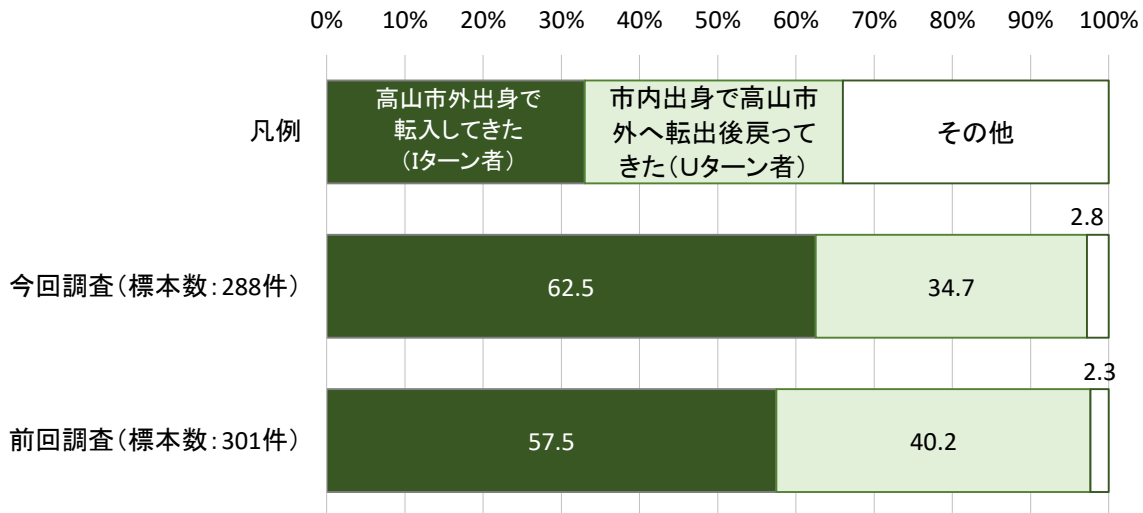
図表 55 【市外出身者】出身地域



(2) Iターン者・Uターン者の状況と特徴

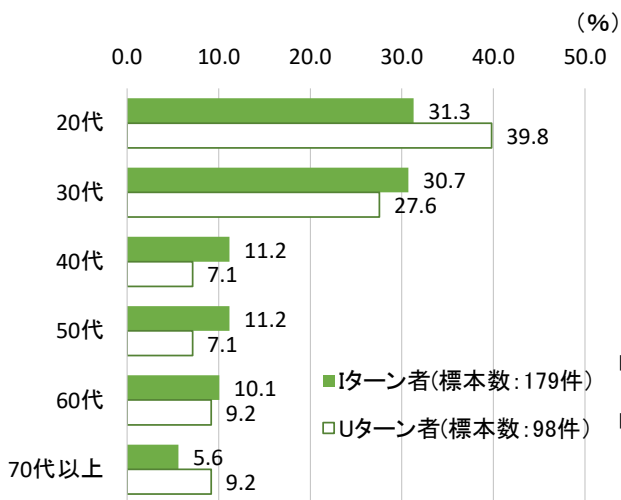
- 居住経験は、「高山市外の出身で転入してきた (Iターン者)」が62.5%、「市内出身で高山市外へ転出後、戻ってきた (Uターン者)」が34.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、Iターン者が5.0ポイント増加している。

図表 56 居住経験

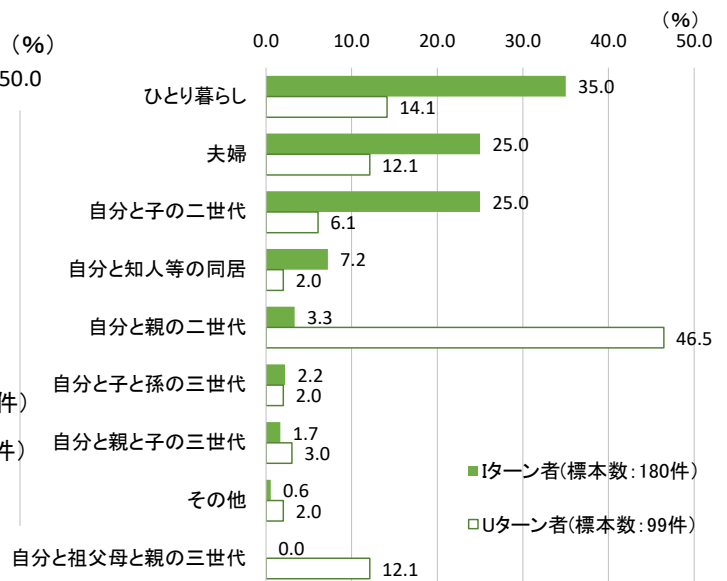


- Iターン者・Uターン者別に年代をみると、Iターン者は20代、30代がそれぞれ3割程度である。Uターン者は、20代が39.8%で最も高く、次いで30代が27.6%となっている。
- Iターン者・Uターン者別の同居者をみると、Iターン者は「ひとり暮らし」が35.0%で最も高く、次いで「夫婦」と「自分と子の二世帯」がともに25.0%となっている。Uターン者は「自分の親の二世帯」が46.5%と最も高い。

図表 57 Iターン者・Uターン者別 年代



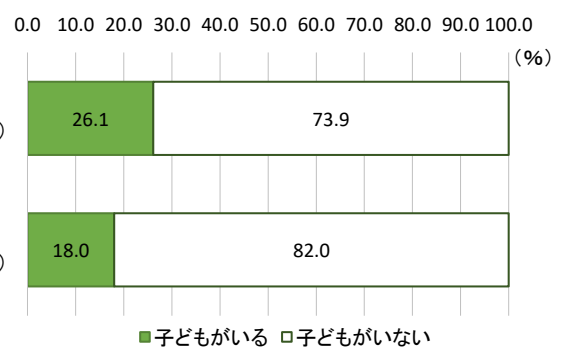
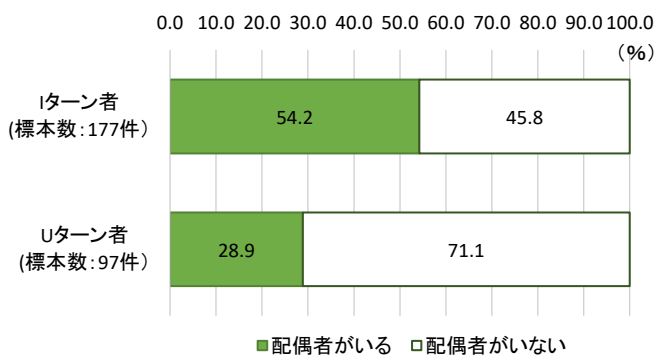
図表 58 Iターン者・Uターン者別 同居者



- Iターン者・Uターン者別に配偶者の状況をみると、配偶者がいるIターン者は54.2%、Uターン者は28.9%となっている。
- 子どもの状況をみると、子どもがいるIターン者は26.1%、Uターン者は18.0%となっている。
- 住まいの状況をみると、Iターン者は「賃貸集合住宅」が45.0%、Uターン者は「持ち家一戸建て」が76.8%で、それぞれ最も高くなっている。
- 世帯年収をみると、Iターン者は「200万以上～300万未満」が22.0%で最も高くなっている。Uターン者は親との同居者が多いこともあり、「わからない」が21.9%で最も高く、次いで「400万以上～500万未満」となっている。

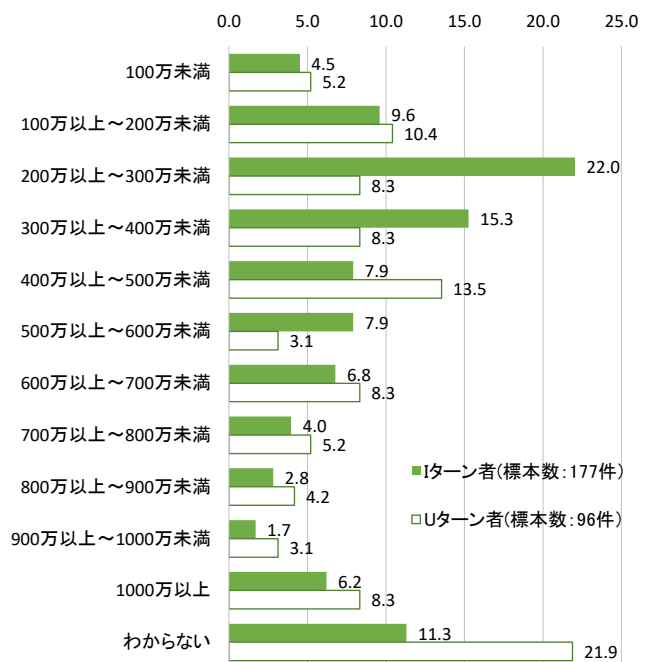
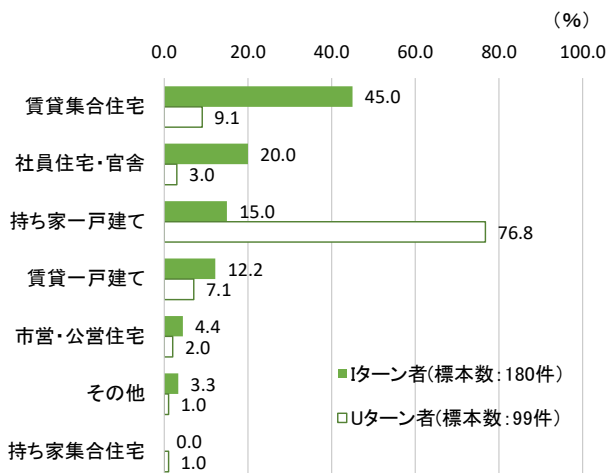
図表 59 Iターン者・Uターン者別 配偶者の有無

図表 60 Iターン者・Uターン者別 子どもの状況



図表 61 Iターン者・Uターン者別 住まいの状況

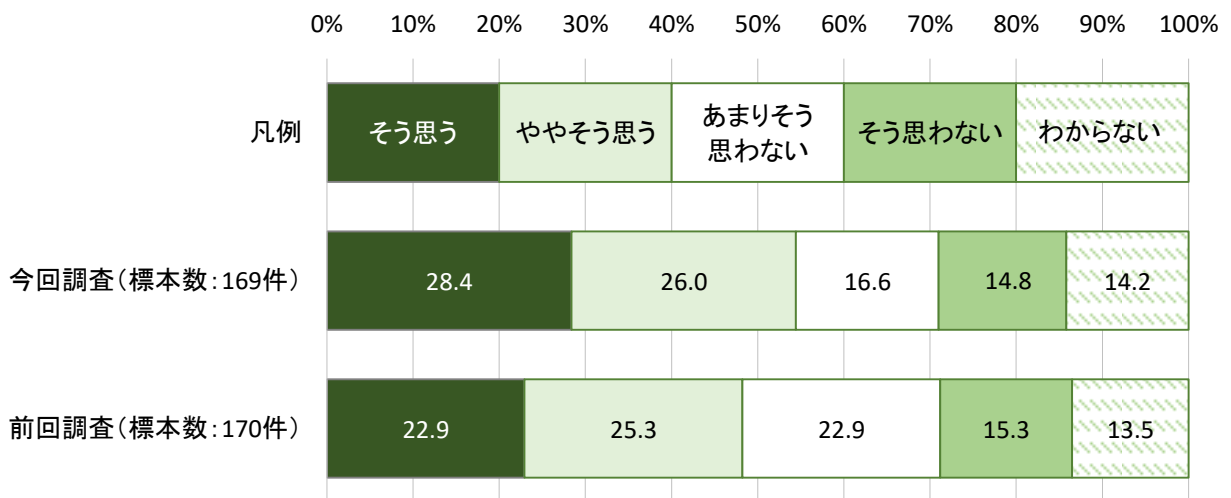
図表 62 Iターン者・Uターン者別 世帯年収



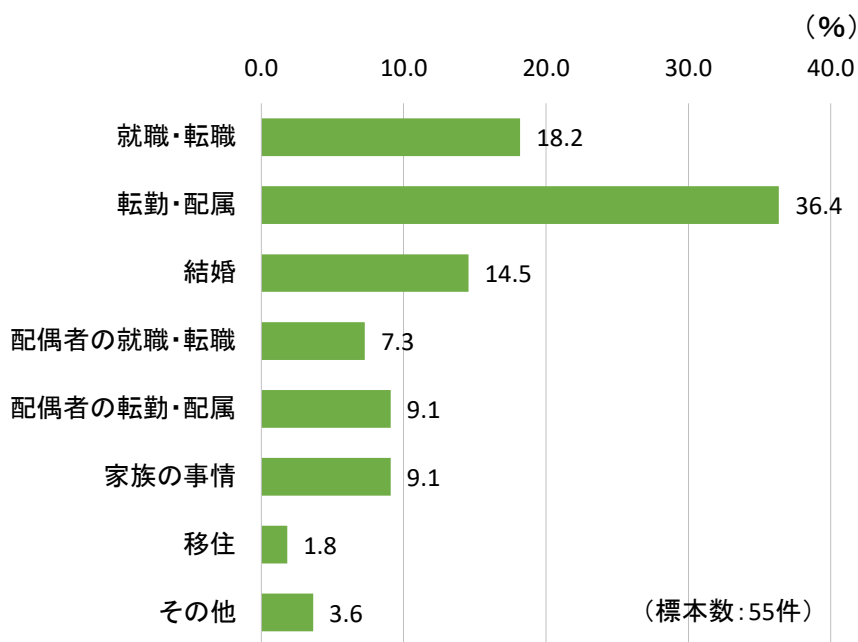
(3) I ターン の 状 況

- 転入する前、高山市は魅力的な場所だと思ったかについては、「そう思う」が28.4%で最も高く、次いで「ややそう思う」が26.0%で、合わせて54.4%となっている。一方、「あまりそう思わない」は16.6%、「そう思わない」は14.8%と、魅力的に感じていなかったとする回答は31.4%となっている。
- 魅力的な場所だと思ったかについては、「あまりそう思わない」、「そう思わない」とする回答者の転入のきっかけは、「転勤・配属」が36.4%で最も高く、次いで「就職・転職」、「結婚」の順となっている。

図表 63 【I ターン者】転入前、高山市は魅力的な場所だと思ったか

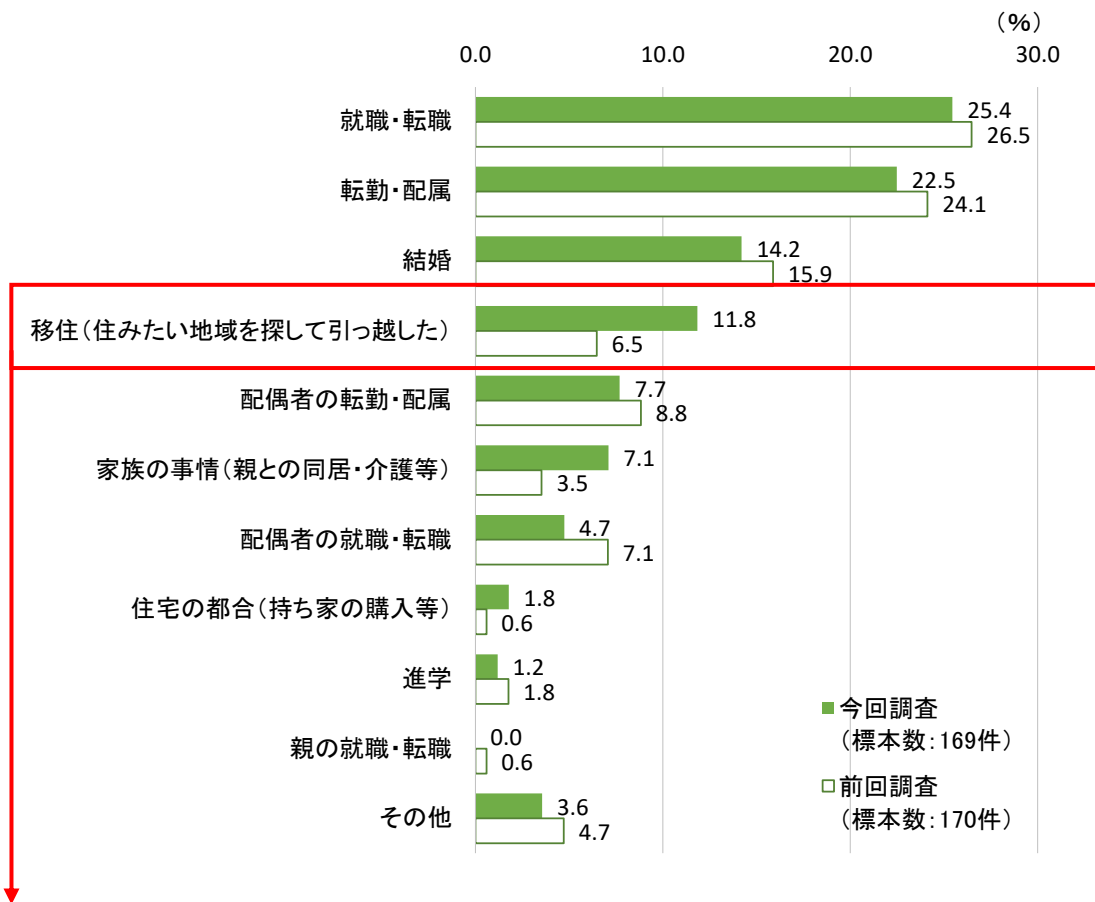


図表 64 【I ターン者のうち、転入前、高山市は魅力的な場所だと思ったかという設問に「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した人】転入のきっかけ



- 転入のきっかけは、「就職・転職」が25.4%で最も高く、次いで「転勤・配属」が22.5%となっており、仕事による転入が多い。
- 高山市を選んで引っ越してきた「移住」は11.8%となっており、前回調査より5.3ポイント増加している。
- 移住した人の情報収集の方法としては、「元々知っており意識していない」が50.0%で最も高く、次いで「家族・知人・友人の紹介」が22.2%となっている。

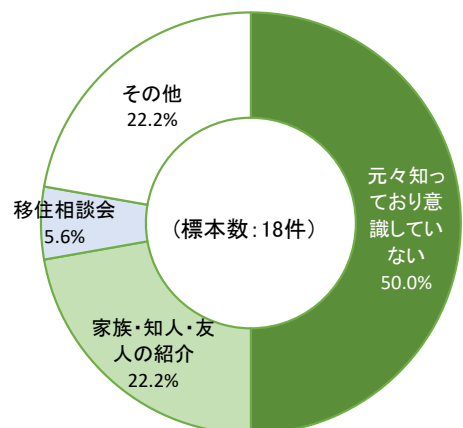
図表 65 【Iターン者】転入のきっかけ



図表 66 【Iターン者のうち、転入のきっかけを移住と回答した人】
移住先候補として高山市の情報を最初に得たところ

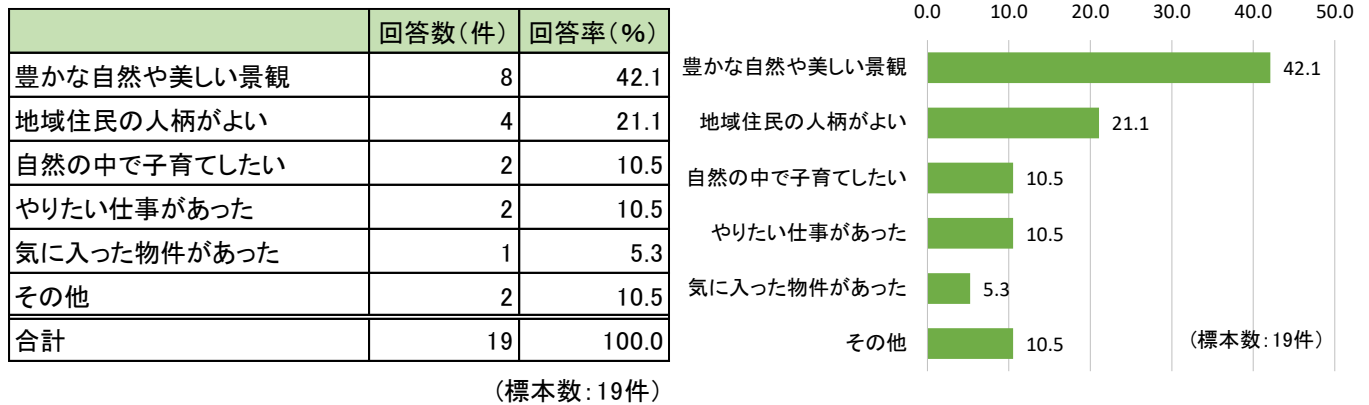
	回答数(件)	回答率(%)
元々知っており意識していない	9	50.0
家族・知人・友人の紹介	4	22.2
移住相談会	1	5.6
その他	4	22.2
合計	18	100.0

(標本数:18件)



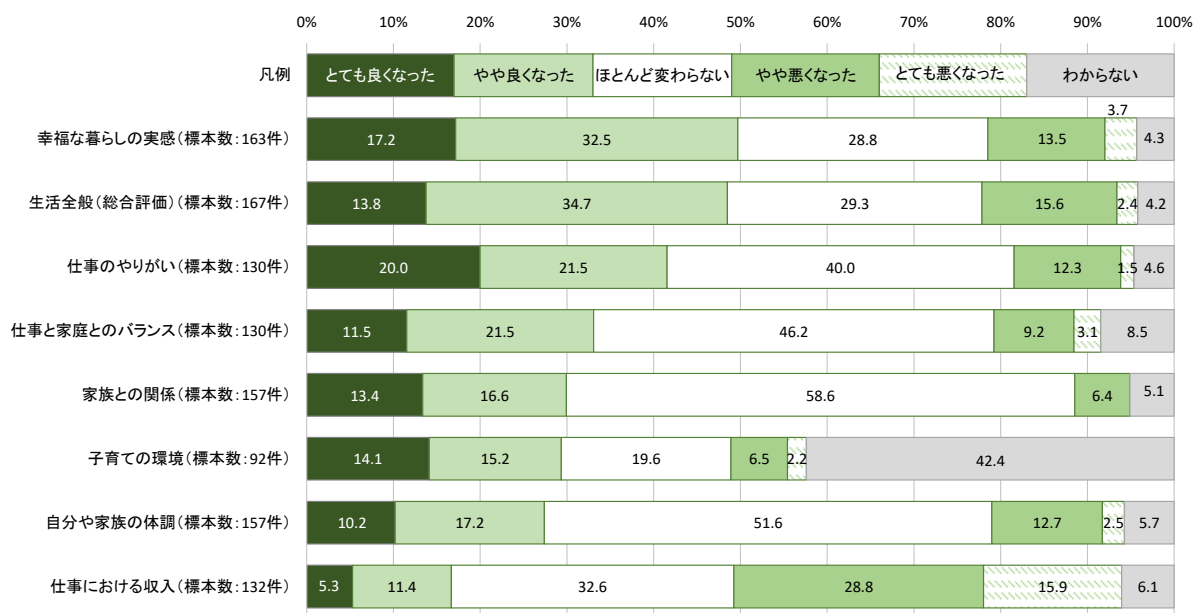
- 高山市を選んで引っ越してきた「移住」の決め手は、「豊かな自然や美しい景観」が42.1%で最も高くなっている。

図表 67 【I ターン者のうち、転入のきっかけを移住と回答した人】移住の決め手

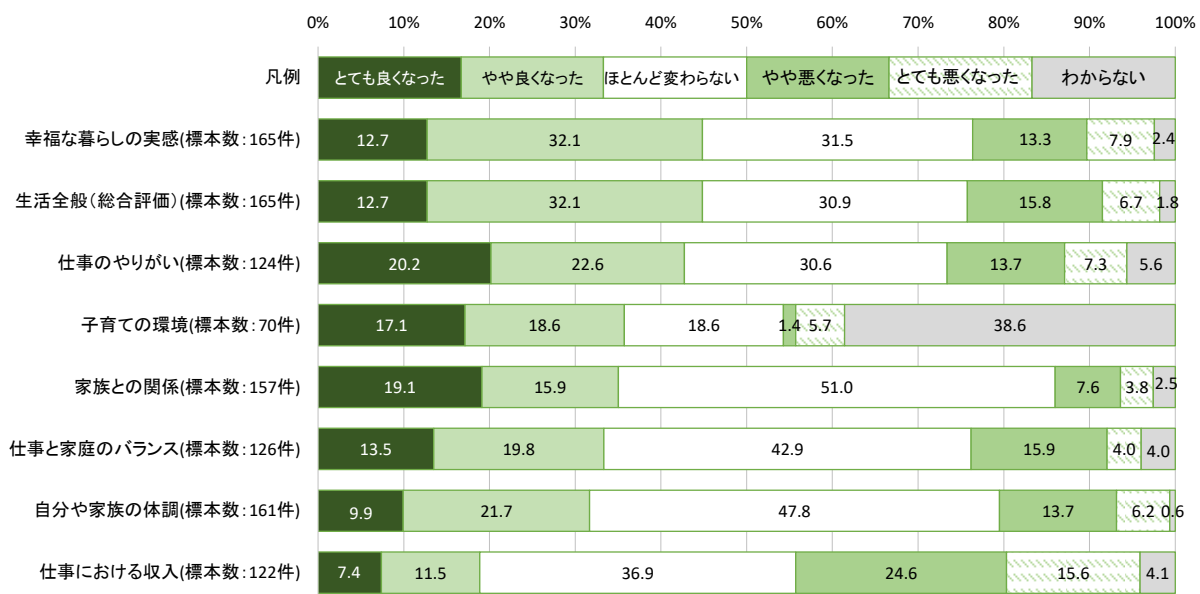


- Iターン者の生活の変化は、「とても良くなった」「やや良くなった」を合わせた割合で見ると「幸福な暮らしの実感」が49.7%で最も高く、次いで「生活全般」が48.5%、「仕事のやりがい」が41.5%の順になっている。
- 「仕事と家庭とのバランス」「家族との関係」「自分や家族の体調」は、「ほとんど変わらない」という割合が高い。
- 「仕事における収入」は「ほとんど変わらない」が32.6%と最も高いが、「やや悪くなった」が28.8%、「とても悪くなった」とする回答が15.9%であり、他項目と比較して高くなっている。

図表 68 【Iターン者】生活の変化
＜今回調査＞

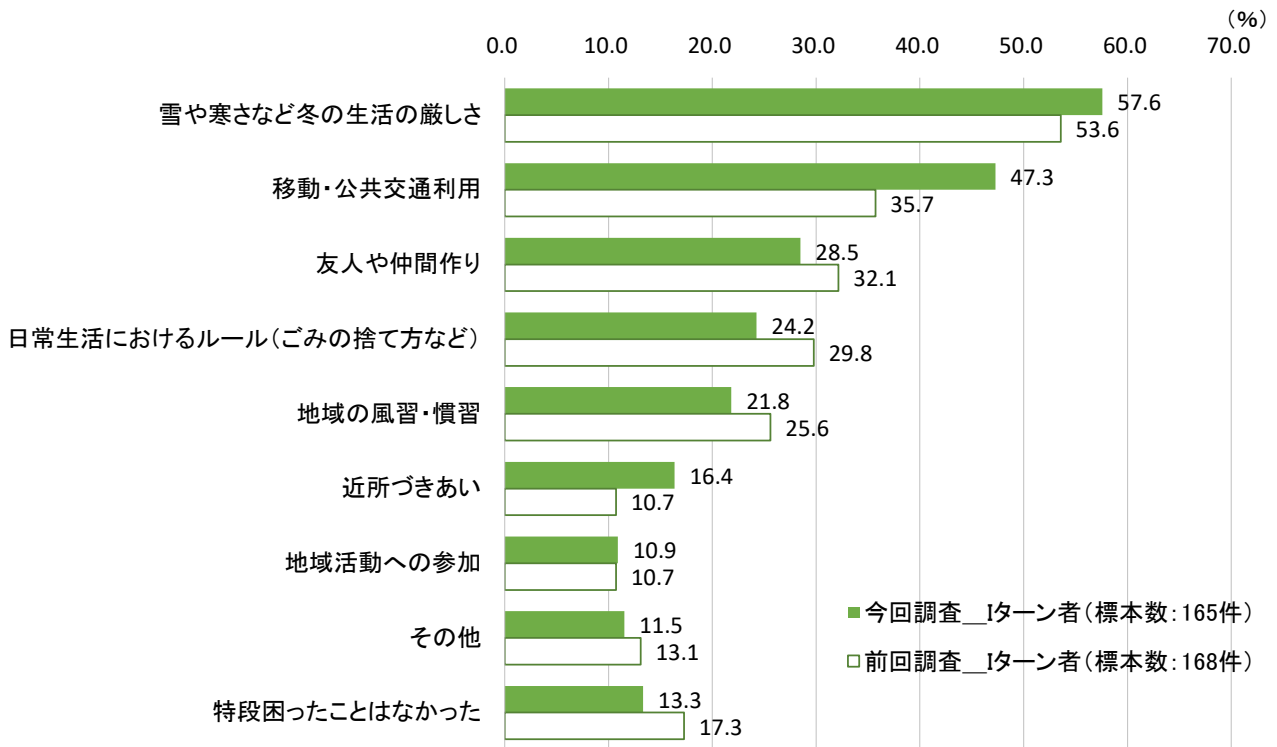


＜前回調査＞



- 転入して困ったことは、「雪や寒さなど冬の生活の厳しさ」が57.6%で最も高く、次いで「移動・公共交通利用」が47.3%、「友人や仲間作り」が28.5%、「日常生活におけるルール」が24.2%の順になっており、前回調査と同様の順位である。
- 「移動・公共交通利用」は前回調査から、11.6ポイント増加している。

図表 69 【Iターン者】転入して困ったこと [複数回答]



● **情報発信・提供に関すること**

- ・ 病院やスーパー、ホームセンターなど、地域の情報が分かるようなものを、転入届を提出した際にもらえるとありがたかった（暮らしのガイドブックのような一冊にまとめたもの）。
- ・ 公共交通に関する情報がほしい。
- ・ 地域活動の紹介や町内会などに関する情報を事前にほしかった。
- ・ 子どもの小学校に関する情報（送迎の協力が必要など）を事前に教えてほしかった。

● **住居に関すること**

- ・ 購入した家（古民家）をセルフリノベーションするための支援があると良いのではないかな。
- ・ 家の修理等にかかる費用の一部補助。
- ・ 引っ越しに係る費用の補助や、引っ越しに伴う宿泊の割引、レストランの割引などがあると良いのでは（引っ越してすぐご飯を作れなかったり、転居してすぐには住むことができず、ホテルに泊まったりするため）。

● **生活環境（冬期の暮らし）に関すること**

- ・ 冬期の生活、特に車に関するアドバイスなどがほしい。
- ・ 冬の暮らしに必要な備品や支給品などについて相談ができると助かる。

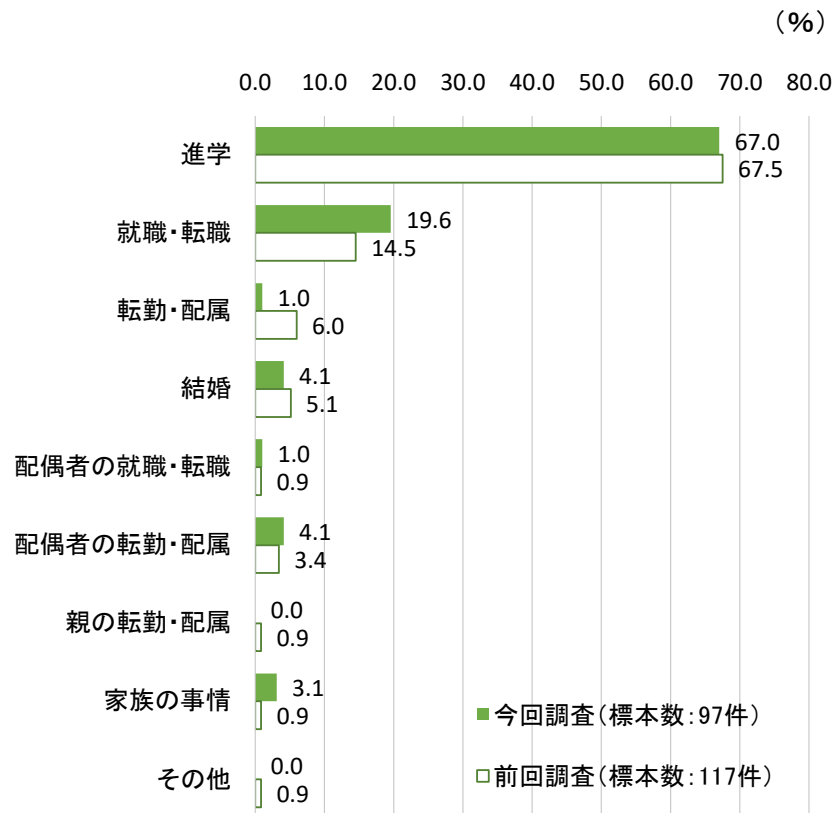
● **地域コミュニティに関すること**

- ・ 以前住んでいた町では、月に1度くらいのペースで転入者向けのオリエンテーションがあり、子どもを連れて遊びに行ける場所や市内の育児サークルを紹介してもらったり、地域の年中行事や特産品についての紹介があった。高山市でもそういった支援があると心強いと思う。
- ・ 地域の人と接する場や機会、お祭りなどの行事があれば紹介してほしい。
- ・ 転入者同士のコミュニティや集まりの場などがあれば、参加したい。

(4) Uターンの状況

- 転出のきっかけは「進学」が67.0%で最も高く、次いで「就職・転職」が19.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「就職・転職」による転出が5.1ポイント増加し、「転勤・配属」による転出が5.0ポイント減少している。
- 転出時の年代は「10代」が71.9%で最も高く、次いで「20代」が17.7%となっており、進学や就職などで若い年代が市外へ転出していることがうかがえる。

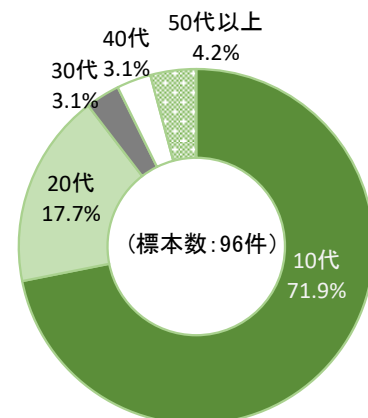
図表 70 【Uターン者】転出のきっかけ



図表 71 【Uターン者】転出時の年代

	回答数(件)	回答率(%)
10代	69	71.9
20代	17	17.7
30代	3	3.1
40代	3	3.1
50代以上	4	4.2
合計	96	100.0

(標本数:96件)

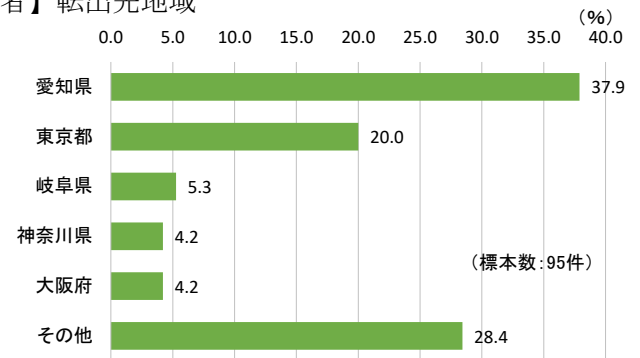


- 転出先の地域は、「愛知県」が 37.9%で最も高く、次いで「東京都」が 20.0%となっている。

図表 72 【Uターン者】 転出先地域

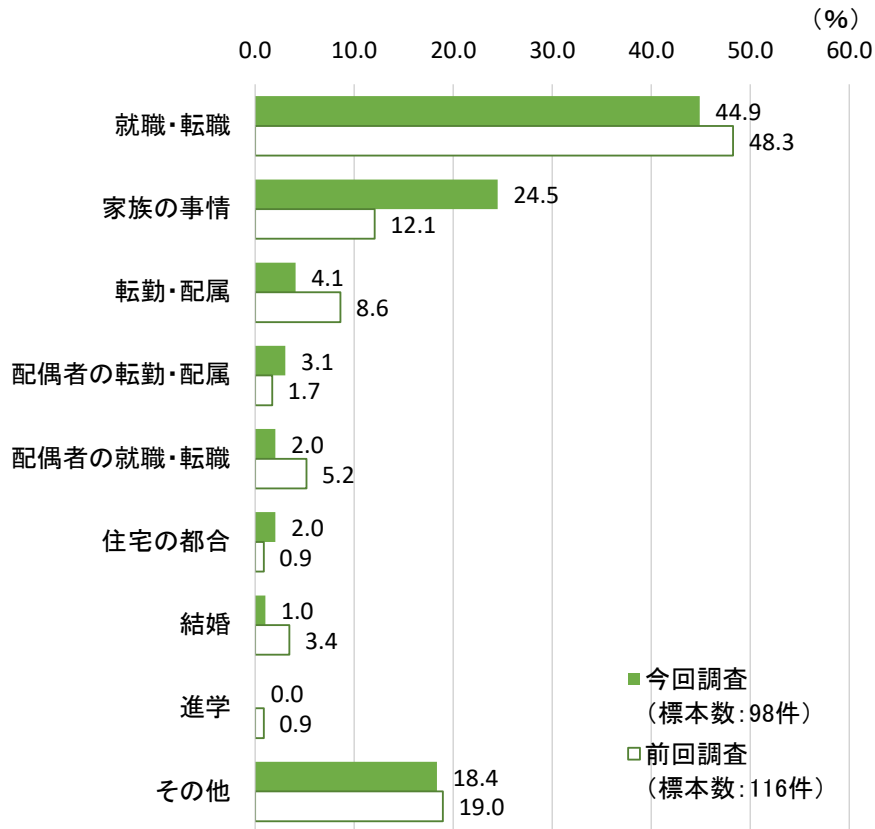
	回答数(件)	回答率(%)
愛知県	36	37.9
東京都	19	20.0
岐阜県	5	5.3
神奈川県	4	4.2
大阪府	4	4.2
その他	27	28.4
合計	95	100.0

(標本数:95件)



- 戻ってきたきっかけは、「就職・転職」が44.9%で最も高く、次いで「家族の事情」が24.5%となっている。前回調査と比較すると、「家族の事情」が12.4ポイント増加している。
- 転入時の年代は、「20代」が50.5%で最も高く、次いで「30代」が22.1%、「50代以上」が20.0%の順となっている。

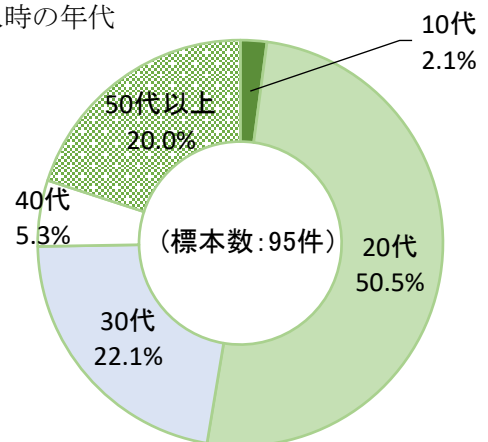
図表 73 【Uターン者】転入のきっかけ



図表 74 【Uターン者】転入時の年代

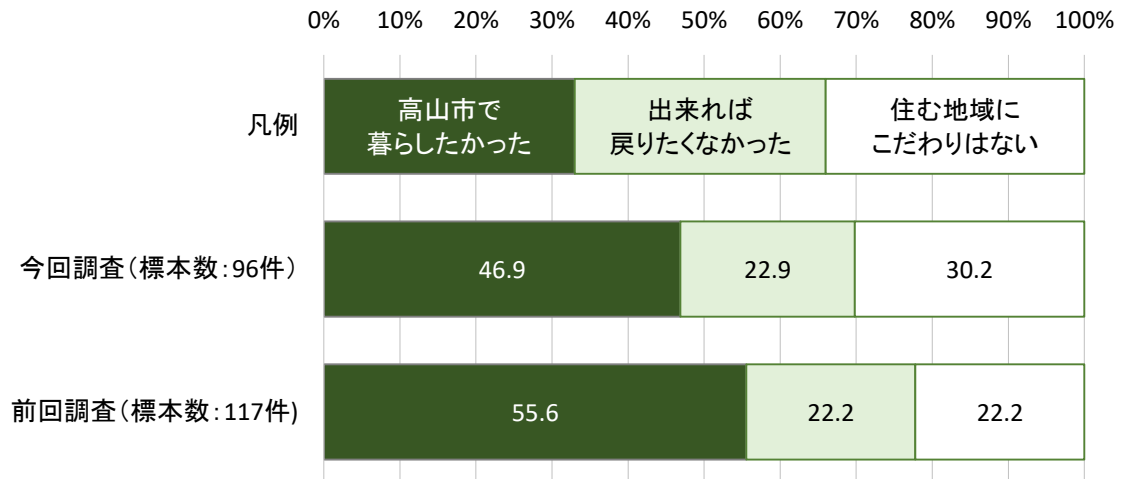
	回答数(件)	回答率(%)
10代	2	2.1
20代	48	50.5
30代	21	22.1
40代	5	5.3
50代以上	19	20.0
合計	95	100.0

(標本数: 95件)



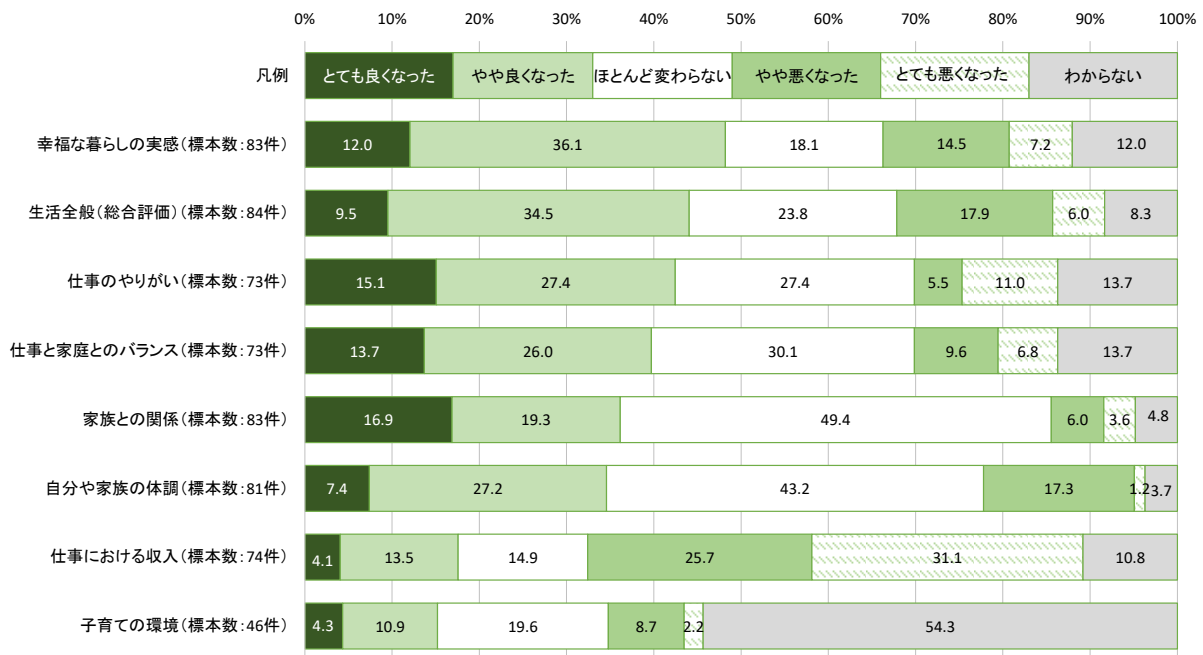
- Uターン時の心境は、「高山市で暮らしたかった」が46.9%であった一方で、「住む地域にこだわりはない」が30.2%あった。
- 前回調査と比較すると、「高山市で暮らしたかった」が8.7ポイント減少しており、一方、「住む地域にこだわりはない」が8.0ポイント増加している。

図表 75 【Uターン者】Uターン時の心境

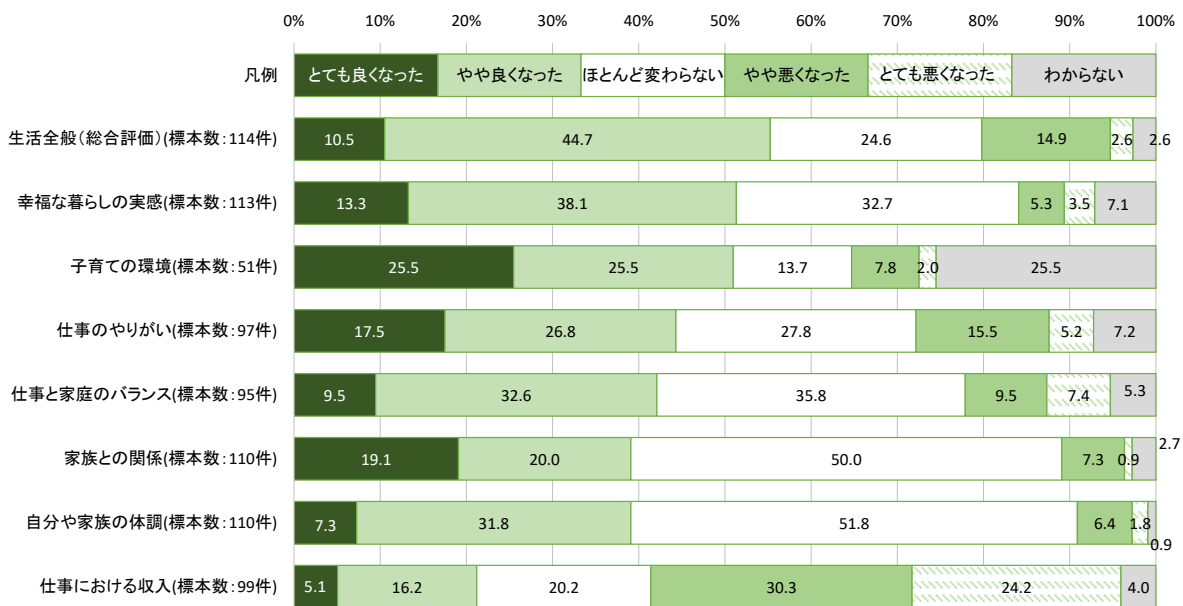


- Uターン者の生活の変化は「とても良くなった」「やや良くなった」を合わせた割合をみると、「幸福な暮らしの実感」が48.1%で最も高く、次いで「生活全般」が44.0%、「仕事のやりがい」が42.5%の順となっている。「家族との関係」「自分や家族の体調」は「ほとんど変わらない」が高くなっている。
- 「仕事における収入」は「とても悪くなった」が31.1%で最も高くなっている。他項目と比較しても特に高くなっている。

図表 76 【Uターン者】生活の変化
 <今回調査>



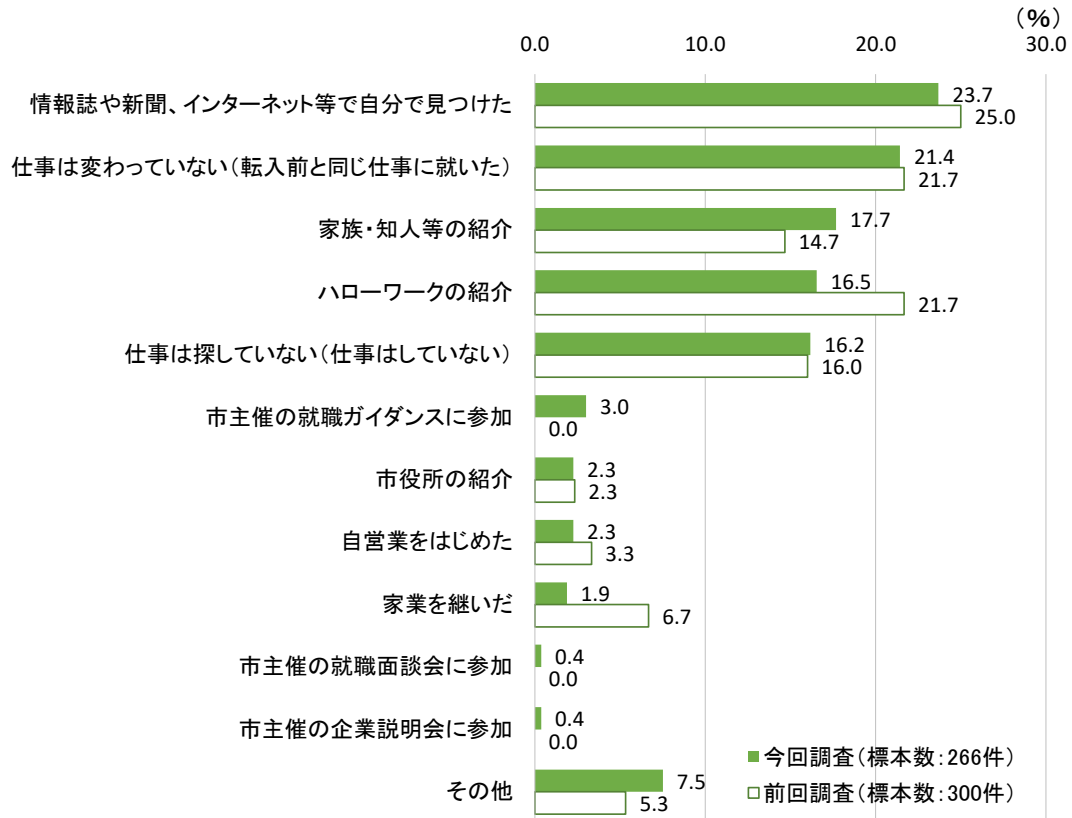
<前回調査>



(5) 仕事・住居のを見つけ方

- 仕事を見つけた方法は「情報誌や新聞、インターネット等で自分で見つけた」が23.7%で最も高く、次いで「仕事は変わっていない(転入前と同じ仕事に就いた)」が21.4%、「家族・知人等の紹介」が17.7%の順となっている。
- 前回調査と比較すると、「ハローワークの紹介」は5.2ポイント、「家業を継いだ」は4.8ポイント、それぞれ減少している。

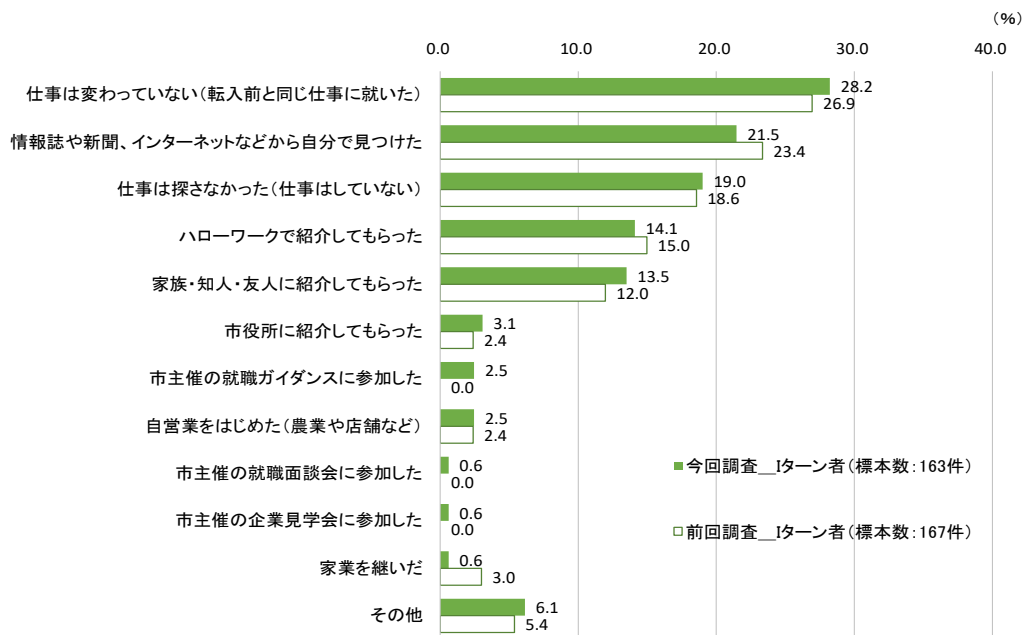
図表 77 仕事を見つけた方法 [複数回答]



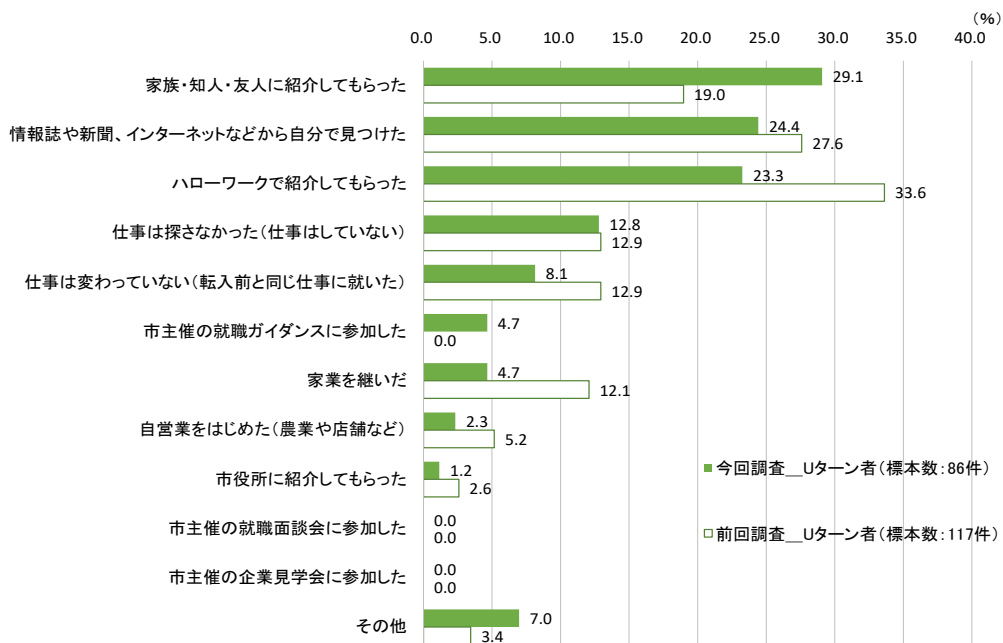
※前回調査では「市主催の就職ガイダンスに参加」「市主催の就職面談会に参加」「市主催の企業説明会に参加」の選択肢は設けていない。

- Iターン者、Uターン者別にみると、Iターン者は「仕事は変わっていない（転入前と同じ仕事に就いた）」が28.2%で最も高く、次いで「情報誌や新聞、インターネットなどから自分で見つけた」が21.5%となっている。
- Uターン者は、「家族・知人・友人に紹介してもらった」が29.1%で最も高く、次いで「情報誌や新聞、インターネットなどから自分で見つけた」が24.4%となっている。前回調査で最も高かった「ハローワークで紹介してもらった」が10.3ポイント減少し、一方、「家族・知人・友人に紹介してもらった」が10.1ポイント増加している。

図表 78 【Iターン者】仕事を見つけた方法 [複数回答]

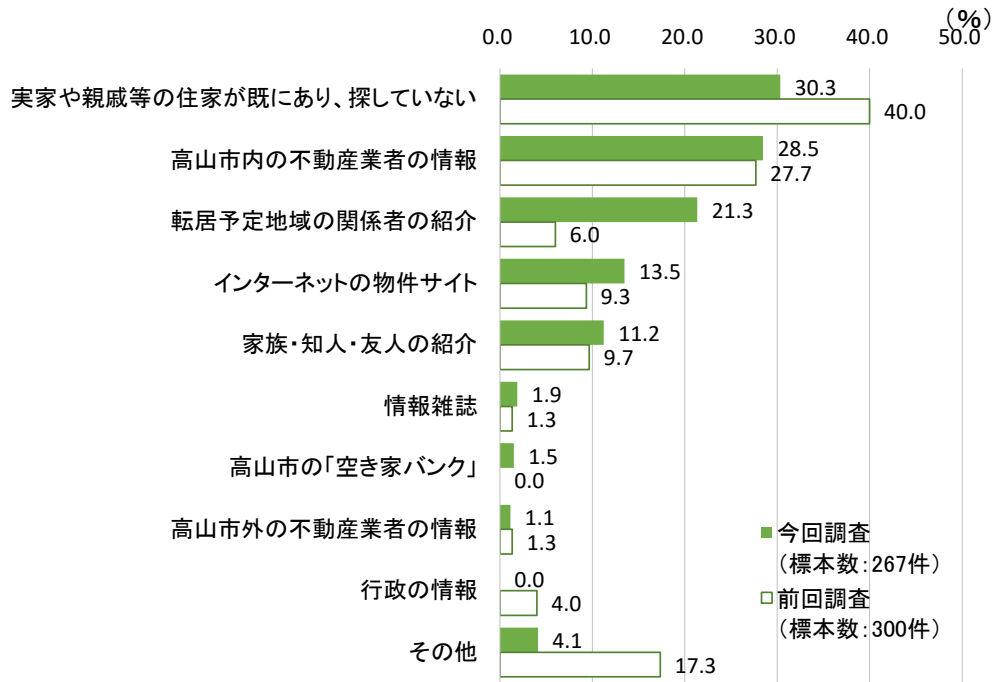


図表 79 【Uターン者】仕事を見つけた方法 [複数回答]



- 住宅を見つけた方法は、「実家や親戚等の住家が既にあり、探していない」が30.3%で最も高く、次いで「高山市内の不動産業者の情報」が28.5%となっている。
- Iターン者・Uターン者別にみると、Iターン者は「高山市内の不動産業者の情報」が最も高く、次いで「転居予定地域の関係者の紹介」が高くなっている。Uターン者は「実家や親戚等の住家が既にあり、探していない」が約7割を占めている。

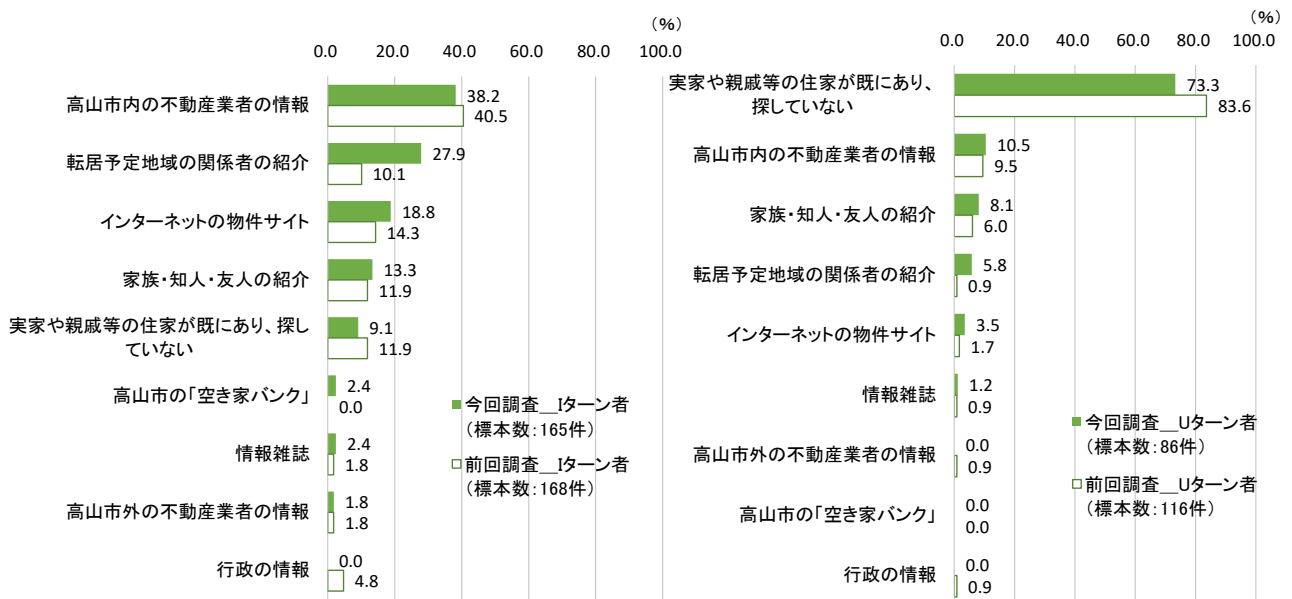
図表 80 住宅を見つけた方法 [複数回答]



図表 81 Iターン者・Uターン者別 住宅を見つけた方法 [複数回答]

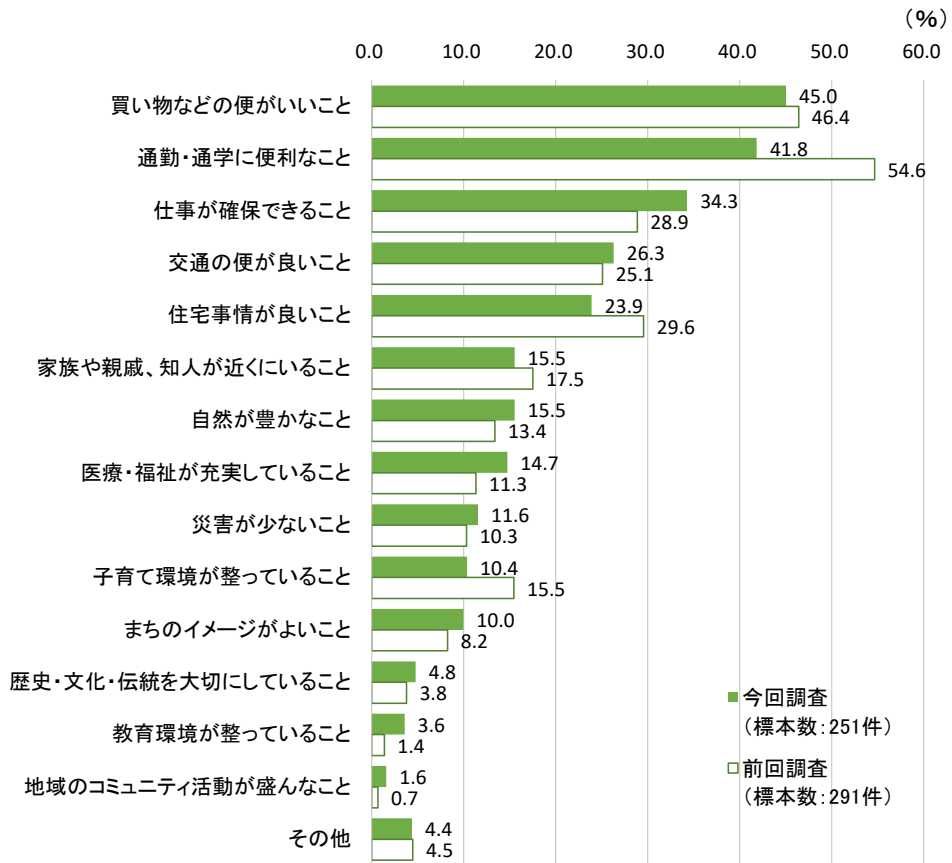
【Iターン者】

【Uターン者】



- 住む場所を探す際に重視したことは、「買い物などの便がいいこと」が45.0%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が41.8%、「仕事が確保できること」が34.3%の順となっている。「通勤・通学に便利なこと」は前回調査よりも12.8ポイント減少している。

図表 82 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]

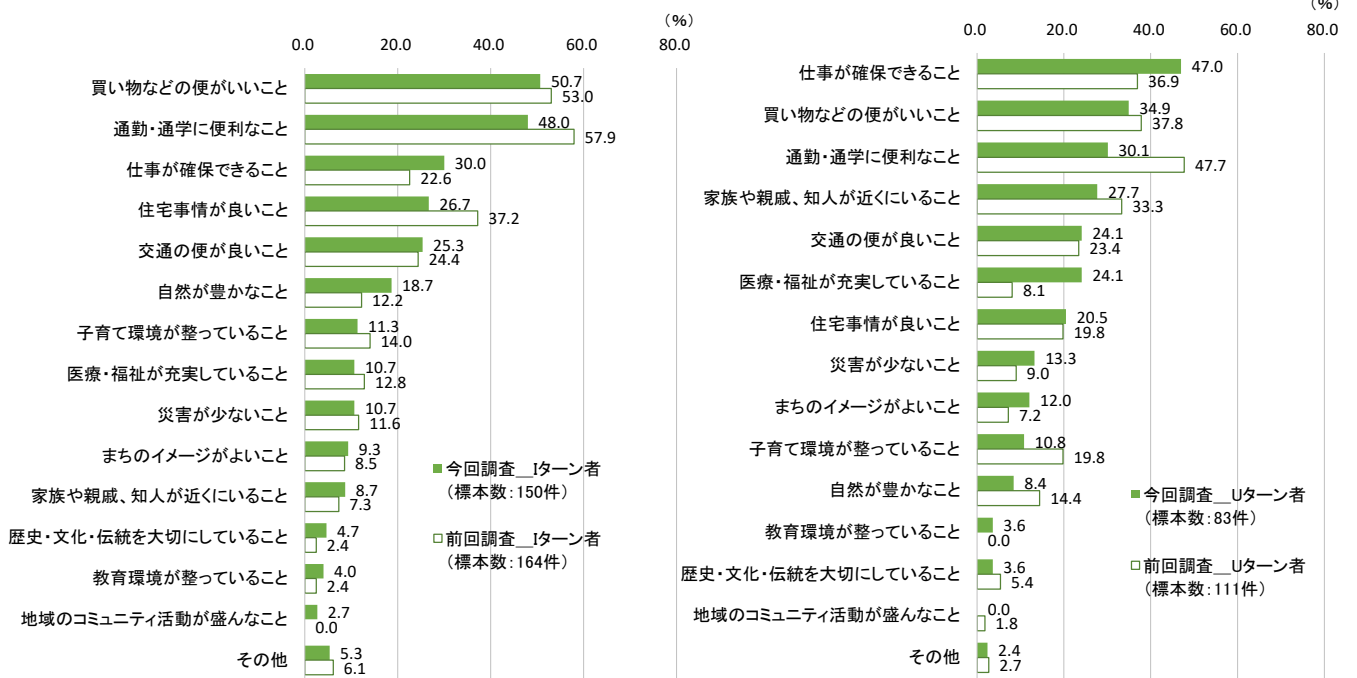


- Iターン者・Uターン者別に、住む場所を探す際に重視したことをみると、Iターン者は「買い物などの便がいいこと」が50.7%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が48.0%となっている。Uターン者は「仕事が確保できること」が47.0%で最も高く、次いで「買物などの便がいいこと」が34.9%となっている。

図表 83 Iターン者・Uターン者別 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]

【Iターン者】

【Uターン者】

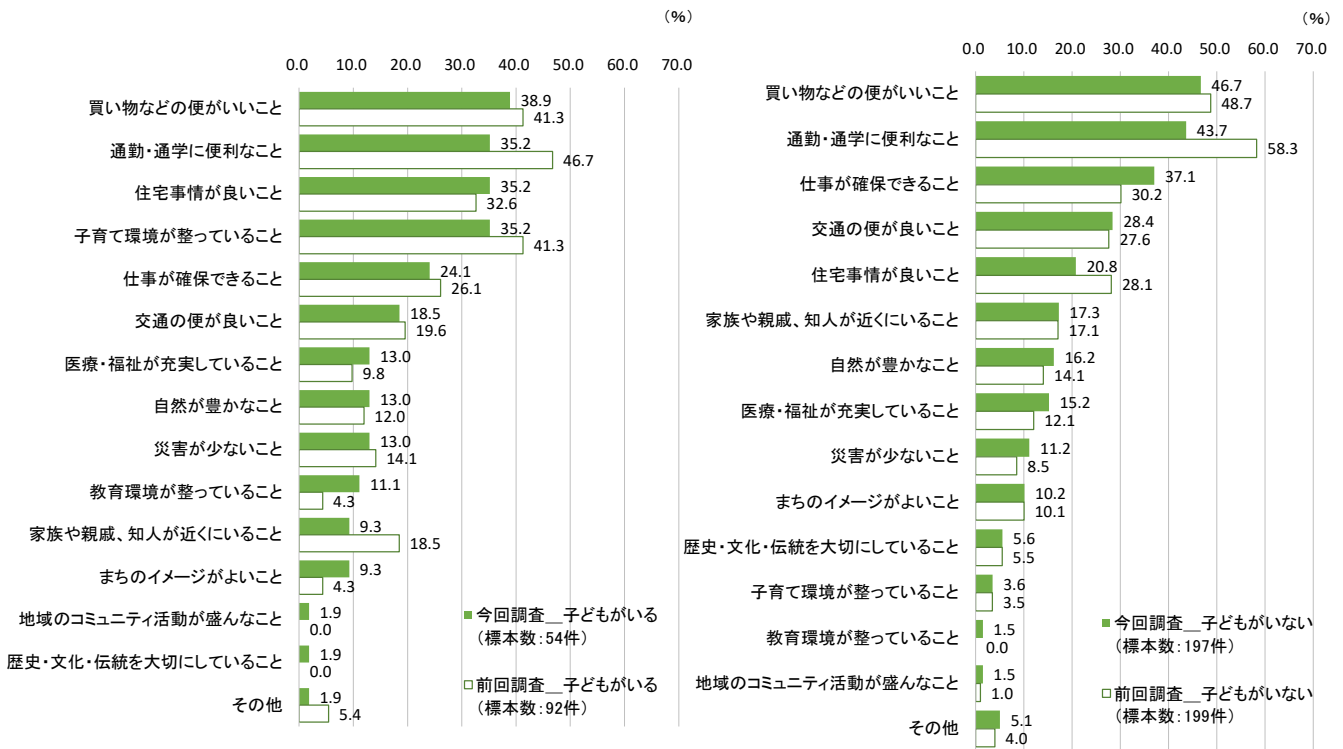


- 子どもの有無別に、住む場所を探す際に重視したことをみると、子どもがいる回答者は「買い物などの便がいいこと」が38.9%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」「住宅事情が良いこと」「子育て環境が整っていること」がそれぞれ35.2%となっている。
- 子どもがいない回答者は、「買い物などの便がいいこと」が46.7%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利なこと」が43.7%、「仕事が確保できること」が37.1%の順となっている。

図表 84 子どもの有無別 住む場所を探す際に重視したこと [複数回答]

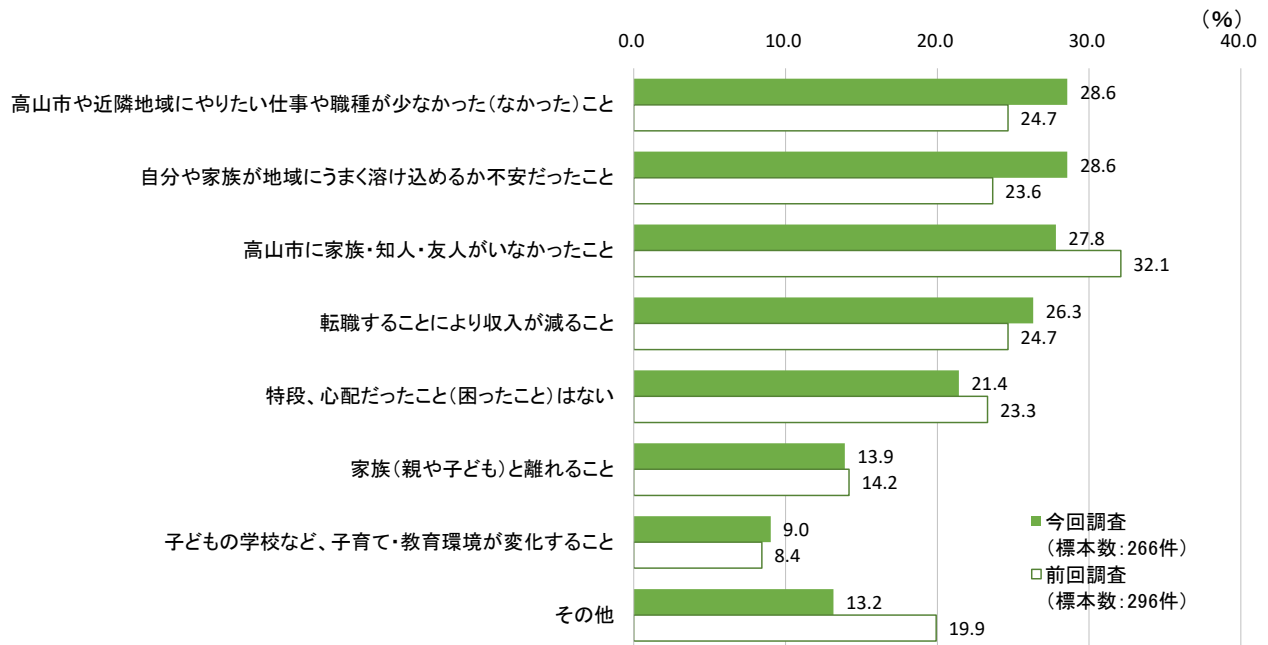
【子どもがいる】

【子どもがいない】



- 転入（移住）を検討する際に心配だったことは、「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかった（なかった）こと」と「自分や家族が地域にうまく溶け込めるか不安だったこと」が 28.6%、次いで「高山市に家族・知人・友人がいなかったこと」が 27.8%となっている。

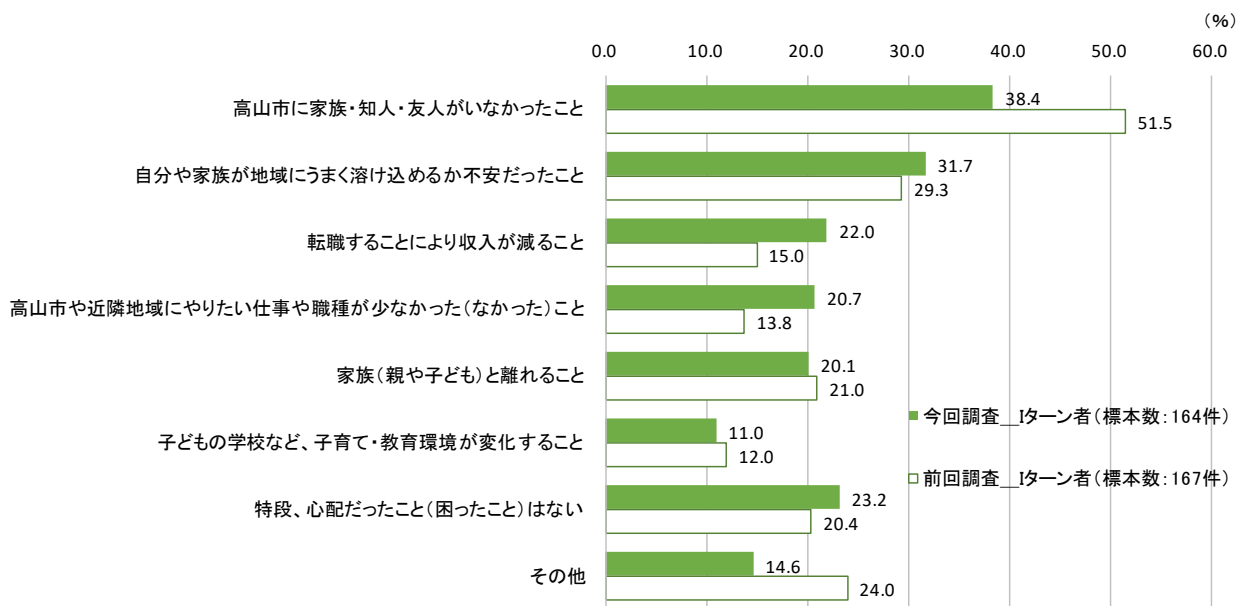
図表 85 転入（移住）にあたり心配だったこと [複数回答]



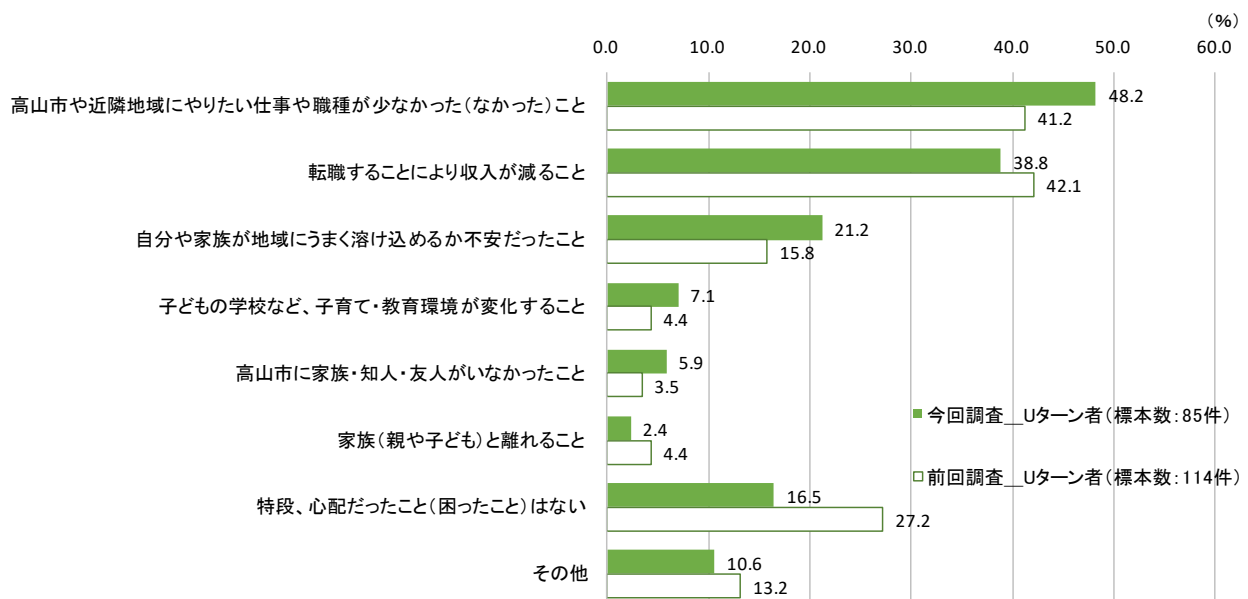
- Iターン者・Uターン者別に、転入（移住）にあたり心配だったことをみると、Iターン者は、「高山市に家族・知人・友人がいなかったこと」が38.4%で最も高くなっている。次いで「自分や家族が地域にうまく溶け込めるか不安だったこと」が31.7%となっており、地域とのつながりや人間関係に関する不安が上位にあがっている。
- Uターン者は、「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかった（なかった）こと」が48.2%で最も高く、次いで「転職することにより収入が減ること」が38.8%となっており、仕事や収入に関する不安が上位にあがっている。

図表 86 Iターン者・Uターン者別 転入（移住）にあたり心配だったこと〔複数回答〕

【Iターン者】

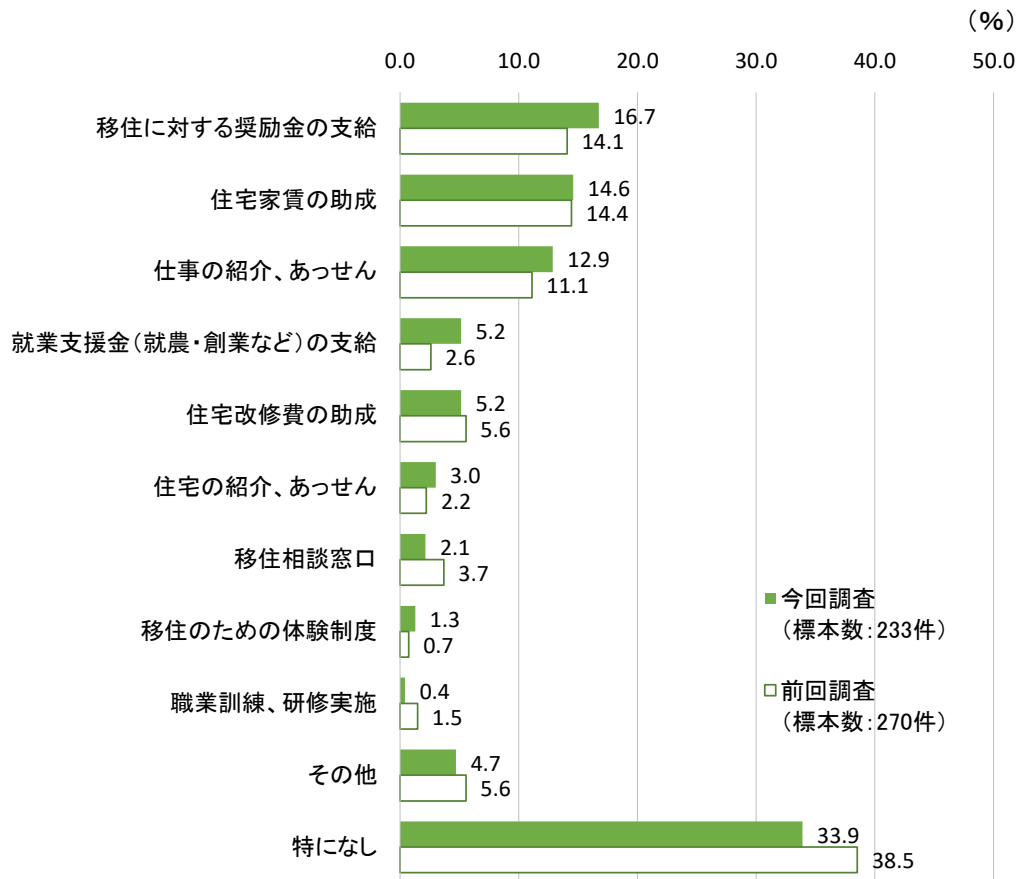


【Uターン者】



- 移住にあたり行政に期待する取り組み・支援は、「特になし」が33.9%で最も高く、次いで「移住に対する奨励金の支給」が16.7%、「住宅家賃の助成」が14.6%の順となっており、経済的支援を求める意見が多くなっている。

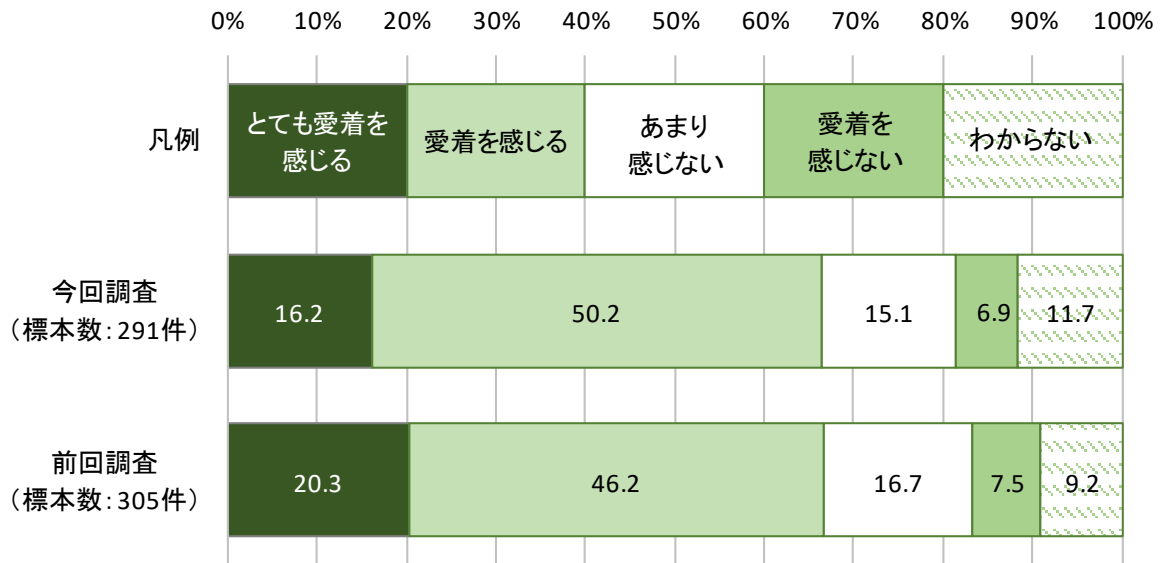
図表 87 行政に期待する取り組み・支援



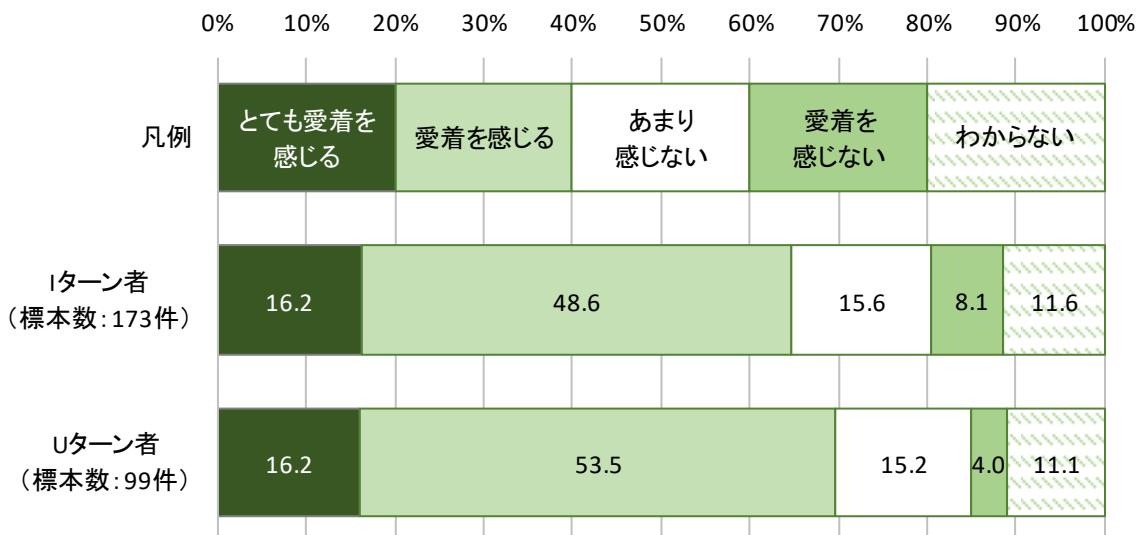
(6) 地域・暮らしについて

- 高山市への愛着は、「とても愛着を感じる」が16.2%、「愛着を感じる」が50.2%で合わせて66.4%で前回調査(66.5%)とほぼ同様となっている。
- Iターン者は「とても愛着を感じる」が16.2%、「愛着を感じる」が48.6%で、合わせて64.8%が愛着を感じている。Uターン者は「とても愛着を感じる」が16.2%、「愛着を感じる」が53.5%で合わせて69.7%であり、Iターン者よりも愛着を感じている人の割合がやや高い。

図表 88 高山市への愛着

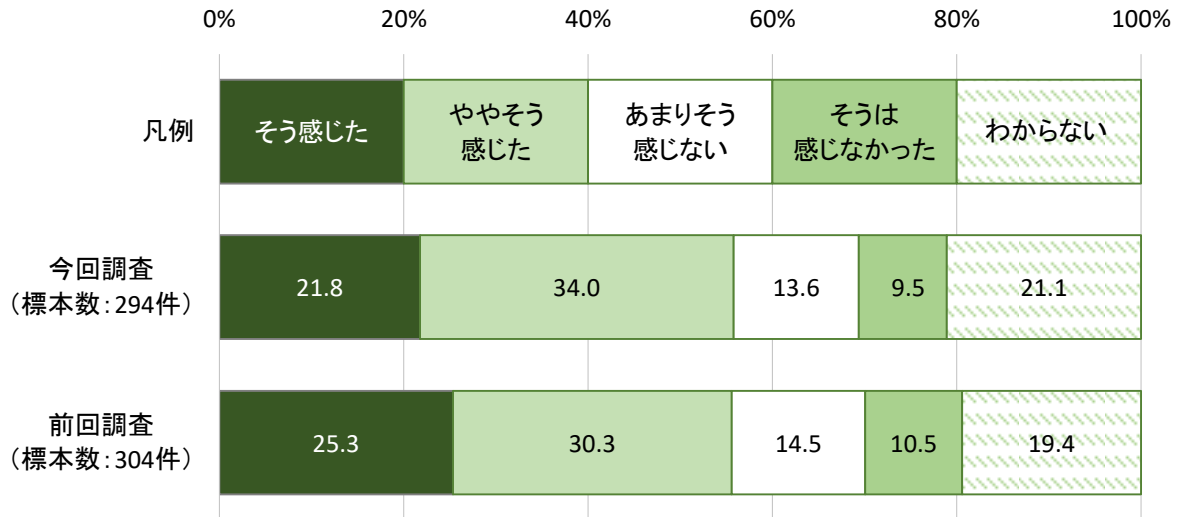


図表 89 Iターン者・Uターン者別 高山市への愛着

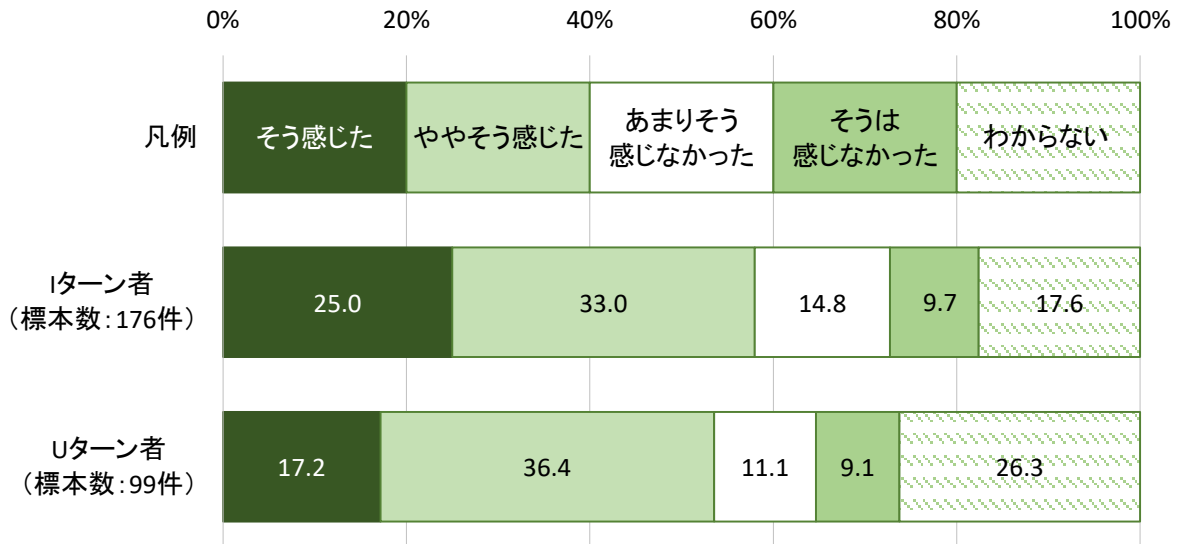


- 高山市は移住者をあたたかく迎える地域かについては、「そう感じた」は21.8%、「ややそう感じた」は34.0%で、合わせて55.8%となっている。
- Iターン者は「そう感じた」が25.0%、「ややそう感じた」が33.0%で、合わせて58.0%があたたかく迎える地域と感じている。Uターン者はあたたかく迎える地域と感じている回答は53.6%となっている。

図表 90 移住者をあたたかく迎える地域か

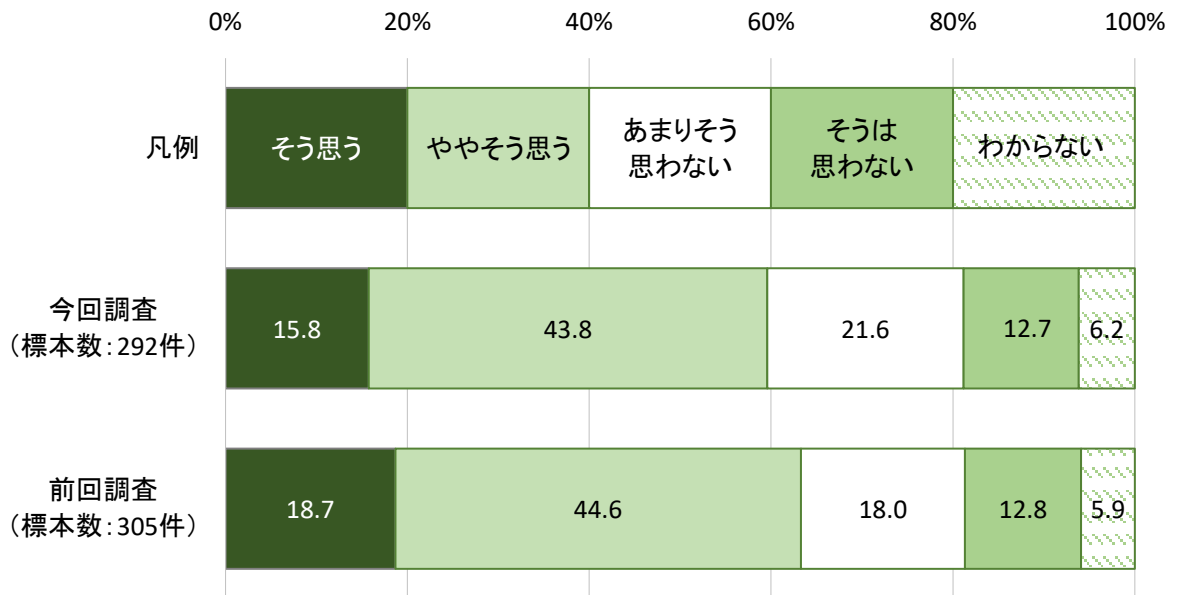


図表 91 Iターン者・Uターン者別 移住者をあたたかく迎える地域か

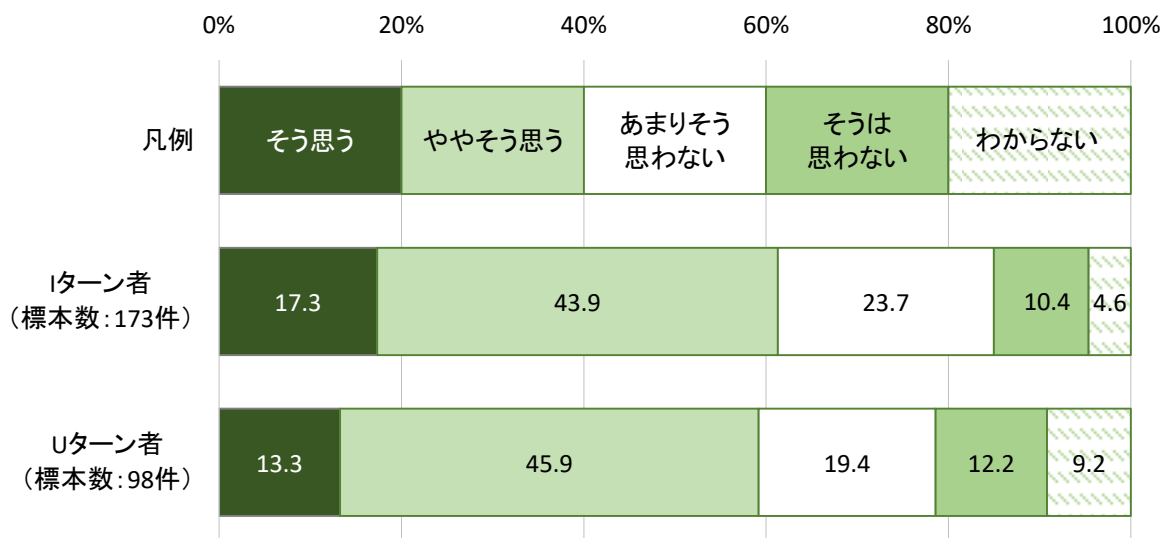


- 高山市は暮らしやすい地域かについては、「そう思う」が15.8%、「ややそう思う」が43.8%で、合わせて59.6%となっている。
- Iターン者は「ややそう思う」が43.9%で最も高く、「あまりそう思わない」も23.7%となっている。Uターン者も、「ややそう思う」が45.9%で最も高いが、「あまりそう思わない」も19.4%となっている。

図表 92 高山市は暮らしやすい地域か

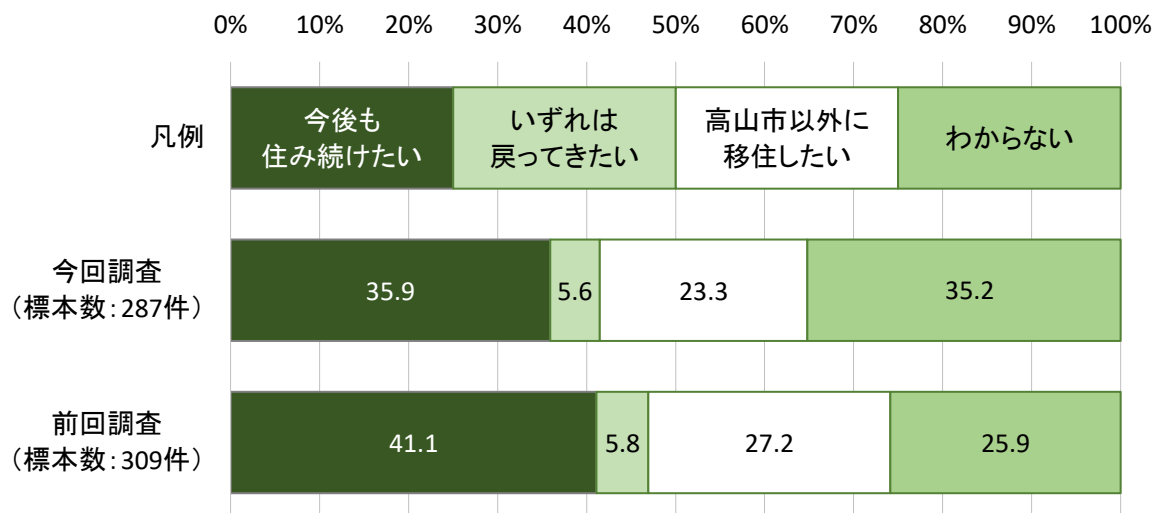


図表 93 Iターン者・Uターン者別 高山市は暮らしやすい地域か

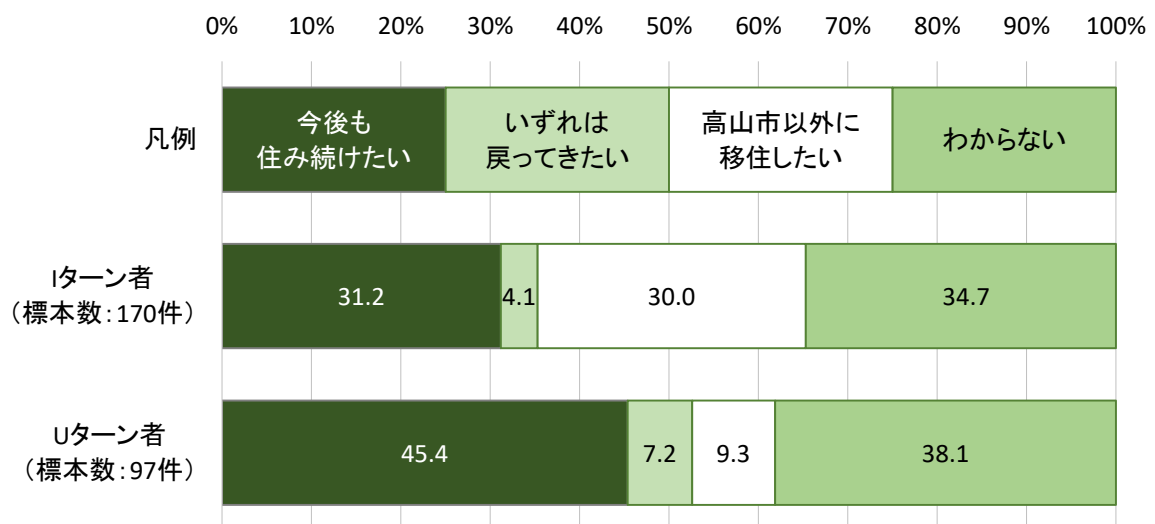


- 高山市での定住意向は、「今後も住み続けたい」が35.9%で最も高く、次いで「わからない」が35.2%、「高山市以外に移住したい」が23.3%の順となっている。前回調査と比較して「今後も住み続けたい」が5.2ポイント減少し、「わからない」が9.3ポイント増加している。
- 「今後も住み続けたい」は、Uターン者が45.4%となっているが、Iターン者は31.2%にとどまっているほか、Iターン者の30.0%が「高山市以外に移住したい」と回答している。

図表 94 高山市での定住意向

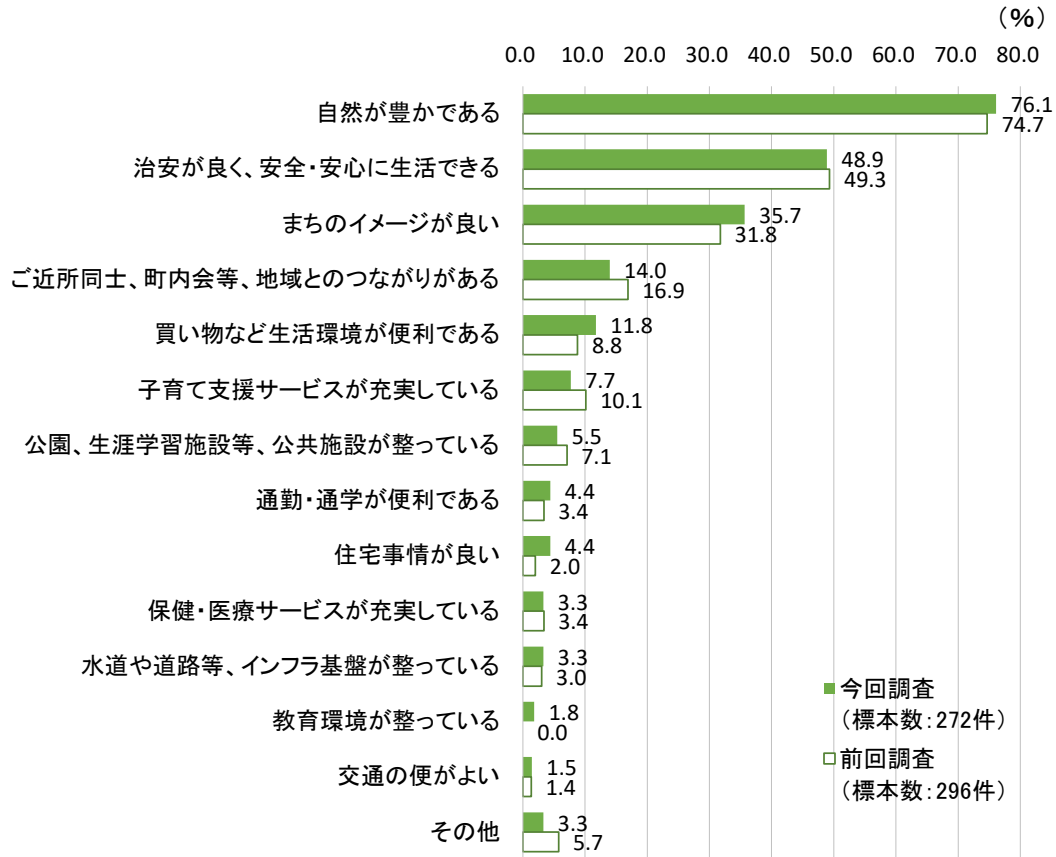


図表 95 Iターン者・Uターン者別 高山市での定住意向



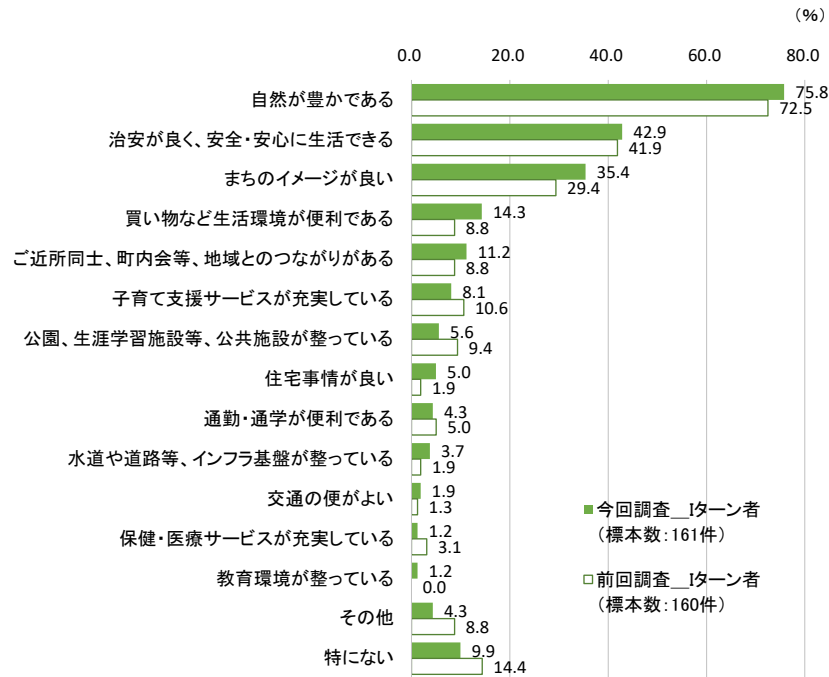
- 高山市の暮らしやすい点は、「自然が豊かである」が76.1%で最も高く、次いで「治安が良く、安全・安心に生活できる」が48.9%、「まちのイメージが良い」が35.7%の順となっている。

図表 96 高山市の暮らしやすい点 [複数回答]

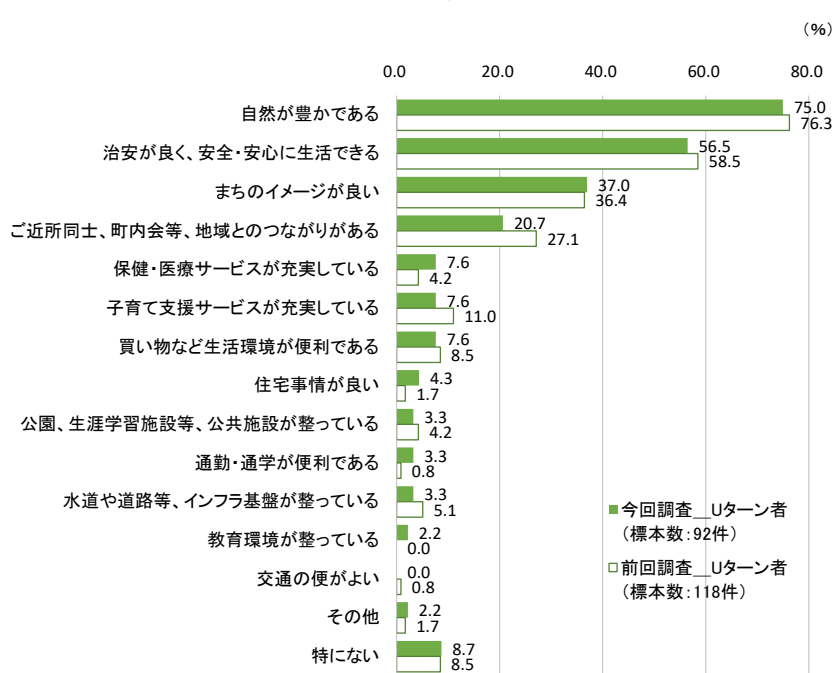


- Iターン者、Uターン者ともに、高山市の暮らしやすい点は「自然が豊かである」が最も高く、次いで「治安が良く、安全・安心に生活できる」、「まちのイメージが良い」の順となっている。
- 4番目以降をみると、Iターン者は「買い物など生活環境が便利である」が14.3%となっており、Uターン者より6.7ポイント高くなっている。
- Uターン者は「ご近所同士、町内会等、地域とのつながりがある」が20.7%で、Iターン者より9.5ポイント高くなっている。

図表 97 【Iターン者】高山市の暮らしやすい点 [複数回答]

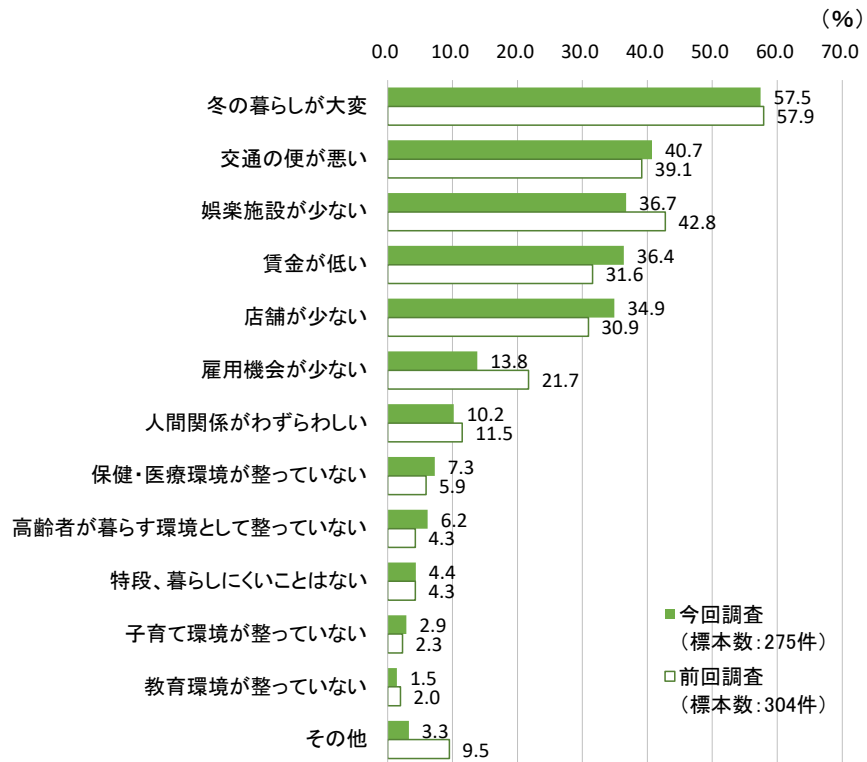


図表 98 【Uターン者】高山市の暮らしやすい点 [複数回答]



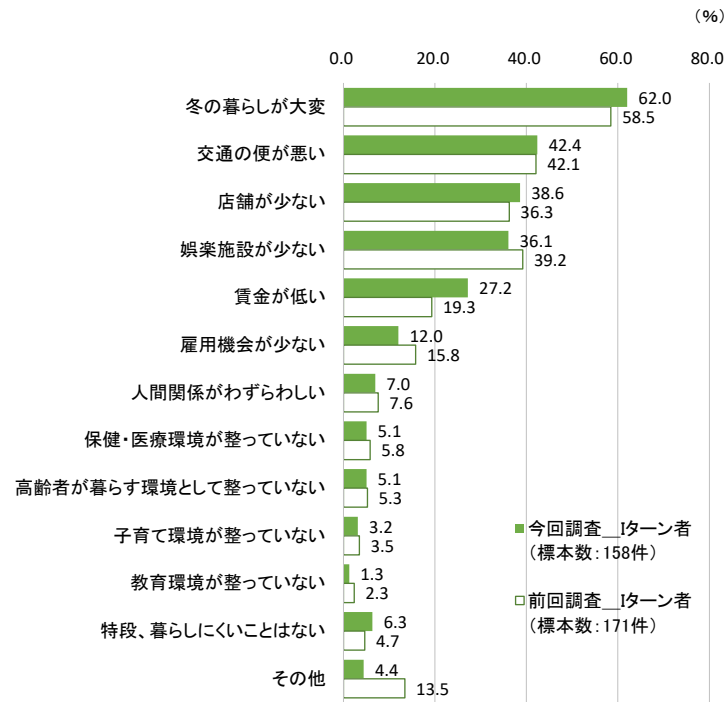
- 高山市の暮らしにくい点は、「冬の暮らしが大変」が57.5%で最も高く、次いで「交通の便が悪い」が40.7%、「娯楽施設が少ない」が36.7%の順となっている。

図表 99 高山市の暮らしにくい点 [複数回答]

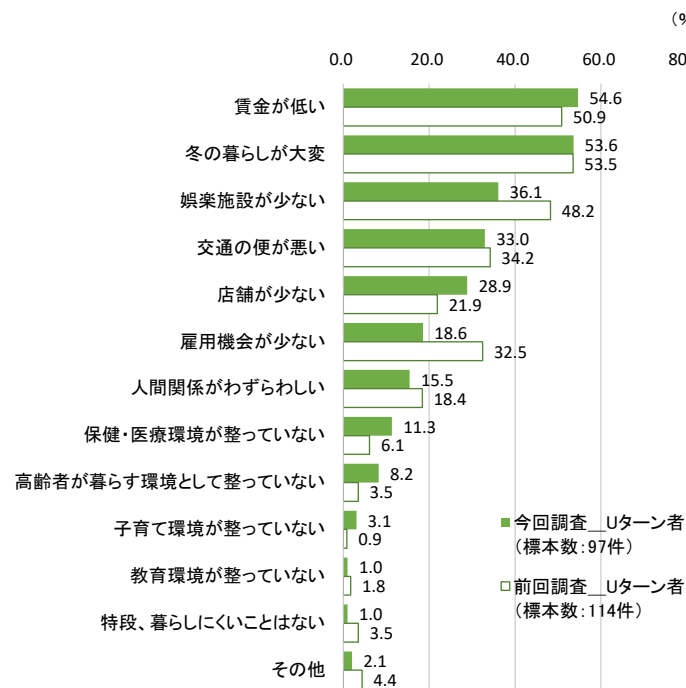


- 高山市の暮らしにくい点は、Iターン者は「冬の暮らしが大変」が62.0%、Uターン者は「賃金が低い」が54.6%、「冬の暮らしが大変」が53.6%で、それぞれ高くなっている。「賃金が低い」は、Uターン者はIターン者よりも27.4ポイント高い。
- そのほか、Iターン者・Uターン者ともに「交通の便が悪い」「店舗が少ない」「娯楽施設が少ない」が上位にあげられている。

図表 100 【Iターン者】高山市の暮らしにくい点 [複数回答]



図表 101 【Uターン者】高山市の暮らしにくい点 [複数回答]



(7) 移住者増加に向けて

自由記述：移住者増加に向けて取り組んだ方がよいこと

● 買物・娯楽施設の充実

- ・若年層や若い夫婦などが魅力を感じるような大型ショッピングモール、デパート、ゲームセンター等の誘致。
- ・遊園施設や映画館などの娯楽施設をつくってはどうか。
- ・古い町並や高山祭は観光客にとっては魅力だが、市民にとっては何のプラスにもならない。買物のためにわざわざ市外に行かなければならない環境にあることが移住者増加に向けて課題ではないか。

● 交通環境の改善

- ・都会からの移住者は、自動車免許を取得していなかったり、ペーパードライバー期間が長いいため、高山では車がないとどこにも行けず苦勞している。ペーパードライバーに対する講習や免許取得、自動車の購入、駐車場の確保などに対して、金銭的なサポートがあるといいと思う。
- ・路線バスをもっと充実させてほしい。利用者が少ないため、さらに本数が少なくなるという悪循環にある。観光客の利便性だけでなく、山間部に居住する市民にとっても利便性の高い公共交通網を検討してほしい。
- ・道路が陥没しているところが多い。また、歩きやすく、自転車も通行しやすい環境整備を。

● 住居に関すること

- ・空き家が増えているが、取り壊しには費用がかかるため、費用補助を検討してほしい。併せて、移住希望者への空き家の積極的な情報発信を行って欲しい。
- ・思っていた以上に家賃が高い。一定期間の家賃補助などがあるとありがたい。

● 仕事・雇用に関すること

- ・事務職の求人が少ない。観光が主力産業のため仕方ないと思うが、土日休みを希望すると求人がほとんどない。観光以外の事務職の雇用の創出が必要。
- ・転入前に住んでいた愛知県と比較して、若い人の元気がないように感じる。企業誘致は難しいかもしれないが、魅力的な企業や働きやすい職場を増やすことで若い人がいきいきと生活できるのではないか。
- ・最低賃金の底上げ等、若い人が結婚、子育てをあきらめない環境。

● PR 活動に関すること

- ・高山市の情報発信が行われているのをあまり目にしない。映像やネットなどをもっと整備した方が良い。
- ・東京にいた頃は、高山市と言えば、高山祭くらいしかイメージがなかったが、京都や北海道にも負けない魅力があると思う。もっと情報発信を戦略的に行った方が良い。
- ・移住ツアーに参加したがとても良かった。自然や歴史などの発信も良いが、もっと高山市の日常こそが、移住者が知りたいことだと思う。「高山市の日」が分かるようなパンフレットや映像があると良いと思う。

● 教育・福祉・医療環境

- ・教育がしっかりしていることをもっと PR した方が良い。
- ・福祉サービスが充実していることは良い意味で意外だった。
- ・子どもの医療費が無料であることや、自然の中で子どもがのびのび育てられることなど、子育て環境が充実していること。

● 住まい・土地に関すること

- ・全国一の面積を誇る高山なので、積極的な土地活用を。特に農業に対する支援と、若い世代が移住しやすい環境があるといい。また、冬期の収入確保と併せて、行政からの安定的なバックアップがあれば、安心して生活できるのではないかな。
- ・耕地が多く、安価で土地が取得しやすいこと。広い住居や農地を求める人への訴求につながるかな。
- ・都心で生活している人にとっては、一軒家は大変魅力。空き家の整備や、修繕費用の補助などにより、住居の面から高山市の暮らしをアピールしては。

● 自然環境に関すること

- ・自然豊かで災害も少なく、治安が良いこと。安心して生活できる環境にある。
- ・アウトドアやフィッシングには最高のエリア。ターゲットは限定されるが魅力を感じる層はいるはず。
- ・夏の朝晩の涼しさは住んでみないとわからなかった。冬は厳しいが、夏の過ごしやすさをもっと発信するのが良い。
- ・豊かな自然が生んだ地元の食材は大変おいしく、何よりの贅沢とを感じる。こうした点も都会に住む人にとっては大変魅力では。
- ・平湯などの温泉をもっと PR してはどうか（観光利用だけでなく移住という点でも）。

4 将来の進路や仕事に関する意識・希望調査結果

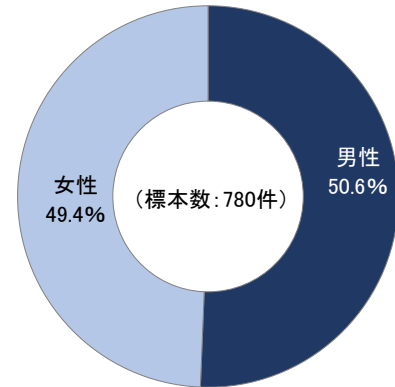
(1) 回答者の属性

- 回答者の居住地は高山地域が72.6%、居住年数は「15年以上」が76.4%で、それぞれ最も高くなっている。

図表 102 性別

	回答数(件)	回答率(%)
男性	395	50.6
女性	385	49.4
合計	780	100.0

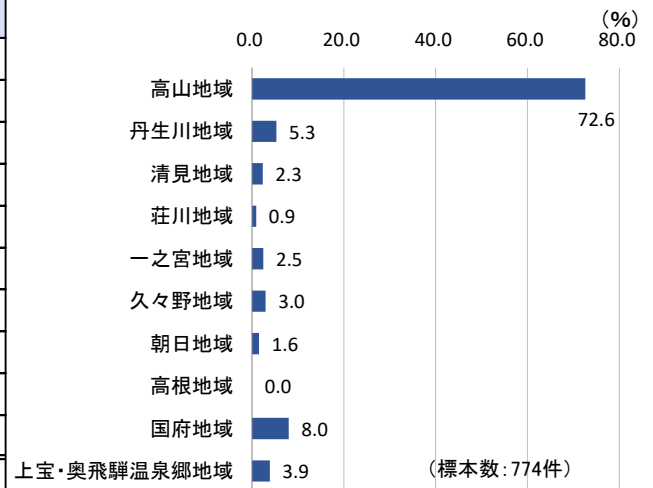
(標本数:780件)



図表 103 居住地

	回答数(件)	回答率(%)
高山地域	562	72.6
丹生川地域	41	5.3
清見地域	18	2.3
荘川地域	7	0.9
一之宮地域	19	2.5
久々野地域	23	3.0
朝日地域	12	1.6
高根地域	0	0.0
国府地域	62	8.0
上宝・奥飛驒温泉郷地域	30	3.9
合計	774	100.0

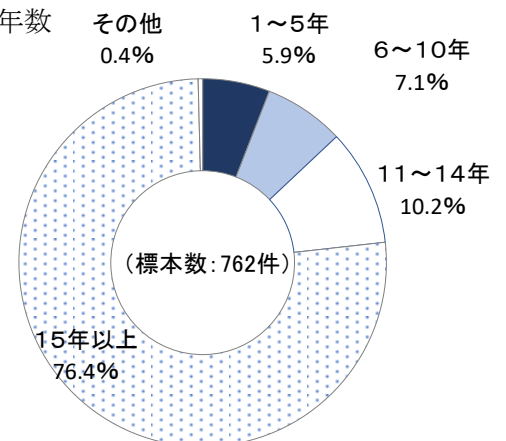
(標本数:774件)



図表 104 現在の地域での居住年数

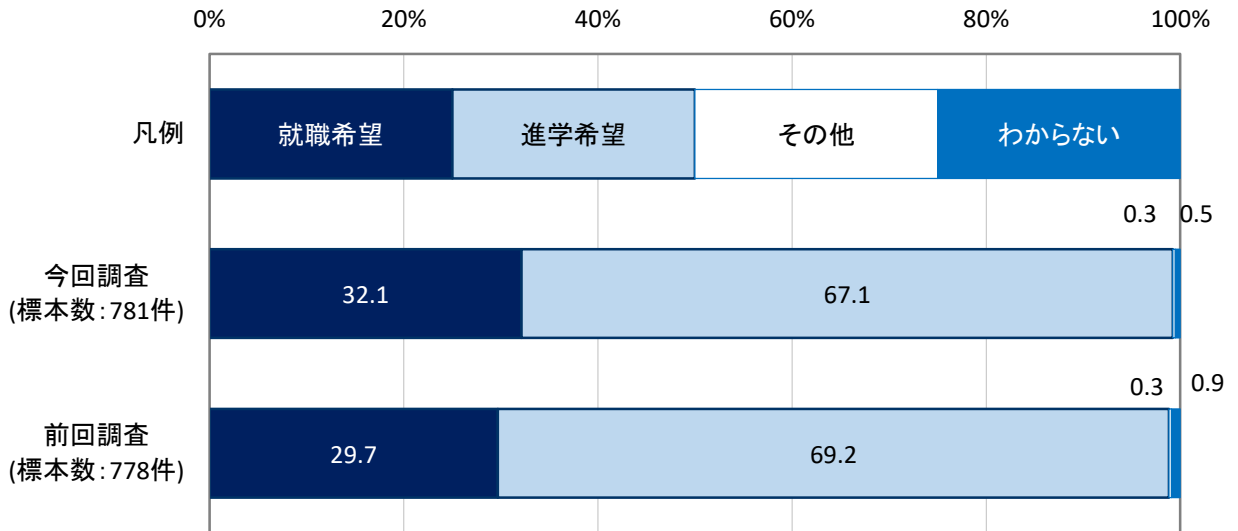
	回答数(件)	回答率(%)
1~5年	45	5.9
6~10年	54	7.1
11~14年	78	10.2
15年以上	582	76.4
その他	3	0.4
合計	762	100.0

(標本数:762件)



- 進路希望状況は、「就職希望」が32.1%、「進学希望」が67.1%であり、前回調査と同様の傾向となっている。

図表 105 進路希望状況



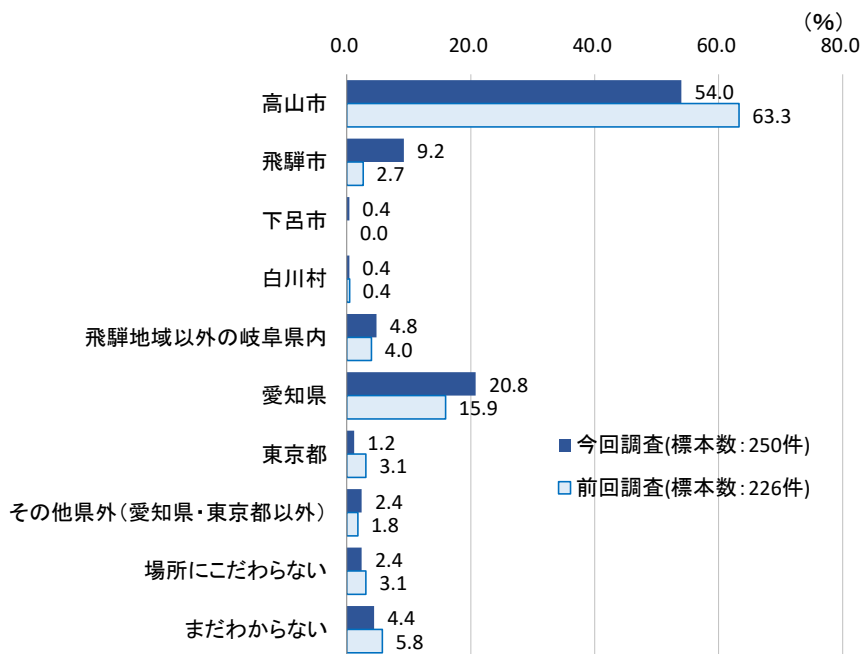
※前回調査には「就職も進学もしない」が選択肢にあったが、今回調査は選択肢にないため、「その他」に含めている。

※「その他」「わからない」は回答件数が少ないため、次ページ以降の就職希望者、進学希望者の分析では、個々の分析結果は表示していない。

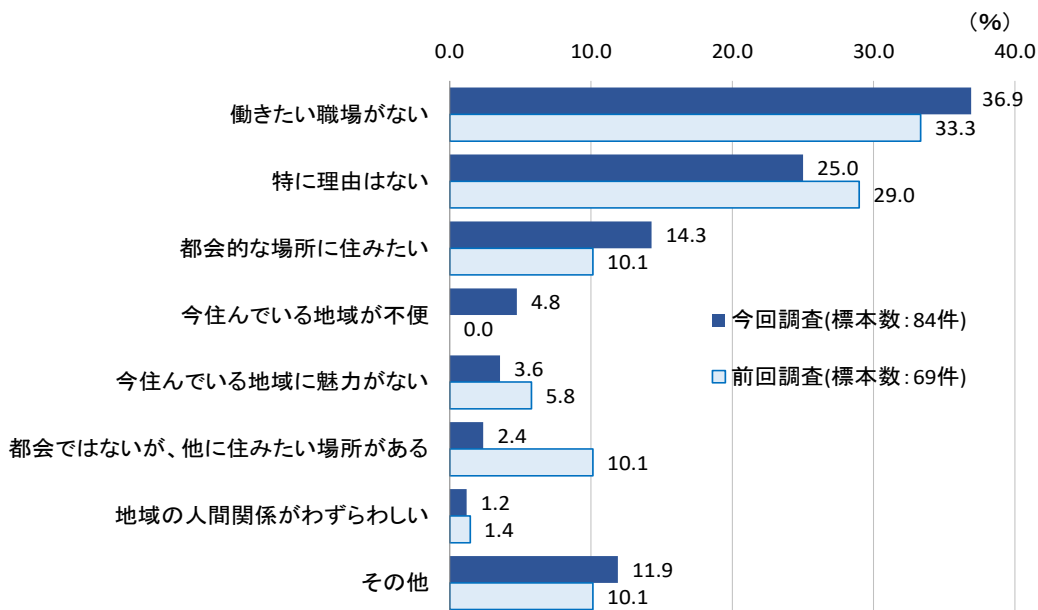
(2) 就職希望者の進路について

- 就職希望者の希望する就職地域は、「高山市」が54.0%で最も高く、次いで「愛知県」が20.8%、「飛騨市」が9.2%の順となっている。前回調査と比較すると、高山市で就職を希望する割合が9.3ポイント減少している。
- 就職希望地域を飛騨地域以外と回答した理由としては、「働きたい職場がない」が36.9%で最も高く、次いで「特に理由はない」が25.0%となっている。前回調査と比較すると、「働きたい職場がない」が3.6ポイント、「都会的な場所に住みたい」が4.2ポイント増加している。

図表 106 【就職希望者】 就職希望地域

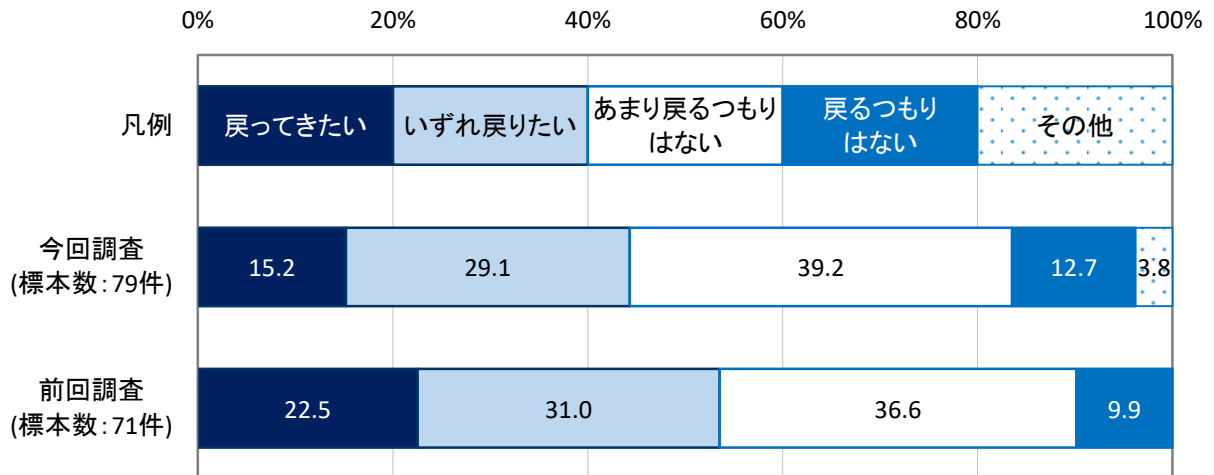


図表 107 【飛騨地域以外での就職希望者】 飛騨地域以外に就職したい理由



- 飛騨地域以外で就職を希望する者の飛騨地域に戻る意向は、「あまり戻るつもりがない」が39.2%で最も高くなっている。戻る意向がある割合（「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」の合計）は44.3%となっているが、前回調査では53.5%であり、9.2ポイント減少している。
- 特に「戻ってきたい」の減少幅が大きく、7.3ポイント減少している。

図表 108 【飛騨地域以外での就職希望者】 飛騨地域に戻る意向



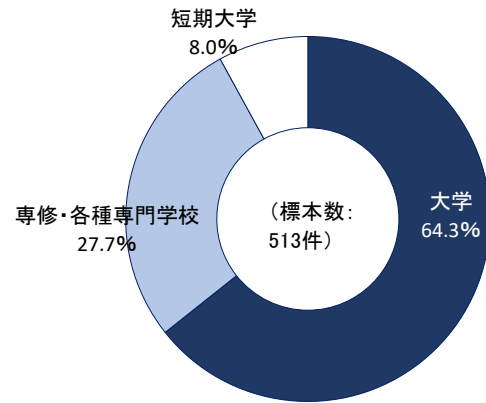
(3) 進学希望者の進路について

- 希望する進学先は、「大学」が64.3%で最も高くなっている。
- 進学先の希望地域は、大学希望者は「まだわからない」が24.5%で最も高く、次いで「その他県外（愛知県・東京都以外）」が24.1%、「東京都」が20.1%の順となっている。専修・各種専門学校希望者は「愛知県」が56.8%、短期大学希望者は「飛騨地域以外の岐阜県内」が43.9%で、それぞれ最も高くなっている。

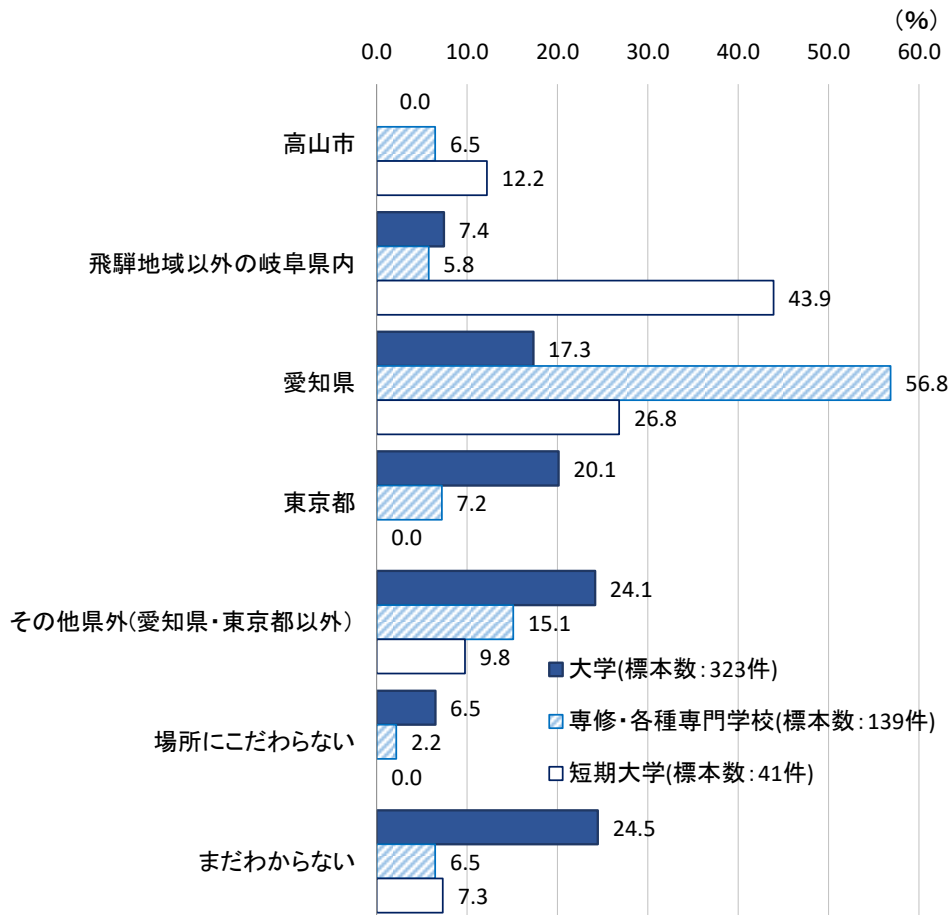
図表 109 【進学希望者】希望する進学先

	回答数(件)	回答率(%)
大学	330	64.3
専修・各種専門学校	142	27.7
短期大学	41	8.0
合計	513	100.0

(標本数:513件)

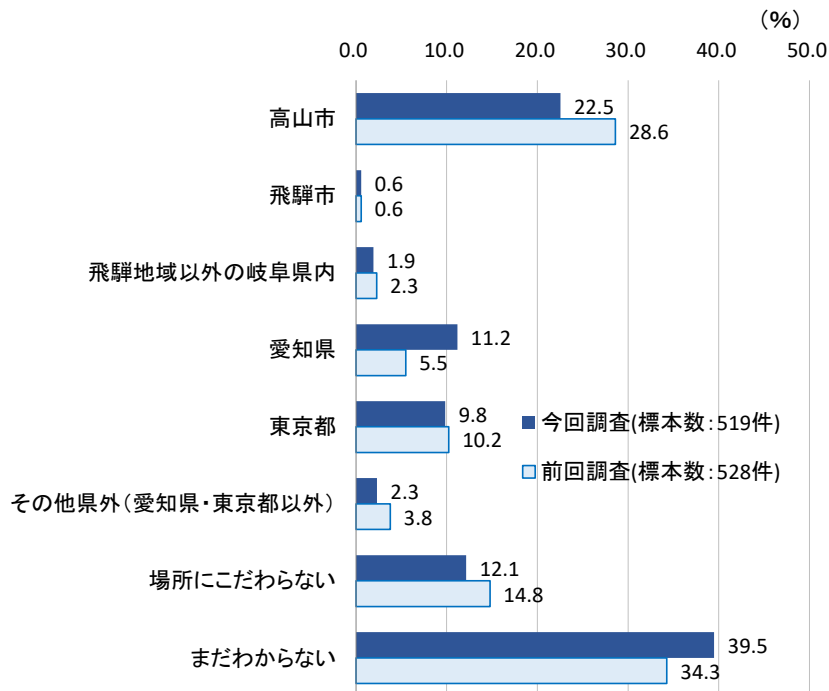


図表 110 【進学希望者】希望する進学先別 進学希望地域

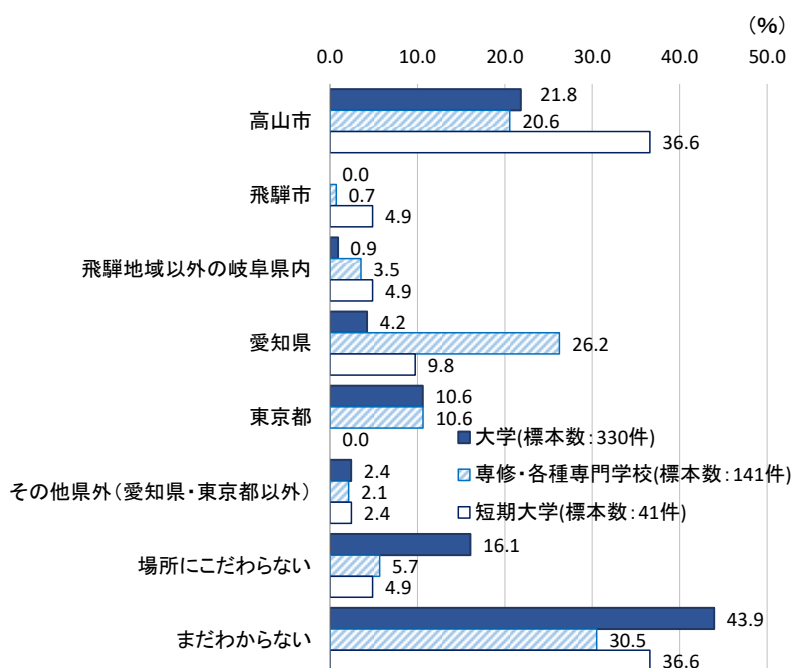


- 卒業後の就職希望地域は、「まだわからない」が39.5%で最も高く、次いで「高山市」が22.5%、「場所にこだわらない」が12.1%、「愛知県」が11.2%、「東京都」が9.8%の順となっている。市内への就職を希望している割合と、市外への就職を希望している割合はそれぞれ2割台となっている。
- 前回調査と比較すると、「高山市」での就職を希望する割合が6.1ポイント減少している。
- 進学先別でみると、「短期大学」は36.6%が「高山市」への就職を希望しているが、「専修・各種専門学校」、「大学」は2割程度にとどまっている。

図表 111 【進学希望者】 進学先を卒業した後の就職希望地域

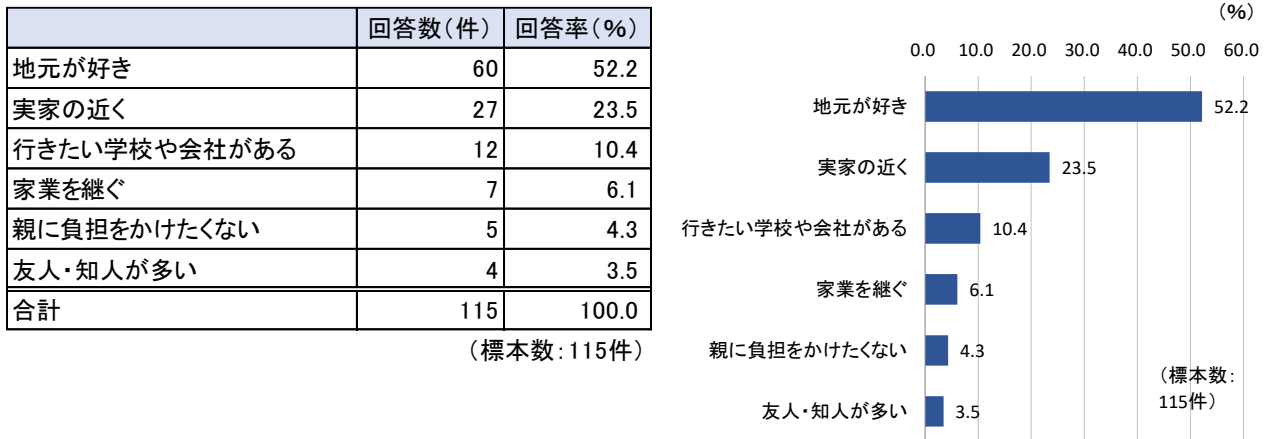


図表 112 【進学希望者】 進学希望学校別 進学先を卒業した後の就職希望地域

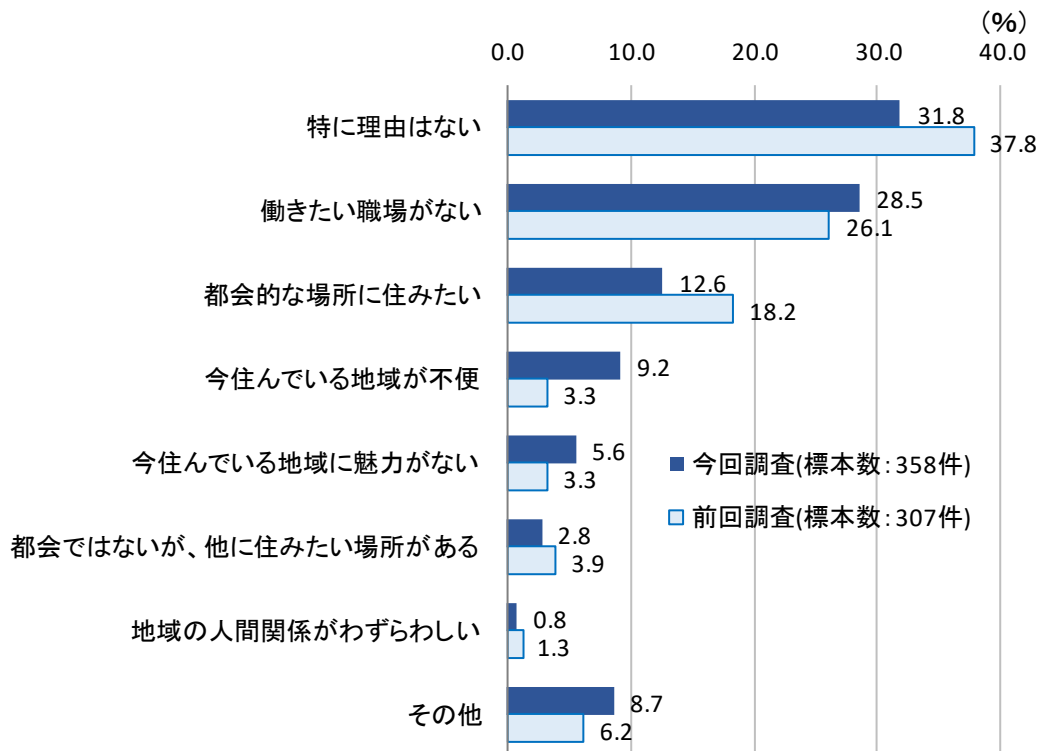


- 進学先を卒業後、飛騨地域で就職したい理由は、「地元が好き」が52.2%で最も高く、次いで「実家の近く」が23.5%となっている。
- 飛騨地域以外を選択した理由としては、「特に理由はない」が31.8%で最も高く、次いで「働きたい場所がない」が28.5%、「都会的な場所に住みたい」が12.6%の順となっている。
- 前回調査とおおむね同様の傾向にあるが、「今住んでいる地域が不便」が、前回から5.9ポイント増加し、9.2ポイントとなっている。

図表 113 【進学先を卒業後、飛騨地域で就職を希望する人】飛騨地域で就職したい理由

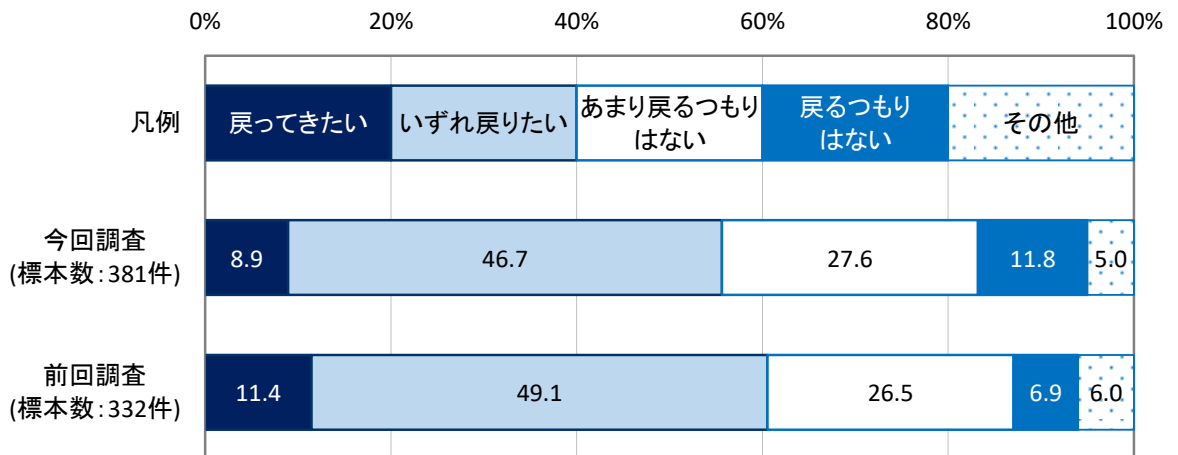


図表 114 【進学先を卒業後、飛騨地域以外での就職を希望する人】飛騨地域以外で就職したい理由



- 飛騨地域以外で就職を希望する者のうち、飛騨地域へ戻る意向は、「いずれ戻りたい」が 46.7%で、「戻ってきたい」と合わせると 55.6%となっている。前回調査では 60.5%であり、4.9ポイント減少している。
- 「戻るつもりはない」、「あまり戻るつもりはない」を合わせると 39.4%となっており、前回調査から 6.0%増加している。

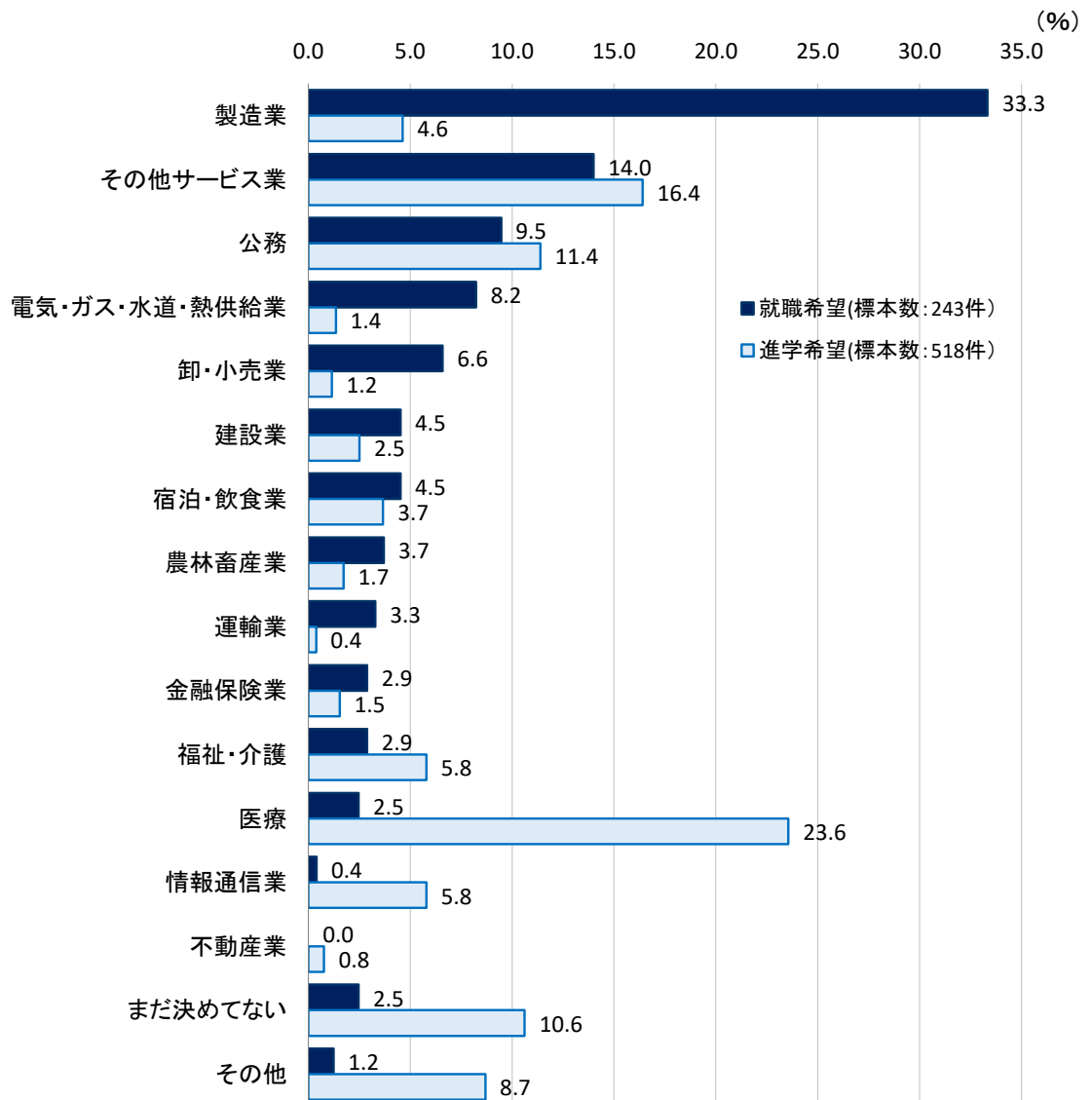
図表 115 【進学後、飛騨地域以外での就職を希望する人】 飛騨地域に戻る意向



(4) 希望する仕事の業種や職種

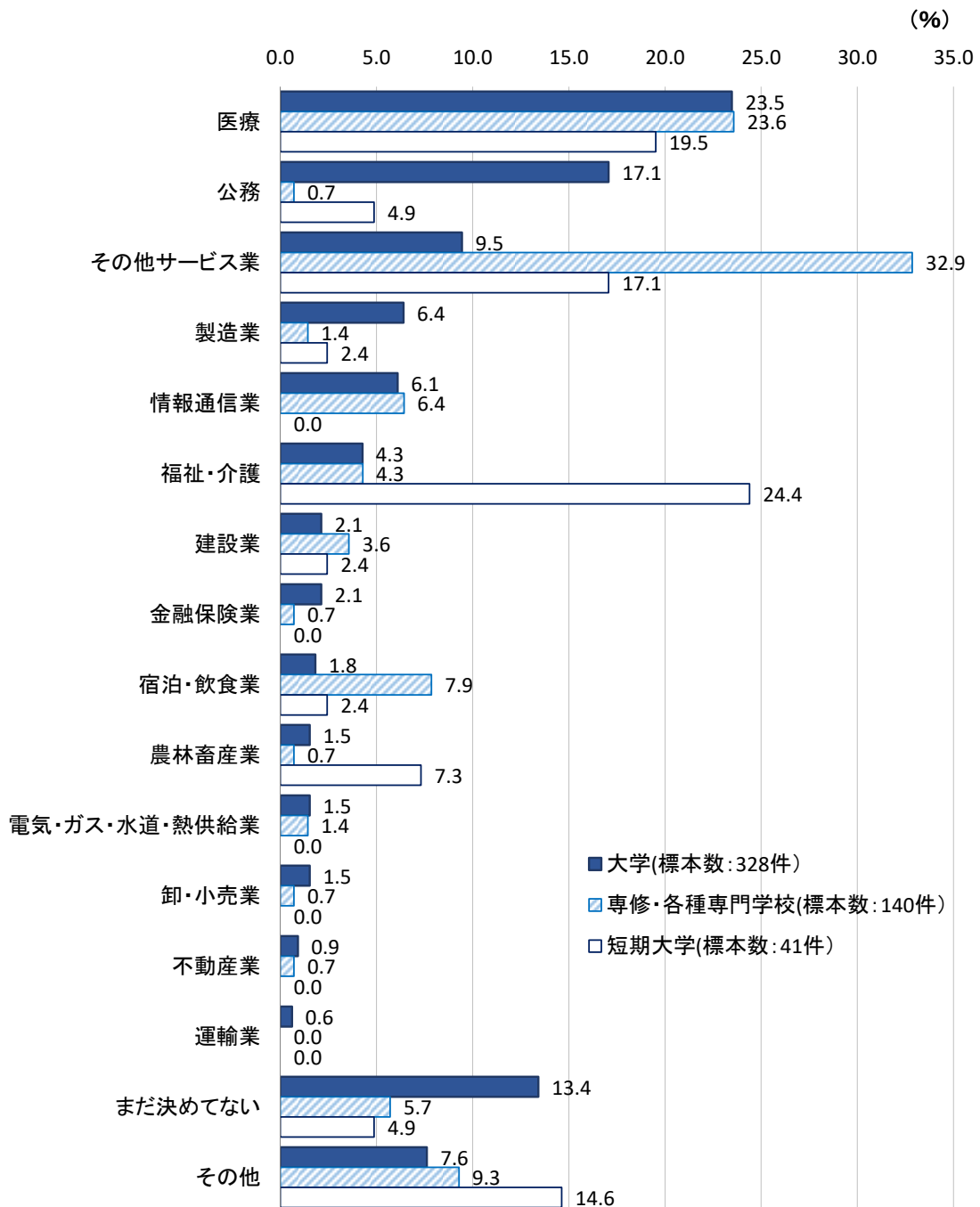
- 希望する進路別に将来やりたい仕事の業種は、就職希望者は「製造業」が33.3%で最も高く、次いで「その他サービス業」が14.0%、「公務」が9.5%の順となっている。
- 進学希望者は「医療」が23.6%で最も高く、次いで「その他サービス業」が16.4%、「公務」が11.4%の順となっている。

図表 116 就職・進学希望別 将来やりたい仕事の業種 (1位)



- 進学希望者の希望学校別に将来やりたい仕事の業種をみると、大学希望者は「医療」が23.5%で最も高く、次いで「公務」が17.1%、「まだ決めていない」が13.4%の順となっている。専修・各種専門学校希望者は「その他サービス業」が32.9%で最も高く、次いで「医療」が23.6%となっている。短期大学希望者は「福祉・介護」が24.4%で最も高く、次いで「医療」が19.5%となっている。

図表 117 【進学希望者】進学希望学校別 将来やりたい仕事の業種（1位）



- 将来やりたい仕事の業種を前回調査と比較すると、就職希望者は「製造業」が前回調査と同様で最も高く、12.2ポイント増加している。進学希望者は「医療」が、前回調査と同様で最も高くなっている。

図表 118 【就職希望者】 将来やりたい仕事の業種（1位～3位）

将来やりたい仕事の業種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
製造業	47	21.1%	81	33.3%	17	13.8%	6	8.8%
その他サービス業	36	16.1%	34	14.0%	14	11.4%	10	14.7%
公務	23	10.3%	23	9.5%	11	8.9%	3	4.4%
電気・ガス・水道・熱供給業	10	4.5%	20	8.2%	3	2.4%	5	7.4%
卸・小売業	4	1.8%	16	6.6%	12	9.8%	2	2.9%
建設業	21	9.4%	11	4.5%	10	8.1%	7	10.3%
宿泊・飲食業	15	6.7%	11	4.5%	13	10.6%	6	8.8%
農林畜産業	2	0.9%	9	3.7%	8	6.5%	5	7.4%
運輸業	7	3.1%	8	3.3%	5	4.1%	6	8.8%
金融保険業	9	4.0%	7	2.9%	3	2.4%	5	7.4%
福祉・介護	4	1.8%	7	2.9%	5	4.1%	4	5.9%
医療	2	0.9%	6	2.5%	4	3.3%	3	4.4%
情報通信業	1	0.4%	1	0.4%	15	12.2%	3	4.4%
不動産業	1	0.4%	0	0.0%	2	1.6%	2	2.9%
まだ決めてない	32	14.3%	6	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	9	4.0%	3	1.2%	1	0.8%	1	1.5%
合計	223	100.0%	243	100.0%	123	100.0%	68	100.0%

※今回調査の1位順に並び替えている

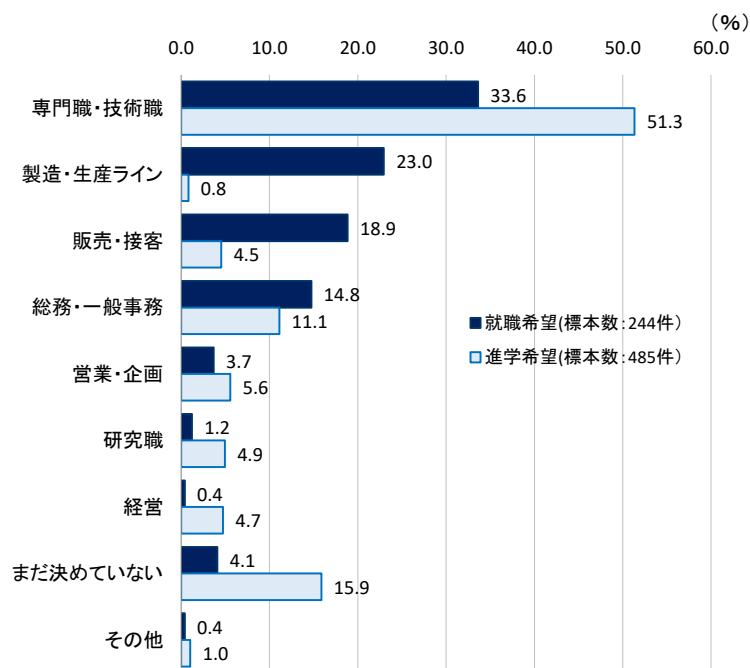
図表 119 【進学希望者】 将来やりたい仕事の業種（1位～3位）

将来やりたい仕事の業種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
医療	129	24.6%	122	23.6%	13	5.9%	4	3.6%
その他サービス業	117	22.3%	85	16.4%	26	11.8%	18	16.1%
公務	59	11.3%	59	11.4%	26	11.8%	11	9.8%
情報通信業	19	3.6%	30	5.8%	22	10.0%	8	7.1%
福祉・介護	33	6.3%	30	5.8%	54	24.4%	7	6.3%
製造業	14	2.7%	24	4.6%	20	9.0%	9	8.0%
宿泊・飲食業	16	3.1%	19	3.7%	17	7.7%	13	11.6%
建設業	11	2.1%	13	2.5%	4	1.8%	6	5.4%
農林畜産業	15	2.9%	9	1.7%	5	2.3%	5	4.5%
金融保険業	8	1.5%	8	1.5%	11	5.0%	8	7.1%
電気・ガス・水道・熱供給業	3	0.6%	7	1.4%	2	0.9%	3	2.7%
卸・小売業	5	1.0%	6	1.2%	13	5.9%	11	9.8%
不動産業	0	0.0%	4	0.8%	5	2.3%	6	5.4%
運輸業	1	0.2%	2	0.4%	3	1.4%	1	0.9%
まだ決めてない	86	16.4%	55	10.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他	8	1.5%	45	8.7%	0	0.0%	2	1.8%
合計	524	100.0%	518	100.0%	221	100.0%	112	100.0%

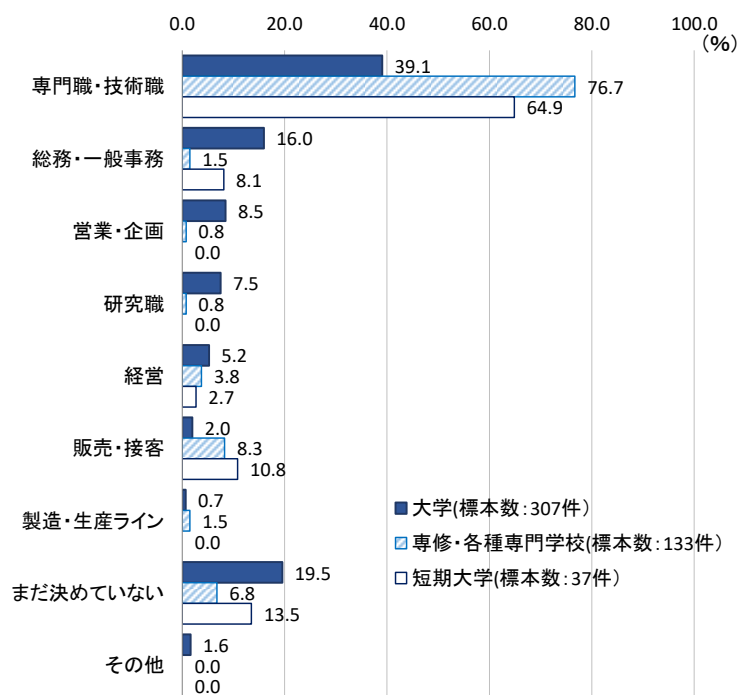
※今回調査の1位順に並び替えている

- 将来やりたい仕事の職種は、就職希望者、進学希望者ともに「専門職・技術職」が最も高い。
- 進学希望者の希望する学校別にみると、すべての進学先において「専門職・技術職」が最も高く、専修・各種専門学校希望者は76.7%、短期大学希望者は64.9%、大学希望者は39.1%となっている。また、大学希望者は「まだ決めていない」が19.5%、「総務・一般事務」が16.0%となっている。

図表 120 就職・進学希望別 将来やりたい仕事の職種（1位）



図表 121 進学希望学校別 将来やりたい仕事の職種（1位）



- 将来やりたい仕事の職種を前回調査と比較すると、就職希望者、進学希望者ともに、「まだ決めていない」の割合が下がっている。就職希望者は「専門職・技術職」「製造・生産ライン」の割合が上がっている。進学希望者は、回答率の傾向に大きな変化はなく、「専門職・技術職」の割合が最も高くなっている。

図表 122 【就職希望者】 将来やりたい仕事の職種（1位～3位）

将来やりたい仕事の職種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
専門職・技術職	63	28.4%	82	33.6%	24	19.8%	5	7.6%
製造・生産ライン	34	15.3%	56	23.0%	22	18.2%	9	13.6%
販売・接客	41	18.5%	46	18.9%	25	20.7%	17	25.8%
総務・一般事務	33	14.9%	36	14.8%	13	10.7%	9	13.6%
営業・企画	4	1.8%	9	3.7%	20	16.5%	15	22.7%
研究職	0	0.0%	3	1.2%	8	6.6%	3	4.5%
経営	3	1.4%	1	0.4%	8	6.6%	8	12.1%
まだ決めていない	30	13.5%	10	4.1%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	6.3%	1	0.4%	1	0.8%	0	0.0%
合計	222	100.0%	244	100.0%	121	100.0%	66	100.0%

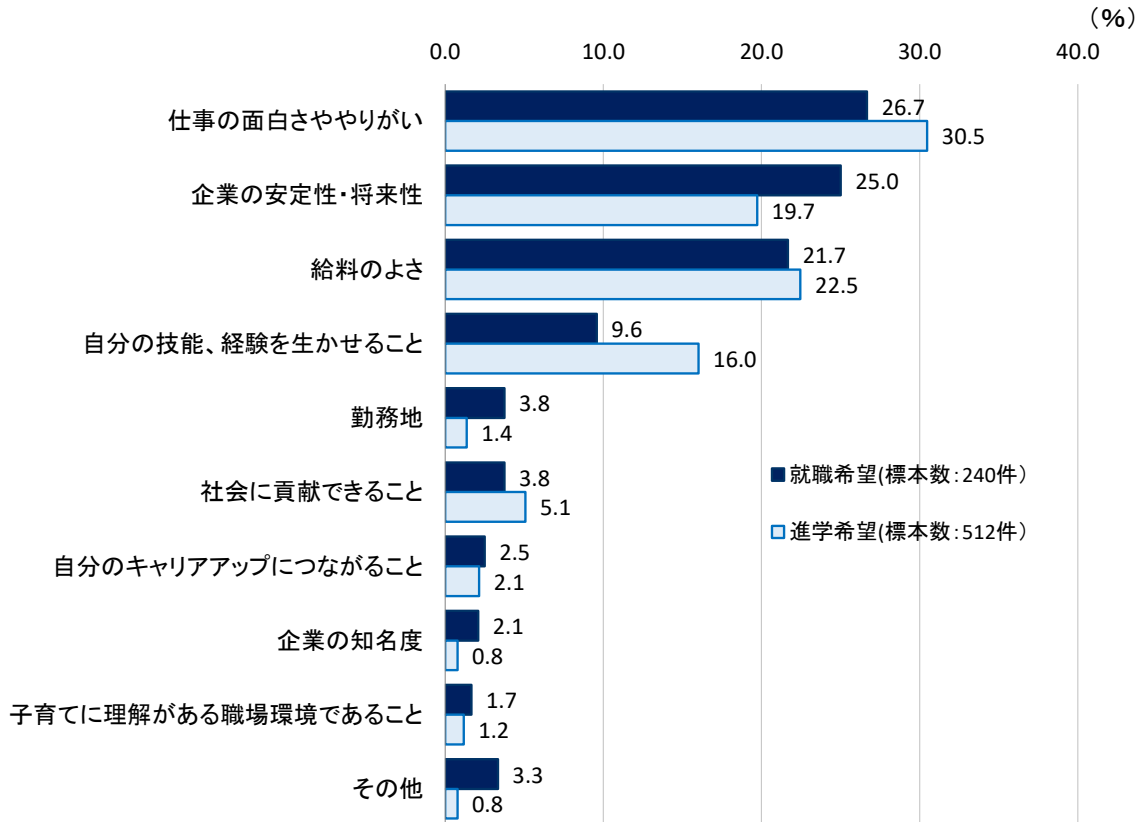
図表 123 【進学希望者】 将来やりたい仕事の職種（1位～3位）

将来やりたい仕事の職種	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
専門職・技術職	239	50.5%	249	51.3%	26	14.3%	10	9.8%
総務・一般事務	38	8.0%	54	11.1%	25	13.7%	17	16.7%
営業・企画	17	3.6%	27	5.6%	28	15.4%	22	21.6%
研究職	16	3.4%	24	4.9%	22	12.1%	5	4.9%
経営	14	3.0%	23	4.7%	21	11.5%	17	16.7%
販売・接客	28	5.9%	22	4.5%	42	23.1%	17	16.7%
製造・生産ライン	2	0.4%	4	0.8%	16	8.8%	14	13.7%
まだ決めていない	100	21.1%	77	15.9%	0	0.0%	0	0.0%
その他	19	4.0%	5	1.0%	2	1.1%	0	0.0%
合計	473	100.0%	485	100.0%	182	100.0%	102	100.0%

(5) 仕事を選ぶ上で重視していることや希望する働き方

- 仕事を選ぶ上で重視していることを進路希望別にみると、就職希望者、進学希望者のいずれも「仕事の面白さややりがい」が最も高くなっている。次いで、就職希望者は「企業の安定性・将来性」、「給料のよさ」の順、進学希望者は「給料のよさ」、「企業の安定性・将来性」の順となっている。
- 進学希望者は「自分の技能・技術を生かせること」が就職希望者より 6.4 ポイント高くなっている。

図表 124 就職・進学希望別 仕事を選ぶ上で重視していること (1位)



- 仕事を選ぶ上で重視していることを前回調査と比較すると、就職希望者は「企業の安定性・将来性」の比率が6.4ポイント減少している。進学希望者は「仕事の面白さややりがい」が10.0ポイント減少したが、「給料のよさ」が7.2ポイント増加している。

図表 125 【就職希望者】仕事を選ぶ上で重視していること（1位～3位）

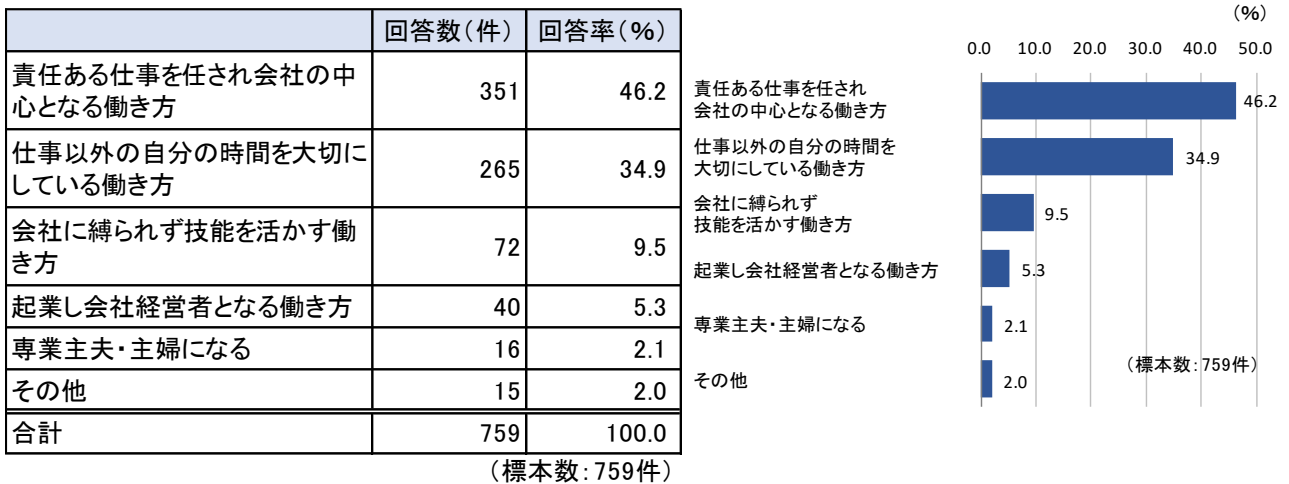
仕事を選ぶ上で重視していること	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
仕事の面白さややりがい	64	27.9%	64	26.7%	40	17.8%	28	13.5%
企業の安定性・将来性	72	31.4%	60	25.0%	37	16.4%	39	18.8%
給料のよさ	39	17.0%	52	21.7%	67	29.8%	45	21.7%
自分の技能、経験を生かせること	19	8.3%	23	9.6%	25	11.1%	22	10.6%
勤務地	6	2.6%	9	3.8%	11	4.9%	26	12.6%
社会に貢献できること	13	5.7%	9	3.8%	20	8.9%	25	12.1%
自分のキャリアアップにつながること	4	1.7%	6	2.5%	8	3.6%	5	2.4%
企業の知名度	3	1.3%	5	2.1%	8	3.6%	5	2.4%
子育てに理解がある職場環境であること	2	0.9%	4	1.7%	7	3.1%	10	4.8%
その他	7	3.1%	8	3.3%	2	0.9%	2	1.0%
合計	229	100.0%	240	100.0%	225	100.0%	207	100.0%

図表 126 【進学希望者】仕事を選ぶ上で重視していること（1位～3位）

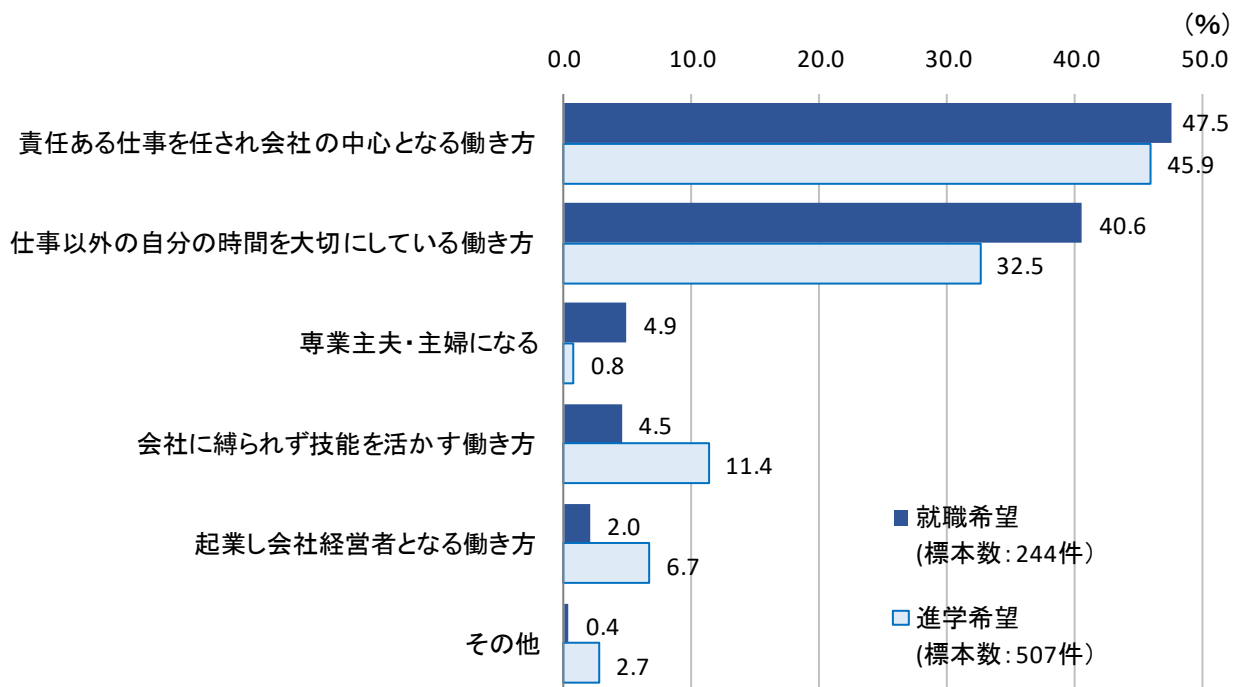
仕事を選ぶ上で重視していること	前回調査(1位のみ掲載)		1位		2位		3位	
	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)	回答数(件)	回答率(%)
仕事の面白さややりがい	214	40.5%	156	30.5%	75	15.5%	75	17.2%
給料のよさ	81	15.3%	115	22.5%	156	32.3%	78	17.9%
企業の安定性・将来性	81	15.3%	101	19.7%	81	16.8%	76	17.4%
自分の技能、経験を生かせること	79	14.9%	82	16.0%	75	15.5%	69	15.8%
社会に貢献できること	44	8.3%	26	5.1%	23	4.8%	44	10.1%
自分のキャリアアップにつながること	7	1.3%	11	2.1%	22	4.6%	10	2.3%
勤務地	2	0.4%	7	1.4%	15	3.1%	32	7.3%
子育てに理解がある職場環境であること	9	1.7%	6	1.2%	13	2.7%	38	8.7%
企業の知名度	2	0.4%	4	0.8%	20	4.1%	14	3.2%
その他	10	1.9%	4	0.8%	3	0.6%	0	0.0%
合計	529	100.0%	512	100.0%	483	100.0%	436	100.0%

- 将来、希望する働き方としては「責任ある仕事を任され会社の中心となる働き方」が46.2%で最も高く、次いで「仕事以外の自分の時間を大切にしている働き方」が34.9%となっている。
- 就職・進学別にみると、就職希望の方が「仕事以外の自分の時間を大切にしている働き方」を希望する割合が高くなっている。

図表 127 将来、どのような働き方をしたいか



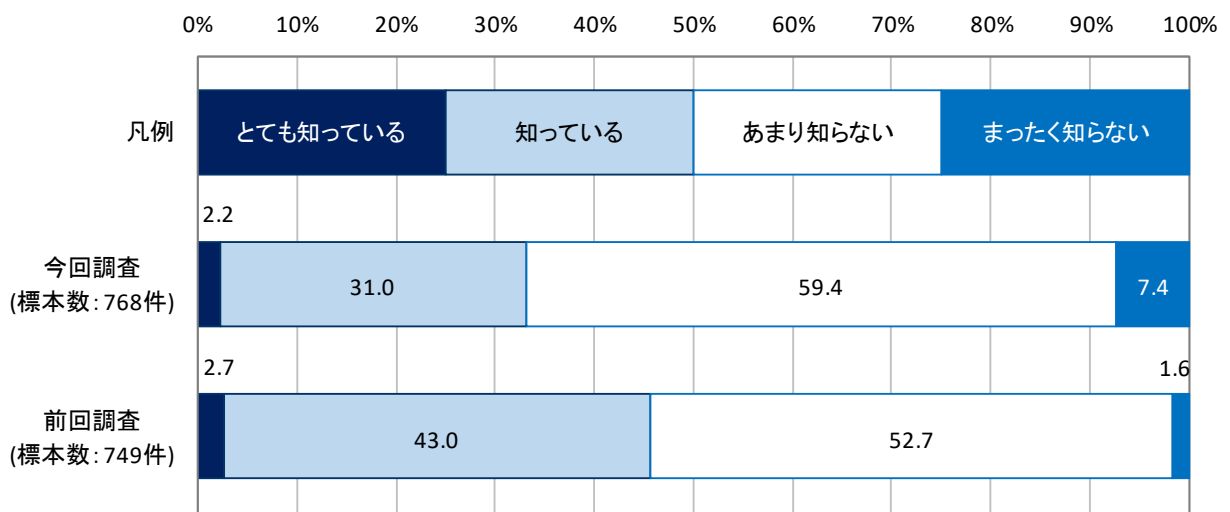
図表 128 就職・進学別 将来、どのような働き方をしたいか



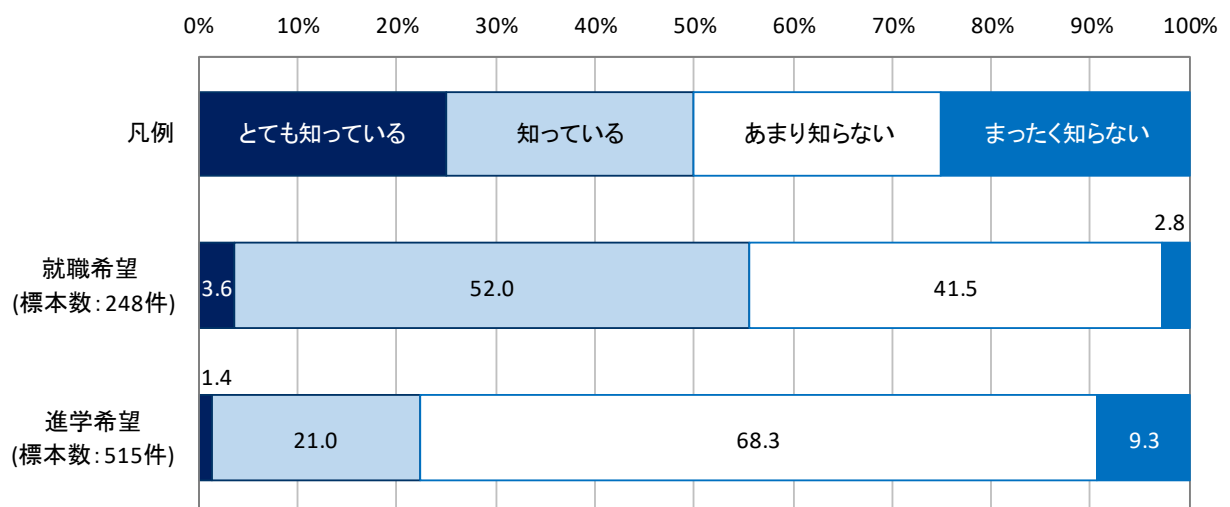
(6) 飛騨地域の企業や職場の認知度等

- 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度としては、「あまり知らない」が59.4%で最も高く、次いで「知っている」が31.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「まったく知らない」が5.8ポイント増加している。「あまり知らない」「まったく知らない」の合計は今回調査では66.8%となっており、前回調査から12.5ポイント増加している。
- 就職希望者は、「知っている」が52.0%で半数を超えているが、進学希望者は「あまり知らない」が68.3%で7割近くに及んでいる。

図表 129 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度

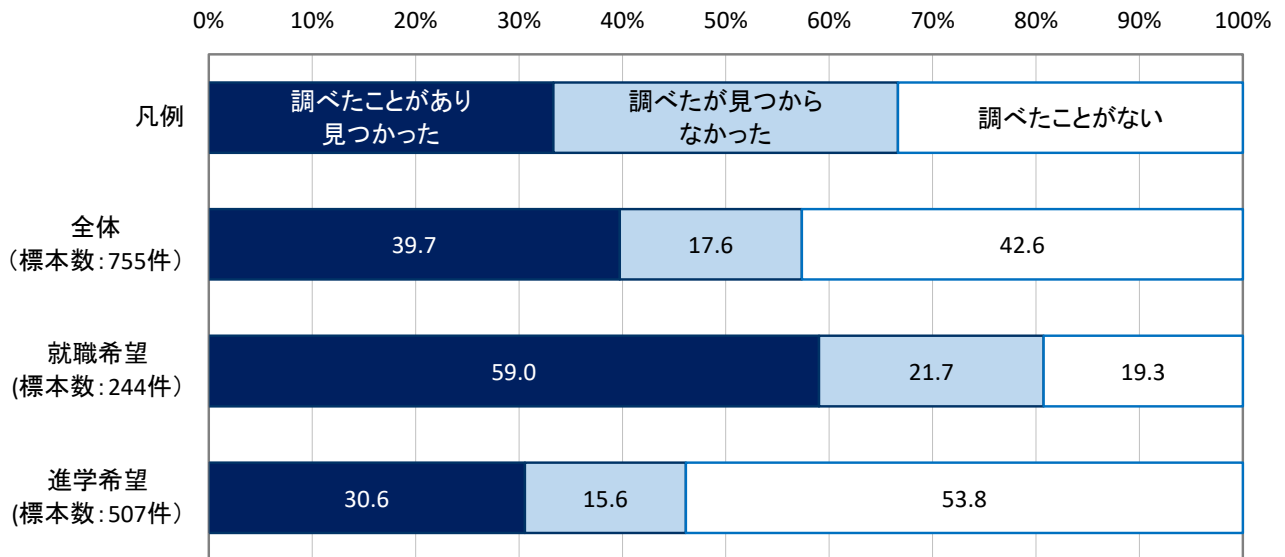


図表 130 就職・進学希望別 飛騨地域にある会社や仕事に関する認知度



- 将来、やりたい仕事について、飛騨地域でそのような企業・職場があるか調べた経験は、就職希望者は「調べたことがあり見つかった」が59.0%で最も高く、次いで「調べたが見つからなかった」が21.7%、「調べていない」が19.3%の順となっている。
- 進学希望者は、「調べたことがない」が53.8%で最も高くなっている。

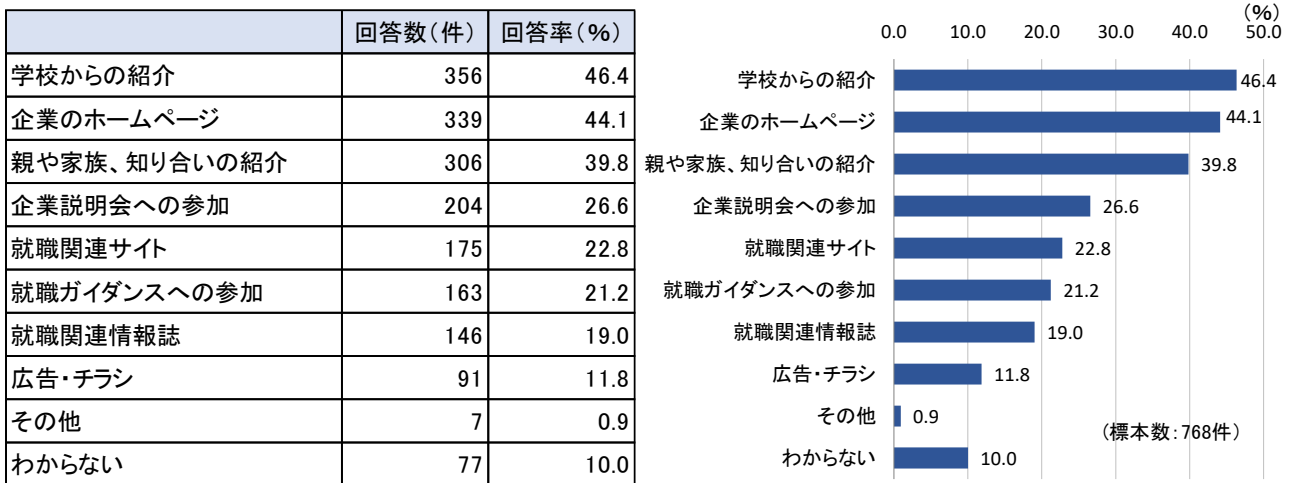
図表 131 将来、やりたい仕事について、飛騨地域でそのような企業・職場あるか調べた経験



(7) 就職先を検討する際の情報源や就職ガイダンス等への参加意向

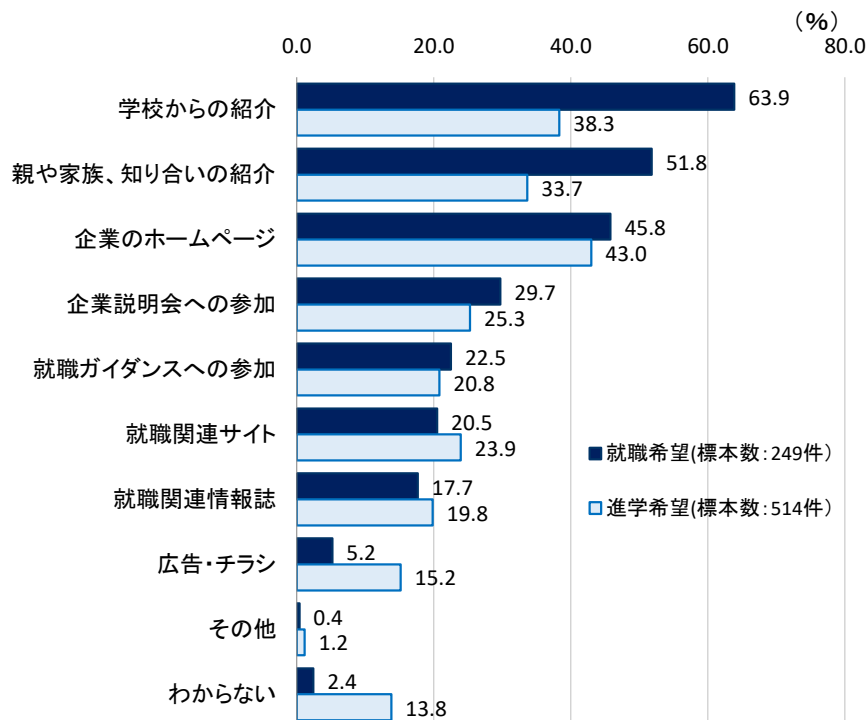
- 就職の際の参考とする情報源は、「学校からの紹介」が46.4%で最も高く、次いで「企業のホームページ」が44.1%、「親や家族、知り合いの紹介」が39.8%の順となっている。
- 就職・進学希望別にみると、就職希望者は「学校からの紹介」、「親や家族、知り合いの紹介」の割合が高くなっている。進学希望者は「企業のホームページ」の割合が高くなっている。

図表 132 就職の際の参考とする情報源 [複数回答]



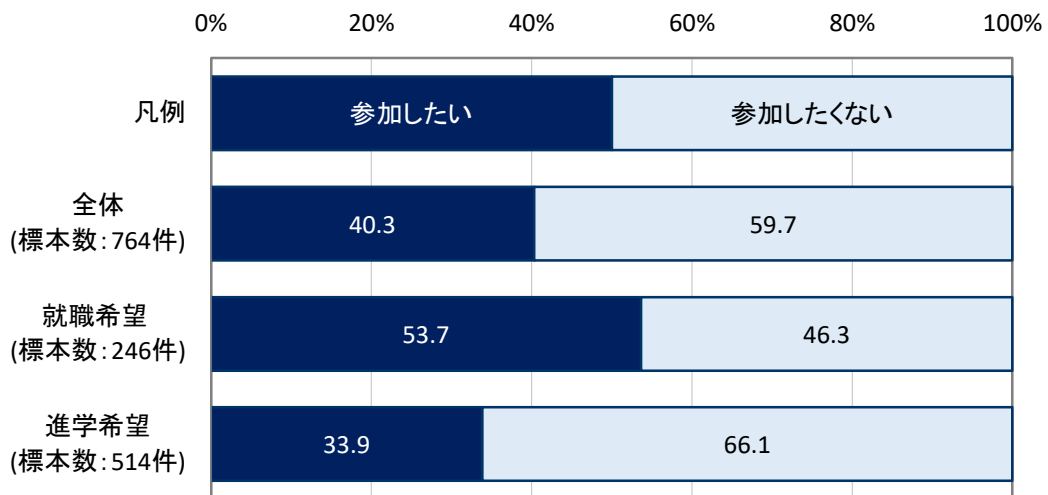
(標本数: 768件)

図表 133 就職・進学希望別 就職の際の参考とする情報源 [複数回答]

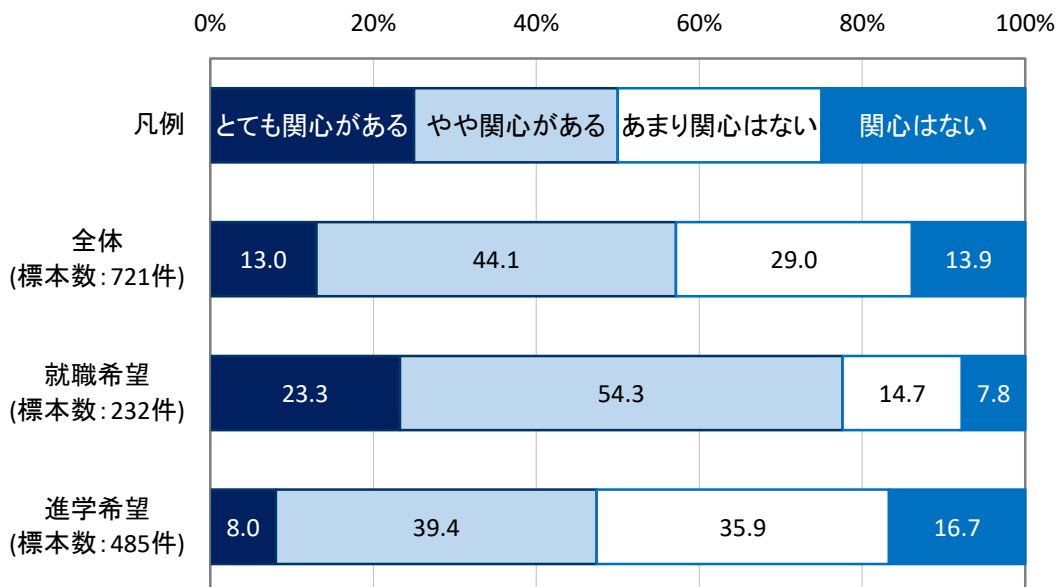


- 高山市主催の就職ガイダンスへの参加意向は、就職希望者は53.7%が「参加したい」と回答しているのに対し、進学希望者は33.9%にとどまっている。
- 職場見学会への関心度についても同様の傾向にあり、就職希望者は77.6%が「とても関心がある」、「やや関心がある」と回答しているのに対し、進学希望者は47.4%にとどまっている。

図表 134 高山市主催の地元企業の採用担当者と話ができる「就職ガイダンス」への参加意向



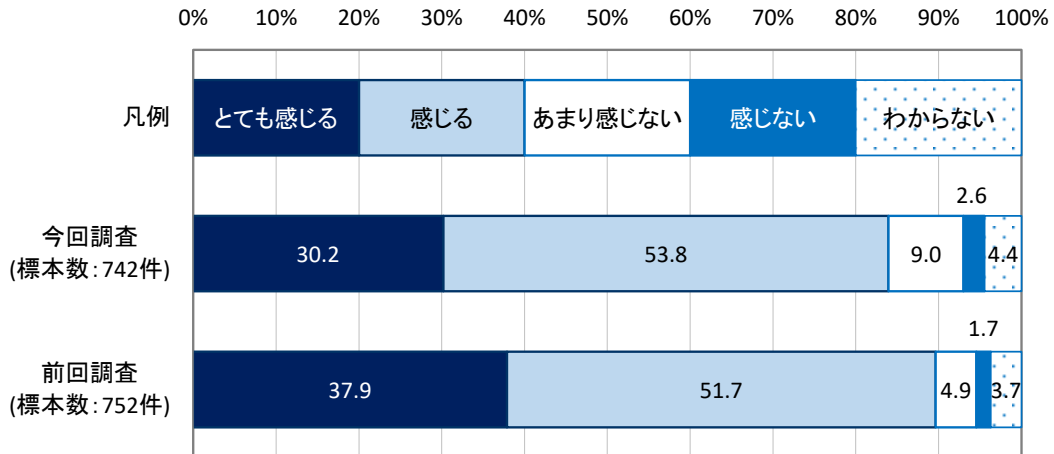
図表 135 高山市内の企業を訪問し、実際に職場を見たり話を聞いたりする「職場見学会」への関心



(8) 住んでいる地域への愛着や住みやすさ

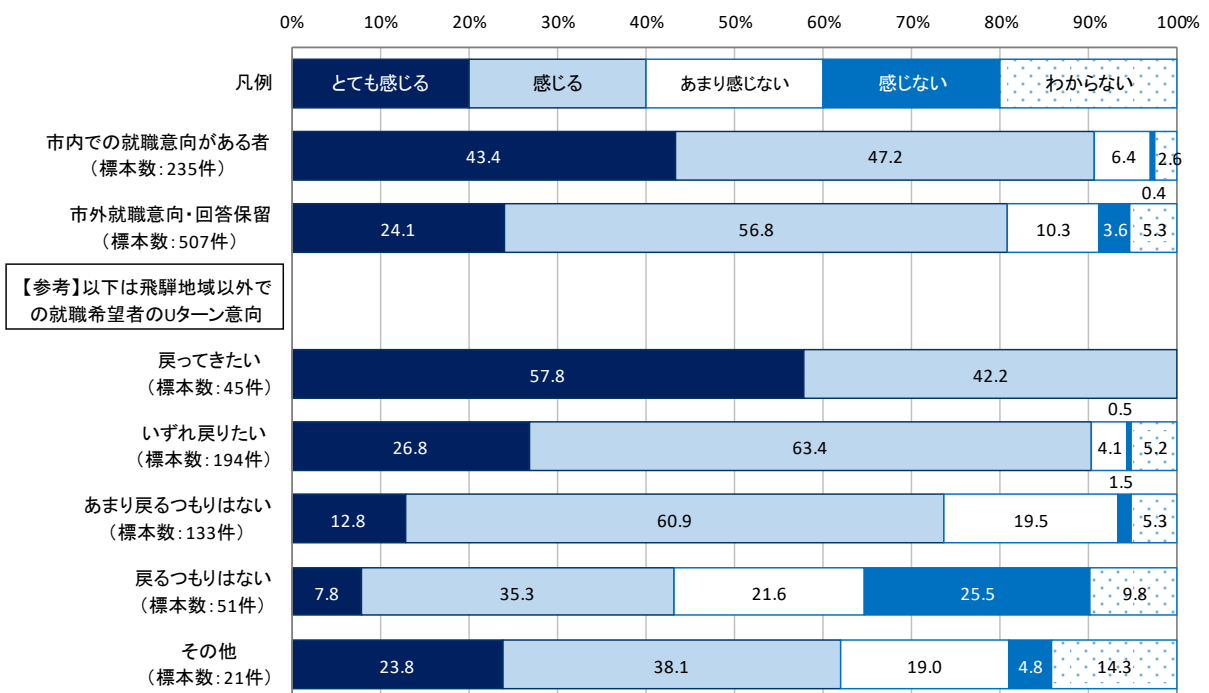
- 住んでいる地域への愛着は、「とても感じる」が30.2%、「感じる」が53.8%で合わせて84.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「とても感じる」の割合が7.7ポイント減少している。

図表 136 住んでいる地域への愛着



- 市内就職意向と住んでいる地域への愛着の関係をみると、市内就職意向がある者の方が愛着を感じている。また、飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」と考えている者ほど地域への愛着を強く持っている。

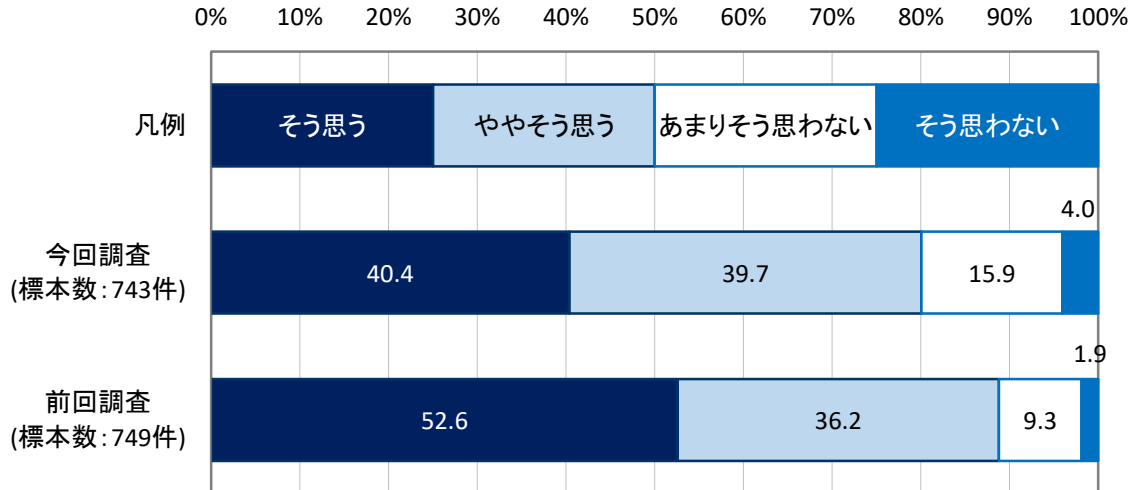
図表 137 市内就職意向別・Uターン意向別 住んでいる地域への愛着



※「市内での就職意向がある者」は、進路先(就職希望・進学希望)にかかわらず、高山市での就職を希望した者である。

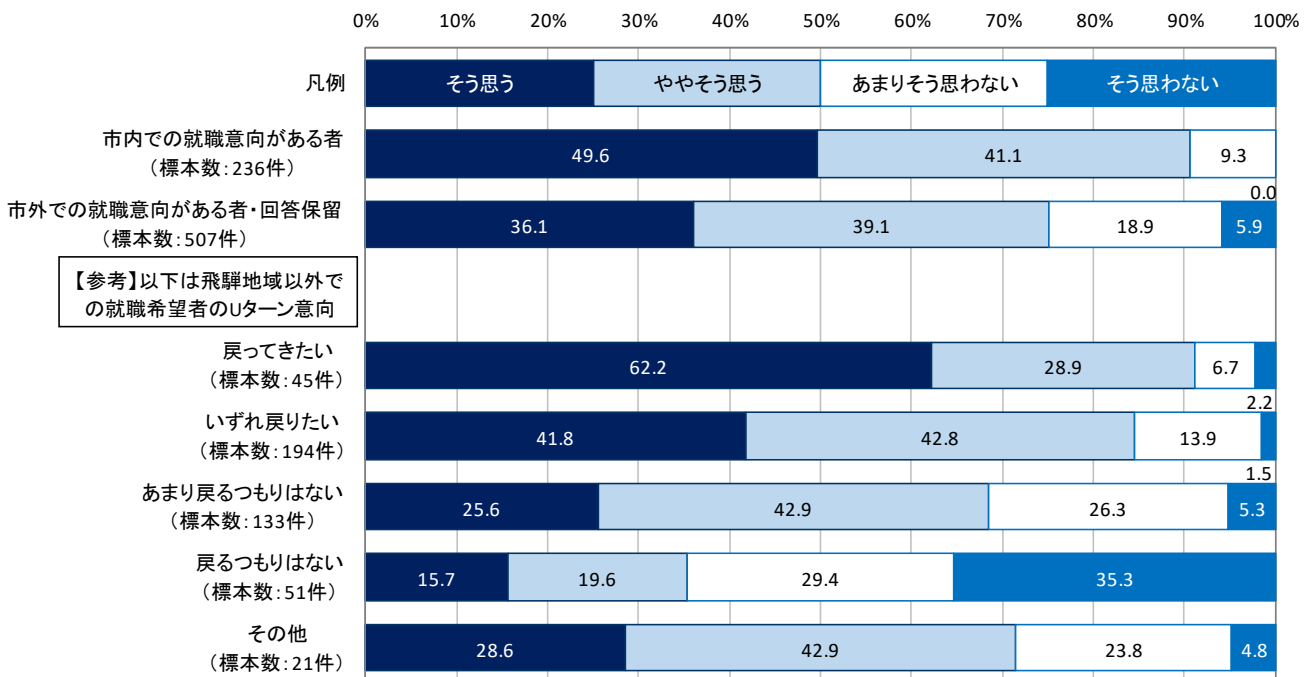
- 住んでいる地域の住みやすさについては、「そう思う」が40.4%、「ややそう思う」が39.7%で、合わせて80.1%となっている。
- 前回調査と比較すると、「そう思う」が12.2ポイント減少しており、肯定的な意見（「そう思う」「ややそう思う」の合計）も8.7ポイント減少している。

図表 138 住んでいる地域の住みやすさ



- 市内就職意向と地域の住みやすさの関係をみると、市内就職意向がある者の方が住みやすさを感じている。また、飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」と考えている者ほど住みやすさを感じている。

図表 139 市内就職意向別・Uターン意向別 住んでいる地域の住みやすさ

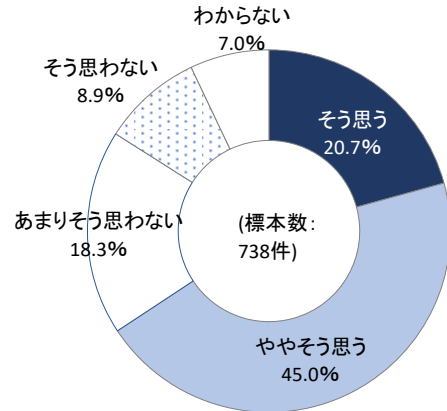


- 高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいかについては、「そう思う」が20.7%、「ややそう思う」が45.0%で合わせて65.7%となっている。

図表 140 高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいか

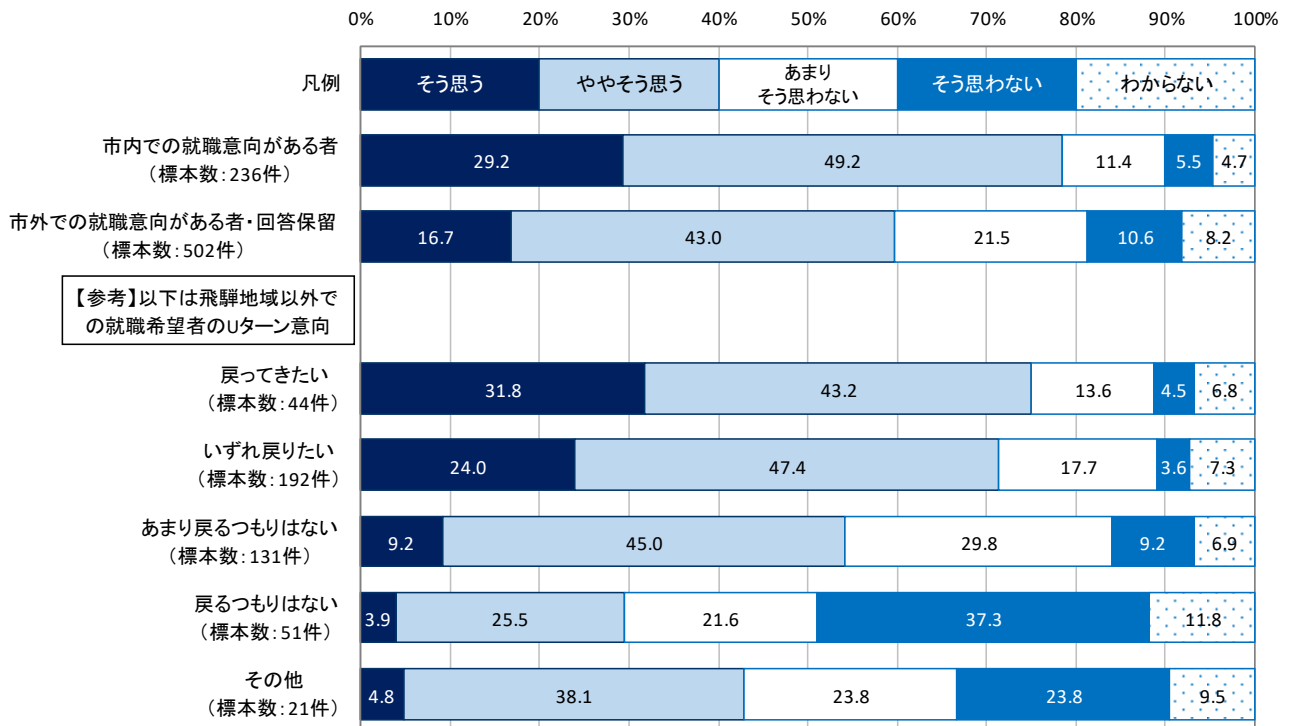
	回答数(件)	回答率(%)
そう思う	153	20.7
ややそう思う	332	45.0
あまりそう思わない	135	18.3
そう思わない	66	8.9
わからない	52	7.0
合計	738	100.0

(標本数:738件)



- 市内就職意向と高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいかの関係を見ると、市内就職意向がある者の方が自慢したいと回答している。また、飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」と考えている者は、自慢したいという回答の割合が高くなっている。

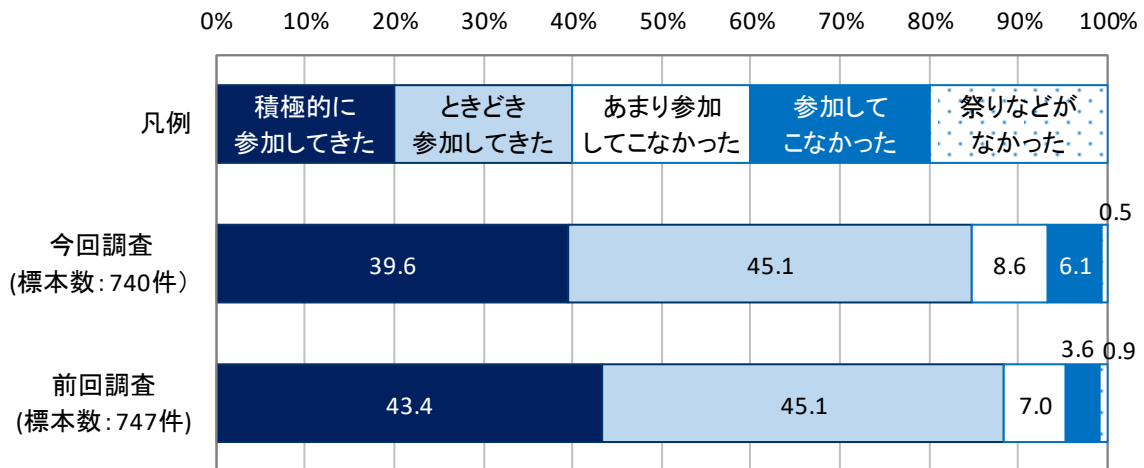
図表 141 市内就職意向別・Uターン意向別
高山市の様々なことを市外にお住まいの方に自慢したいか



(9) 地域の祭り等への参加状況や都会への憧れ

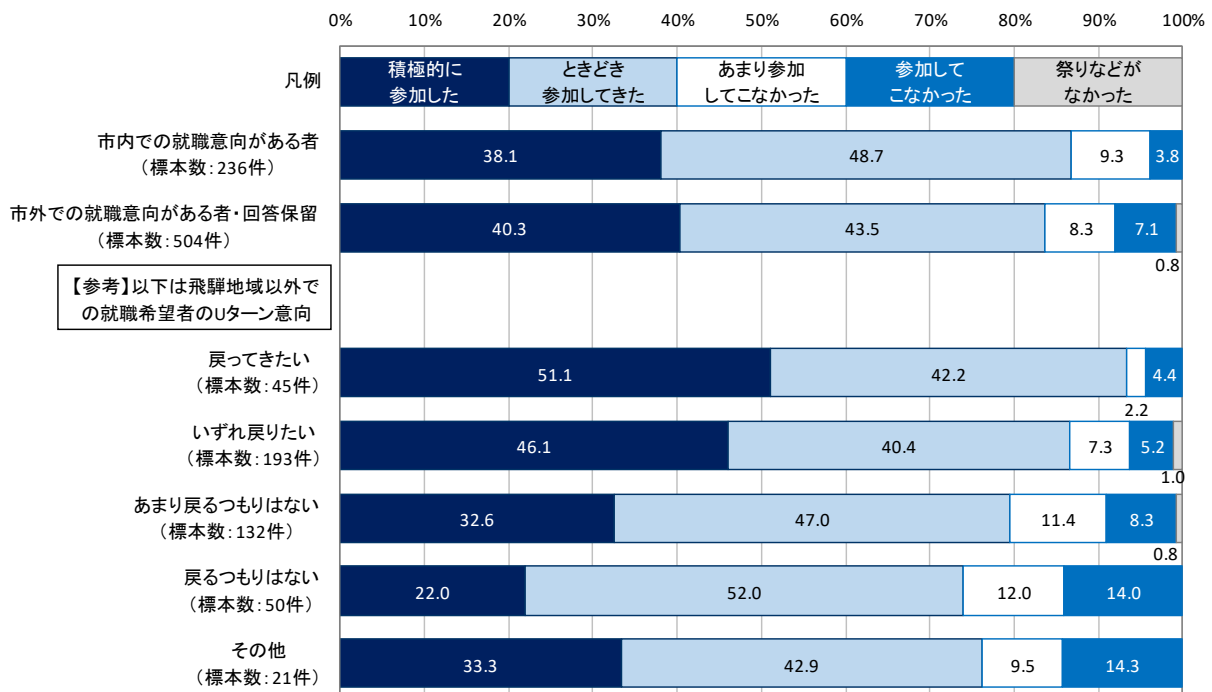
- 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況は、「積極的に参加してきた」が 39.6%、「ときどき参加してきた」が 45.1%で、合わせて 84.7%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。

図表 142 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況



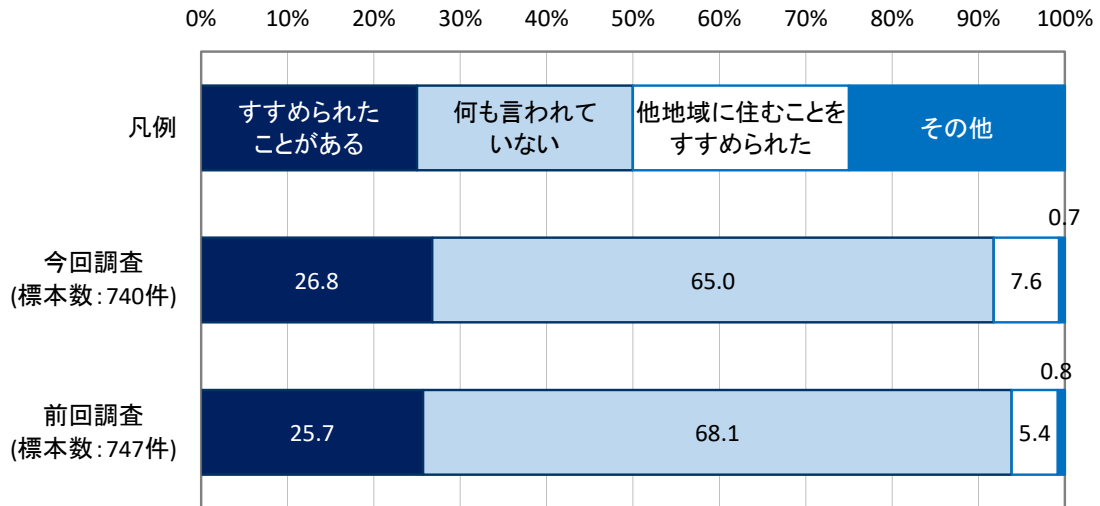
- 市内就職意向と子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況の関係をみると、市内就職意向がある者の方が参加経験（「積極的に参加してきた」「ときどき参加してきた」の合計）がやや高い。飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」と考えている者の方が、参加経験が高くなっている。

図表 143 市内就職意向別・Uターン意向別 子どもの頃からの地域の祭りや地域活動への参加状況



- 親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるかについては、「何も言われていない」が65.0%で最も高く、次いで「すすめられたことがある」が26.8%となっている。前回調査と同様の傾向となっている。

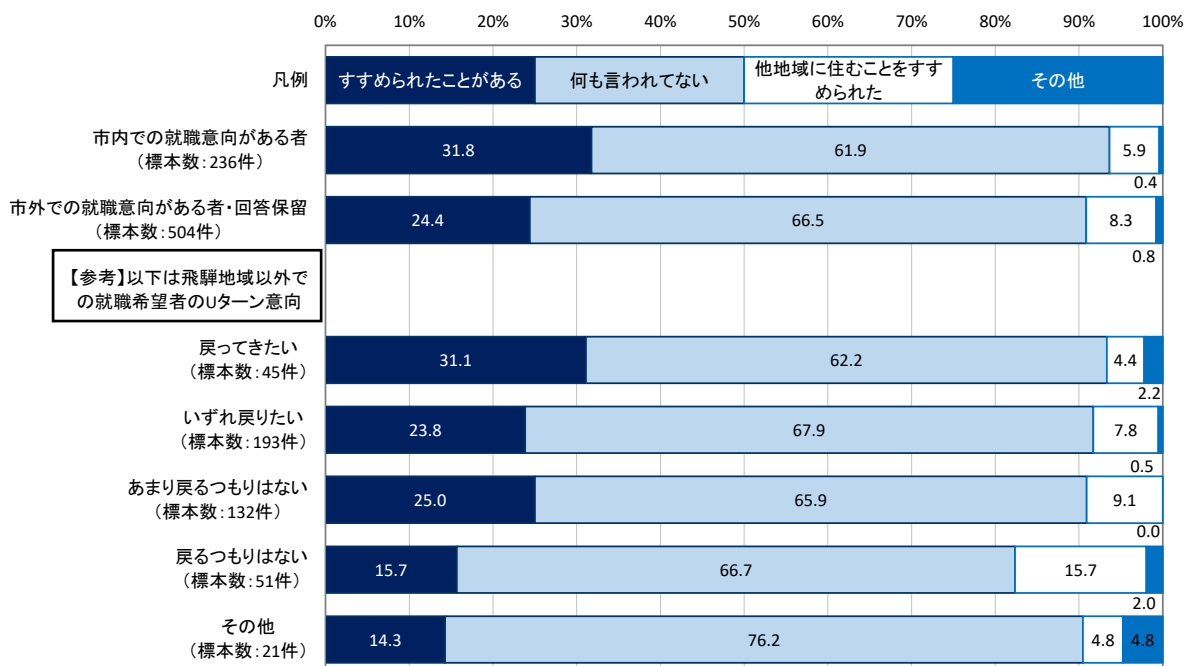
図表 144 親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるか



- 市内就職意向と親や親戚などから住み続けることをすすめられたこととの関係を見ると、市内就職意向がある者の方がすすめられた割合が高い。飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻ってきたい」と考えている者の方が、すすめられた割合が高くなっている。

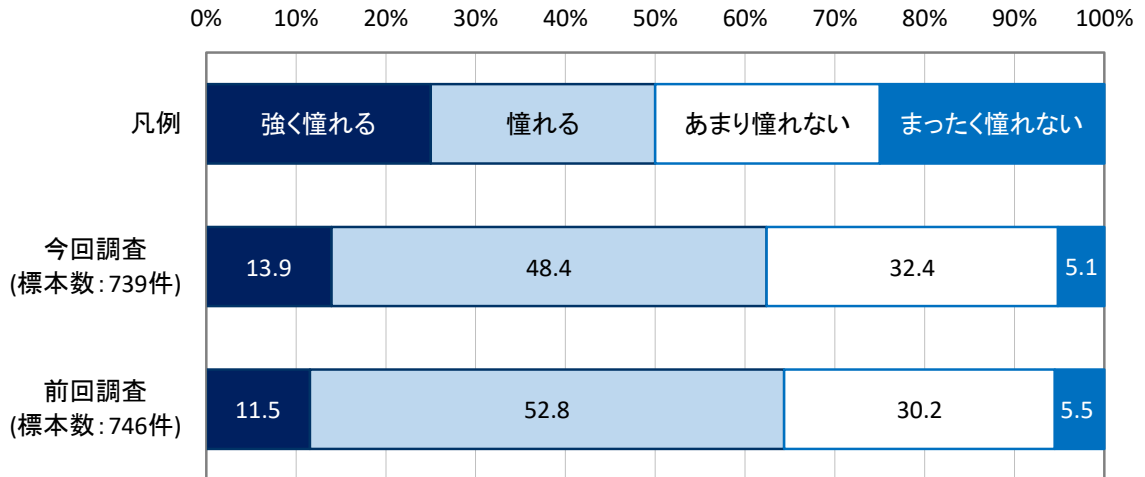
図表 145 市内
就職意向別・Uターン意向別

親や親戚などに、将来、今住んでいる地域に住み続けることをすすめられたことがあるか



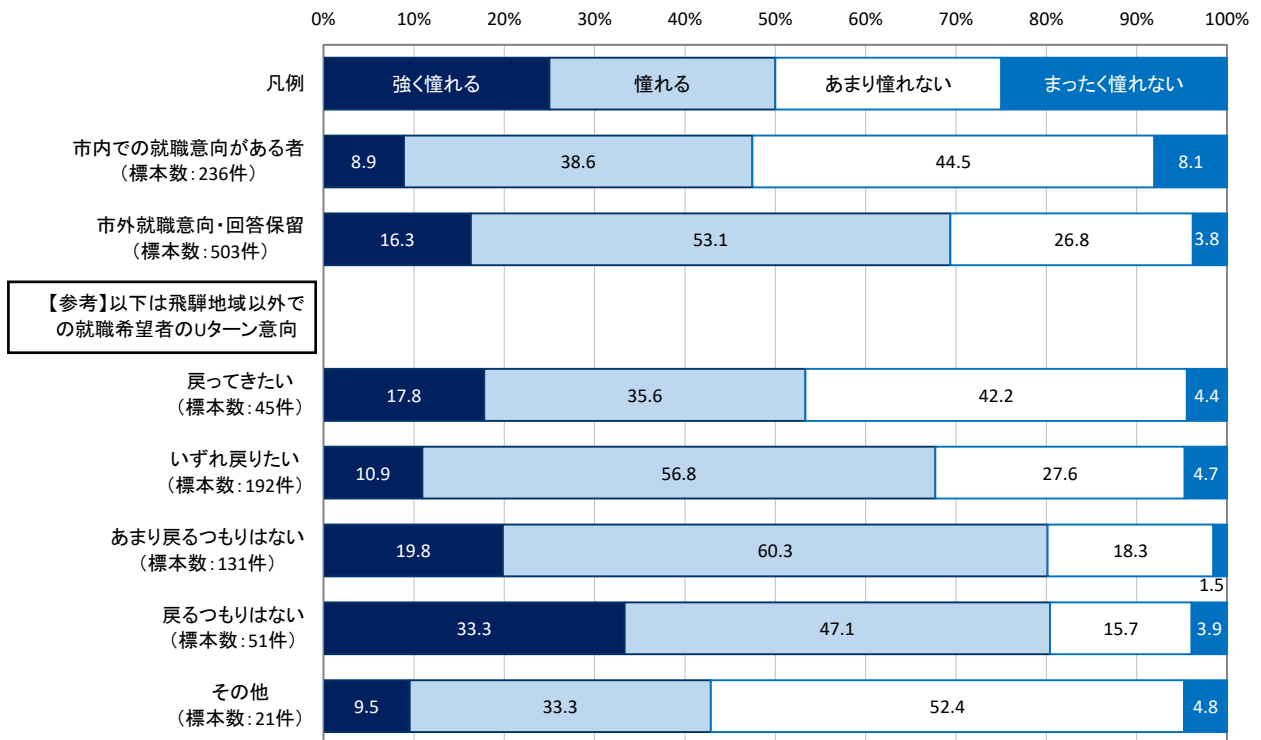
- 都会で暮らすことへの憧れは、「憧れる」が48.4%で最も高く、次いで「あまり憧れない」が32.4%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。

図表 146 都会で暮らすことへの憧れ



- 市内就職意向と都会で暮らすことへの憧れの間をみると、市内就職意向がある者の方が都会への憧れを感じている人は少ない。飛騨地域以外での就職希望者のUターン意向は、「戻るつもりはない」と考えている者の方が、都会への憧れが強い傾向にある。

図表 147 市内就職意向別・Uターン意向別 都会で暮らすことへの憧れ



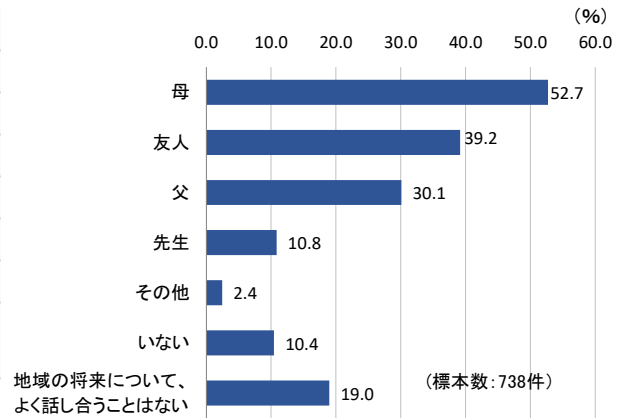
(10) 地域の将来や人口減少の実感、必要な取り組み

- 地域の将来について、よく話し合う人が身近にいるかについては、「母」が52.7%で最も高く、次いで「友人」が39.2%、「父」が30.1%、「先生」が10.8%の順となっている。

図表 148 地域の将来について、よく話し合う人が身近にいるか [複数回答]

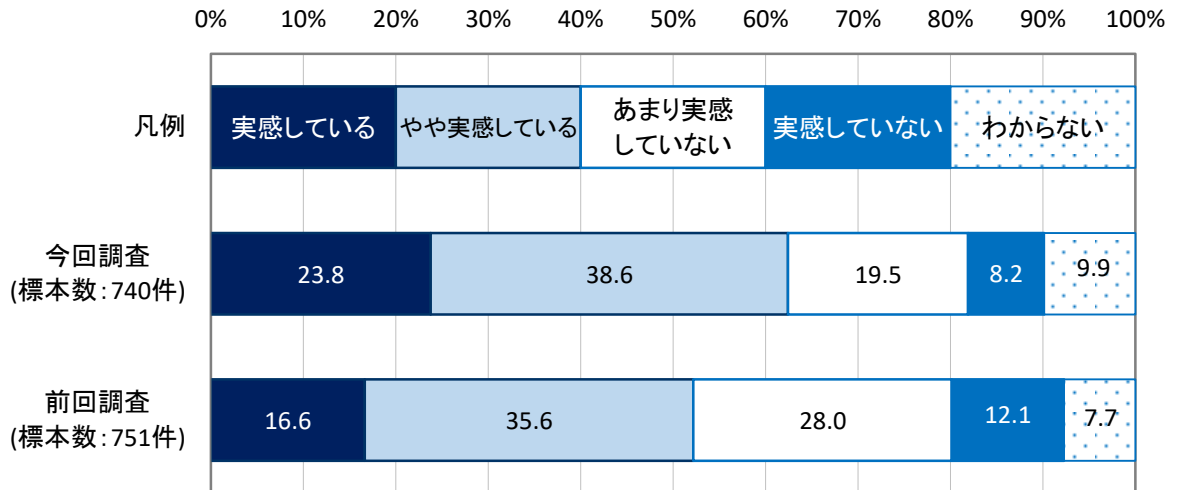
	回答数(件)	回答率(%)
母	389	52.7
友人	289	39.2
父	222	30.1
先生	80	10.8
その他	18	2.4
いない	77	10.4
地域の将来について、よく話し合うことはない	140	19.0

(標本数: 738件)



- 日々の生活の中で人口減少を実感するかについては、「実感している」が23.8%、「やや実感している」が38.6%で、合わせて62.4%が日々の生活の中で人口減少を実感しており、前回調査よりもその割合が高くなっている。

図表 149 日々の生活の中で人口減少を実感するか



● 大型店（ショッピングモール・娯楽施設等）の誘致

- ・ 遊べる施設を増やしてほしい。
- ・ 観光客を優先しすぎている。若い人も遊べる場所がほしい。
- ・ ショッピングモール、映画館があるとよい。
- ・ デパートをつくる。
- ・ 都会にあって高山にはないもの（映画館など）があると娯楽の面では、いいと思ってもらえるかもしれない。

● 若い人がいきいきと暮らせるまち

- ・ 若い人が好きなことをできる地域にする。
- ・ 若者が集まりやすい場所やイベントを開催する。
- ・ 若い人が高山に帰ってきても、何も言われぬ環境づくり。「若い人は都会に行く」という固定された考え方が根付いていることに、若者は違和感を覚える。だから、「高山に帰ってきて偉いね」とか言われぬ、そういう市にしていく必要がある。市長選の時もそうだったけど、「若い」という理由だけで「選挙きてくれてありがとうね」と言われたことに違和感があった。若者は戻ってきたいと思っている。それを受容する大人たちが変わればよい。

● 仕事・雇用の充実

- ・ 高山で雇用が増えればよい。
- ・ 高山にしかない仕事や魅力を活かすべき。
- ・ 仕事がしやすく、あたたかい職場環境。
- ・ 給料を全体的に上げる。
- ・ 安定した仕事があると戻ってくるのでは。
- ・ 大学へ行ったからこそできる仕事を増やす。

● 子育て環境の充実

- ・ 子育てしやすい地域であることをアピールする。
- ・ 若者が子育てしやすいような環境を作るといいと思う。

● 地域の魅力向上・発信

- ・ まちの人が優しく、地域づきあいがよいことをもっと PR する。
- ・ 地域のつながりが強いまちであることを発信する。
- ・ 今の住みやすいと思う地域の仲の良さや近所の仲の良さを続けていくこと。
- ・ 伝統を残し、大切にす。今ある資源や景観を壊さない。
- ・ 今ある高山の良さを大切にし、あたたかいまちをつくる。
- ・ 今までの「小京都」のイメージを残しつつ、IT なども活用して新しいことにも積極的に取り組むことで若い人も集まってくると思う。

5 考察

ここでは、3つのアンケートを基に、これらの現状・課題等を整理し、以下のとおり考察する。

(1) 結婚・子育ての現状・課題

①結婚に関する現状・課題・特徴

■未婚者の結婚意向が7.3ポイント減少

- ・未婚者の今後の結婚意向に関して「結婚するつもりがある」とする割合は、72.0%で前回調査から7.3ポイント減少している。
- ・年代別にみると、30代は前回調査と同等、微増であるが、20～24歳で前回調査から7.9ポイント(87.5%→79.6%)、25～29歳で13.5ポイント(90.0%→76.5%)、40～44歳で18.2ポイント(65.7%→47.5%)減少している。20代後半と40代前半で結婚への意向が大きく低下している。

■独身でいる理由は「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていない」が男女ともに最多

- ・独身でいる理由としては男女ともに「結婚を意識する相手にまだめぐり会っていない」が最も多い。
- ・2番目以降の独身でいる理由をみると、性別で違いが見られる。男性では「結婚生活のための資金がない」、「結婚後の経済的な生活設計に不安がある」という経済的不安が続く。一方、女性では「独身の場合、自由さや気楽さを感じる」との意見が2番目であり、経済的不安は低い傾向にある。

■結婚を希望する人への支援策は男女別に傾向が異なる

男性は「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」「出会いの場を提供すること」

女性は「子育て支援が充実していること」「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」

- ・結婚を希望する人への支援策は、男女別に重視することが異なる。特に「出会いの場を提供すること」と「子育て支援が充実していること」は、性差が大きい。

図表 150 【未婚者のうち結婚希望者】結婚を希望する人への支援策

順位	男性（標本数：66件）	回答率（%）	女性（標本数：70件）	回答率（%）
1	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	28.8	子育て支援が充実していること	24.3
2	出会いの場を提供すること	25.8	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	20.0
3	結婚しても働きつづけられるような職場環境を充実すること	15.2	結婚しても働きつづけられるような職場環境を充実すること	15.7
4	子育て支援が充実していること	12.1	結婚した方が有利となるような支援を行うこと	12.9
5	結婚した方が有利となるような支援を行うこと	4.5	出会いの場を提供すること	11.4
6	結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	0.0	結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	1.4
—	特になし	6.1	特になし	4.3
—	わからない	7.6	わからない	8.6
—	その他	0.0	その他	1.4

- ・出会いの場については、男女で傾向が異なり、女性のニーズが低く、実施方法等を慎重に検討す

る必要がある。

- ・ 女性は、子どもを育てることを想定している傾向がある。結婚する前から、結婚後・出産後の暮らしの変化や子育て環境について知る機会を持つなど、不安が少しでも軽減するよう働きかけることも有効と考えられる。
- ・ なお、市が開設している「結婚相談所」の認知度は 23.7%、「結婚ポータルサイト」の認知度は 12.1%でまだ浸透しておらず、さらなる周知が求められる。

②子育てに関する現状・課題・特徴

■子育てしやすさは平成 27 年度調査と同様の傾向

- ・ 高山市は子育てしやすいまちとする評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は、62.3%で前回調査と同様の傾向にある。子どもの人数別にみると、子どもが 1 人いる親で、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた評価が 6.0 ポイント増加（59.6%→65.6%）しており、改善が見られる。
- ・ 求めている子育て支援策は、「児童手当や扶養控除など子育てに対する経済的支援の充実」「教育費にかかる支援の充実」が、前回同様に高い。この傾向は子どもがいる回答者の方が高い傾向にある。
- ・ また経済的支援とあわせて、自由記述からは「遊び場・公園」に関する意見が多く見られた。高山市は自然豊かな環境にあるものの、大きな公園が少なく、経済的支援以外に施設などのハード面でも子育て環境の充実を求める意見があった。市域が広大であり、市街地、山間地によっても現状が異なるため、すべての地域で同条件の整備を進めることは難しいと思われるが、自然に恵まれた高山市の強みを生かした子育て環境の整備も強化していく必要があると考えられる。

■子育てと仕事の調査は平成 27 年度調査と同様の傾向

結婚・出産・子育て後も仕事を続けられる職場環境づくりはやや改善傾向にある

- ・ 「仕事と生活の調和はうまく取れている」という評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は 60.2%、「自身の職場は子育てする人にとって働きやすい」という評価（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）は 58.7%であり、前回調査と同様の傾向にある。職場の子育て環境については、子育て経験があり、子どもの人数が多い人ほど肯定的評価の割合が高い。
- ・ 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたことがある人は、前回調査から 5.9 ポイント減少しているが、仕事を辞めたことがある人のうち、「勤務先や仕事の状況から、働き続けるのが難しかったため」が前回調査より 6.5 ポイント増加しているため、職場環境の改善が求められる。

■最終的に持ちたい子どもの人数は 2.13 人であり（前回は 2.09 人）微増

理想とのギャップを埋めるためには、子育てや教育（特に高等教育）の費用の軽減が求められる

- ・ 前回調査から最終的に持ちたい子どもの人数は微増（2.09 人→2.13 人）している。理想とする子どもの人数は微減（2.64 人→2.51 人）したことにより、ギャップが小さくなっている。
- ・ 理想とする人数が最終的に持ちたい子どもの人数より少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が前回調査と同様に高くなっている。理想の人数の子どもを生み・育てるために必要な条件として「大学や専門学校等進学時の負担軽減」が最も高く、前回調査より 15.0 ポイント増加（35.0%→50.0%）している。

(2) 移住・定住に関する現状・課題

■Iターン者

- ・転入のきっかけは「就職・転職」「転勤・配属」など仕事に伴う理由が大半であるが、「移住（住みたい地域を探して引っ越した）」がやや増加
- ・定住意向が低く、冬の暮らしや移動手段など困りごとや不満の解消に向けた取組も重要
 - ・Iターン者が転入する前に「高山市は魅力的な地域と感じた（「そう思う」、「ややそう思う」の合計）」とする割合は54.4%で半数以上が転入前から魅力的な地域との印象を持っており、また前回調査よりも6.2ポイント増加（48.2%→54.4%）している。
 - ・転入したきっかけとして、「就職・転職」「転勤・配属」など仕事に伴う理由が大半であるが、「移住（住みたい地域を探して引っ越した）」が前回調査から5.3ポイント増加（6.5%→11.8%）している。
 - ・転入（移住）にあたり不安だったこととしては、「高山市に家族・知人・友人がいない」、「地域に溶け込めるか不安」が多く挙げられており、Iターン者の不安軽減に向け、移住経験者の情報発信などの取組が有効と考えられる。
 - ・高山市での定住意向では、30.0%が「高山市以外に移住したい」、34.7%が「定住するかどうかかわからない」と回答している。転入して困ったことは「雪や寒さなど冬の生活の厳しさ」「移動・公共交通利用」を挙げている。また、暮らしにくい点としても「冬の暮らしが大変」「交通の便が悪い」が上位にきている。情報提供や地域でのサポート等により、慣れない生活を支えていくことも重要である。

■Uターン者

- ・転出理由は「進学」が多く、転入理由は「就職・転職」が多い状況
- ・高山市での暮らしを希望して戻ってきた者が減少しており、移住後の暮らしでは収入面で課題を感じている人が多い
 - ・Uターン者の転出理由は「進学」が最多で、転入理由は「就職・転職」が多い状況である。Uターン者の戻ってきた際の心境として、「高山市で暮らしたかった」とする割合は46.9%で前回調査から8.7ポイント減少している。「住む地域にこだわりはない」とする回答が8.0ポイント増加し、30.2%となっていることから、高山市を選んで戻ってきた者が減少している。
 - ・Uターン後の生活の変化では、「仕事における収入」が悪化した（「やや悪くなった」、「とても悪くなった」の合計）とする回答が56.8%と半数以上となっている。前回調査同様、高い水準である。
 - ・転入のきっかけは「就職・転職」が最多であるが、転入時の心配ごととして「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかった（なかった）」「転職することにより収入が減ること」が最も多く挙げられており、収入面や職種が必ずしも希望に添うものでなかった者が多いと考えられる。
 - ・暮らしにくい点として「賃金が低い」という回答が多く、Uターン者は収入面で課題を感じている傾向にある。

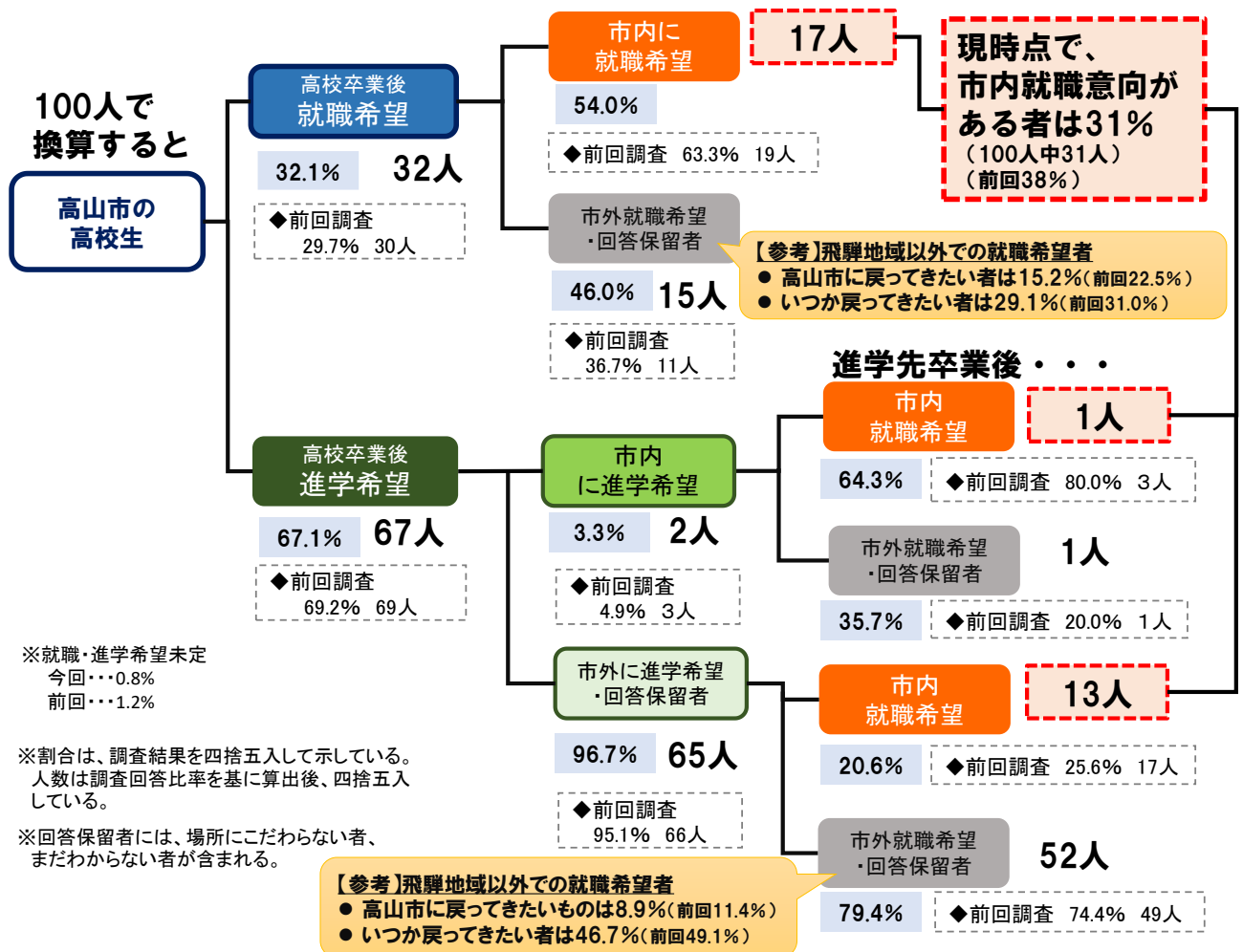
(3) 高校生の地元への就職意向等の現状・課題

① 地元への就職意向

■ 地元への就職意向は、全体の31%と前回よりも低下

- ・ 飛騨地域の高校及び特別支援学校高等部に通う本市在住の生徒のうち、高校卒業後に就職を希望する者は32.1%、進学を希望する者は67.1%である。
- ・ 高校卒業後に就職を希望している者のうち、高山市内に就職を希望する割合は54.0%と半数を超えているものの、前回調査と比較すると9.3ポイント減少している。飛騨地域以外での就職希望者における飛騨地域に戻る意向がある割合をみると、「戻ってきたい」が15.2%、「いずれ戻りたい」が29.1%で、合わせて44.3%である。前回調査では53.5%であり、9.2ポイント減少している。
- ・ 高校卒業後に進学を希望している者のうち、高山市外への進学希望・回答保留者の割合は96.7%である。市外進学希望者・回答保留者のうち、市内就職希望者は20.6%、市外就職希望者は79.4%となっている。
- ・ アンケートにおける比率をもとに100人で換算すると、現時点で市内就職意向を示しているのは100人中31人である。

図表 151 高校生アンケート調査をもとにした地元への就職意向



② 高校生の地元企業への関心

■ 就職希望者の市内企業の認知度は 55.6%

- ・ 住んでいる地域の会社や仕事について、高校卒業後に就職を希望する者では半数以上が「知っている（「よく知っている」、「知っている」の合計）」と回答しており、ある程度認知されている。市内企業が参加する就職ガイダンスや職場見学会への参加意向・関心度は半数以上となっていることから、市内企業の魅力ややりがいなどの訴求力をより高めるとともに、高校生にとって働きたいと感じるよう職場環境・労務環境等の改善を引き続き行っていく必要があると考えられる。

■ 進学希望者の市内企業や仕事の認知度が低く、 市内で働くイメージが持てないまま、市外へ進学する者が多い

- ・ 進学希望者では、市内の会社や仕事について「あまり知らない」が 68.3%、「まったく知らない」が 9.3%で、あわせて 77.6%となっている。
- ・ 進学希望者の就職ガイダンスへの参加意向は 33.9%、市内企業を対象とした職場見学会への関心度（「とても関心がある」、「やや関心がある」の合計）は 47.4%である。少しでも市内にどのような仕事・企業があるかを知ってもらい、就職時の選択肢となるよう、継続的に働きかけを行う必要がある。
- ・ 進学希望者が仕事を選択するうえで重視することとして、「仕事の面白さ・やりがい」のほかに「自分の技能、経験を生かせること」も多く挙げられていることから、進学で得た知識をどのように活かせるかに関心があるため、学んだことを活かして活躍できる仕事、企業が市内にあることを PR することも重要である。

③ 高校生の高山市に対する評価

■ 地域の住みやすさや愛着などが低下

- ・ 地域の住みやすさに対して「そう思う」とする回答が 40.4%で、前回調査の 52.6%から 12.2 ポイント減少している。地域への愛着についても、「とても感じる」とする回答が 30.2%で、前回調査の 37.9%から 7.7 ポイント減少しており、地域への評価、好意的な印象がやや低下傾向にあると考えられる。

■ 地元就職意向や市外就職後の U ターン意向と地域の住みやすさや愛着は関係性があり、地域の良さを感じる機会の創出が重要

- ・ 「地元就職意向」や「市外就職後の飛騨地域への U ターン意向」の高さと、地域に対する愛着や住みやすさ、自慢できるか等の肯定的な回答比率の高さには関係性が見られた。
- ・ 地域のお祭りや地域活動の参加率と市外就職後の飛騨地域への U ターン意向の高さにも、同様の関係性が見られた。
- ・ 子どもの頃から、地域と関わる経験や地域の将来について話し合う機会、地域の魅力を知る機会など、高山の良さを知ることによって、市内への定住意向が高まる可能性がある。

■生活の中での人口減少の実感増加

- ・生活の中で人口減少を実感するかに対しては、「実感している」、「やや実感している」の合計が62.4%で、前回調査から10.2ポイント増加しており、日々の生活の中で人口減少による様々な変化を感じている生徒が増えている。
- ・人口が減少していく中で、地域をどのように維持しようと考えているかなどについて、行政から高校生への情報発信を強化し、そのためのアイデア収集や意見交換の機会を設けるなど、これまで以上に地域の住みやすさや存続を考える取り組みを強化していくことが必要と考えられる。